

平成 19 年

神奈川県感染症



神奈川県衛生研究所

はじめに

平成 19 年は、神奈川県では 5 月から 6 月にかけて社会的に大きな影響を及ぼした麻しんの流行をはじめ、高病原性鳥インフルエンザや新型インフルエンザ対策など、感染症に対する危機管理体制の重要性が再認識される事例が多くありました。今後も、国際的な交流によるデング熱・マラリアなどの輸入感染症の増加や新たな感染症への対応、またバイオテロ対策など、感染症対策はより重要性を増していくと考えられます。

国では「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）が改正され、感染症の類型の見直しに伴い、平成 19 年 4 月からは二類感染症に新たに結核が追加されました。

こうしたなかで神奈川県衛生研究所では、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページやパンフレット等による情報発信や研修など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々努めております。

『神奈川県の感染症』は、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター、相模原市衛生試験所及び藤沢市保健所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報、関連調査及び研究報告等を収録したものです。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

最後に、『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 20 年 7 月

神奈川県衛生研究所長

今 井 光 信

目 次

はじめに

平成 19 年のトピックス ～ 神奈川県における麻しんの流行（神奈川県衛生研究所）～ 1

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	2
2 定点把握の対象疾患	
(1) 定点	5
(2) 週報対象疾患	6
(3) 月報対象疾患	17

II ウイルス性感染症

1 インフルエンザ

(1) 概況	21
(2) 神奈川県(横浜市及び川崎市を除く)の インフルエンザの動向(神奈川県衛生研究所)	22
(3) 横浜市のインフルエンザの動向(横浜市衛生研究所)	23
(4) 川崎市のインフルエンザの動向(川崎市衛生研究所)	27
(5) インフルエンザ感受性調査(神奈川県衛生研究所)	29

2 HIV/エイズ

(1) 神奈川県の HIV/エイズの概況	31
(2) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)における HIV 検査の実施状況	32

3 ウイルス性感染性胃腸炎

(1) 概況	34
(2) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の ウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(神奈川県衛生研究所)	35
(3) 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(横浜市衛生研究所)	35
(4) 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(川崎市衛生研究所)	37
(5) 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(横須賀市健康安全科学センター)	37
(6) 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(相模原市衛生試験所)	38
(7) 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果(藤沢市保健所)	38

4 ウエストナイル熱

(1) 概況	39
(2) 横浜市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス(横浜市衛生研究所)	39
(3) 川崎市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス(川崎市衛生研究所)	40
(4) 横須賀市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス(横須賀市健康安全科学センター)	41

5	その他のウイルス性感染症	
(1)	日本脳炎	
ア	概況	42
イ	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の 日本脳炎感染源調査(神奈川県衛生研究所)	42
(2)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の 麻疹抗体保有状況(神奈川県衛生研究所)	42
(3)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の 風疹抗体保有状況(神奈川県衛生研究所)	43
III	細菌性感染症	
1	腸チフス・パラチフス	
(1)	概況	44
(2)	横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果(横浜市衛生研究所)	44
(3)	川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果(川崎市衛生研究所)	44
2	細菌性腸管系感染症	
(1)	概況	45
(2)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の 腸管出血性大腸菌の分離状況(神奈川県衛生研究所)	45
(3)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の 赤痢菌の検出状況(神奈川県衛生研究所)	46
(4)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の散発下痢患者から の病原菌検出状況	46
(5)	川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況(川崎市衛生研究所)	47
(6)	横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況(横須賀市健康安全科学センター)	48
(7)	相模原市の腸管病原菌検出状況(相模原市衛生試験所)	49
(8)	藤沢市の二類及び三類感染症発症者の家族等の病原菌検出状況(藤沢市保健所)	49
3	河川等の環境調査	
(1)	概況	50
(2)	川崎市の河川等の環境調査(川崎市衛生研究所)	50
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
(1)	概況	51
(2)	A群溶血性レンサ球菌の分離およびT型別成績(神奈川県衛生研究所)	51
(3)	川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(川崎市衛生研究所)	52
5	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の QFT検査結果(神奈川県衛生研究所)	54
IV	その他の感染症	
1	つつが虫病	
(1)	概況	55
(2)	神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)で発生した つつが虫病(神奈川県衛生研究所)	56

[資料]

資料1	平成19年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	57
資料2	病原微生物検出状況	
1	ウイルス検出概況	58
2	病原細菌検出概況	59
3	ウイルス検出状況表	60
4	病原細菌検出状況表	69
資料3	予防接種実施状況	73
資料4	神奈川県感染症機関一覧表	74

平成19年のトピックス

～ 神奈川県における麻しんの流行 ～

神奈川県衛生研究所

2007年は、5月から6月にかけて10歳代～20歳代を中心に全国的に麻しんが流行し、高校や大学での学級閉鎖、学校閉鎖など社会的に大きな影響を及ぼした。神奈川県においても、近年で最も大きな流行がみられ、社会問題となった。

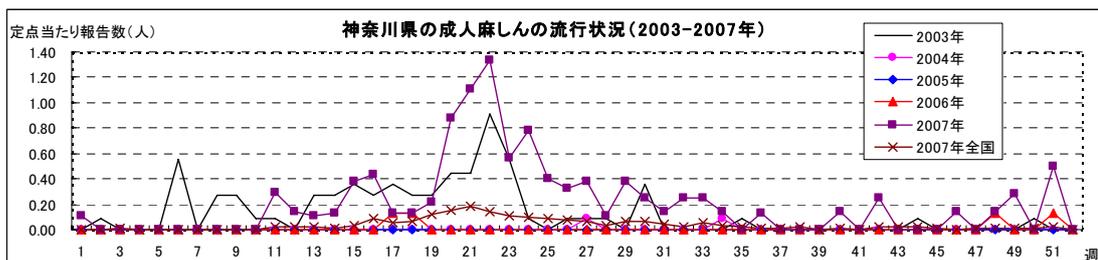
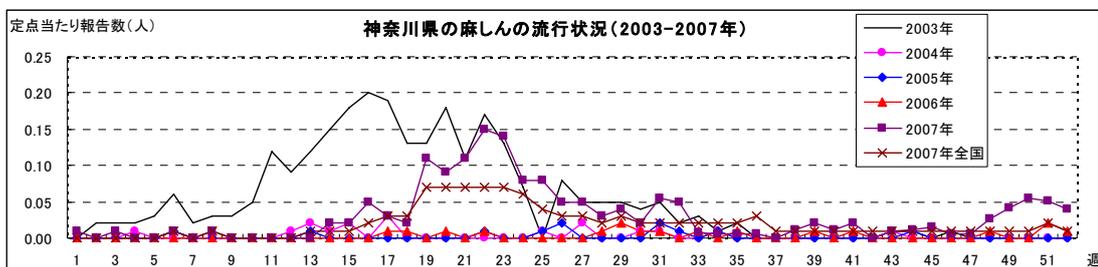
感染症発生動向調査において、15歳未満の症例は麻しん、15歳以上の症例は成人麻しんとし、いずれも五類定点把握対象疾患として定められており、麻しんは県内208ヶ所の小児科定点から、成人麻しんは県内11ヶ所の基幹定点からの報告をもとに、集計がおこなわれた。

麻しん、成人麻しんの報告数は2003年以降減少傾向にあったが、2007年は、麻しんは第13週(3/26-4/1)から、成人麻しんは第11週(3/12-3/18)から報告数の増加がみられ、いずれも第22週(5/28-6/3)にピークを迎えた。その後減少したが、散発的な報告がつづき、第47週(11/19-11/25)からは、再び増加した。

神奈川県内においても35施設の学校閉鎖、学級閉鎖が報告され、乳幼児が流行の中心であった以前と異なり、中高生から大学生を中心に流行がみられた。学校等での集団生活や行動範囲が広いことなどが流行をより拡大させたものと考えられる。予防接種歴のない人たちが多く罹患していたが、乳幼児期に麻しん含有ワクチン予防接種の既往があった人でも、麻しんに対する免疫の低下がみられ、感染・発病する例も多くあった。

こうしたなかで、世界保健機関(WHO)が目標とする西太平洋地域からの2012年麻しん排除にともない、日本でも目標を達成するために、2007年8月厚生労働省において「麻しん排除計画」が策定された。感染症発生動向調査についても2008年1月からは、麻しん、成人麻しんの区別をなくし、すべて麻しんとして五類全数把握対象疾患に変更し、麻しんと診断した場合には、すべての医師が報告することとなった。2008年4月からは予防接種の2回接種推進のために、2006年度から実施されている第1期、第2期の麻しん含有ワクチン定期予防接種に加え、5年間の期限付きで、第3期、第4期の定期予防接種が実施されることとなった。また、学校や各施設においても、麻しんの流行拡大を防ぐためのガイドラインが作成されており、予防接種率の向上とともに各関係機関の麻しん対策のより一層の充実が求められている。

(近内 美乃里)



I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。感染症分類は、感染症法等に規定されているが、感染症法の改正(平成 19 年 4 月 1 日施行)に伴い、追加された感染症の累計は平成 19 年 4 月分から、また、変更のあった感染症の累計は平成 19 年 3 月分までの旧分類での累計を含めて、改正後の感染症分類とした。

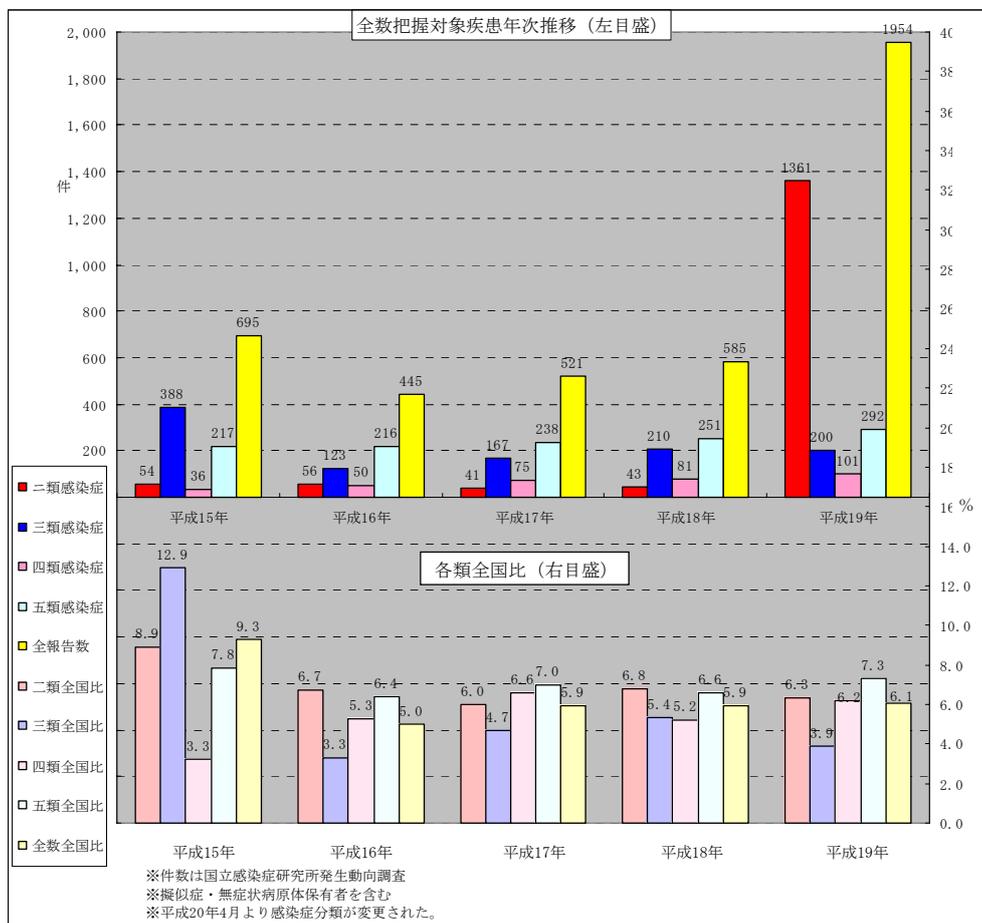
1 全数把握対象疾患

感染症法の改正（平成 19 年 4 月 1 日施行）により二類感染症に結核が新たに追加されたため、平成 19 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、1954 件と前年より大幅に増加した。

類別では、二類感染症 1361 件、五類感染症 292 件、三類感染症 200 件、四類感染症 101 件であった。平成 19 年報告総数の全国に占める割合は、前年と同様の 6.1%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 0.7 ポイント増加し 7.3%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1 「平成 19 年全数把握対象の感染症保健所別報告数」（資料 57 ページ）を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

平成 19 年 4 月からの累計で結核 1361 件であった。その他の疾患の報告はなかった。

《三類感染症》

腸管出血性大腸菌感染症は前年よりも減少し、175 件であった。横浜市で多数を占めた（表 1）。

細菌性赤痢、腸チフスは前年よりも減少し、コレラの報告はなかった。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年							全国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(横 須 賀 市)	(相 模 原 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
コレラ	3	7	6	5								13
細菌性赤痢	38	37	27	27	21	8	5	2		1	5	452
腸管出血性大腸菌感染症	388	123	167	210	175	86	40	7	10	2	30	4605
腸チフス	3	6	2	10	1	1						47
パラチフス	10	6	6	1	3	2	1					22
合 計	54	56	41	43	200	97	46	9	10	3	35	5139

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスについては、平成19年4月より法改正のため三類感染症に分類変更となった。累計については、旧分類によるものも含めている。

《四類感染症》

8 疾患の報告があり、報告数は前年よりも 20 件増加して 101 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で前年より 18 件増加し、43 件で、続いてつつが虫病 27 件であった。市・域別では県域が 36 件、横浜市が 47 件であった。

表

2
四類
感染
症報
告数
(件)

疾患名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年							全国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(横 須 賀 市)	(相 模 原 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
17 E 型肝炎			2	8	3	1	1				1	56
18 ウエストナイル熱（脳炎を含む）			1									
19 A 型肝炎		8	11	13	12	8	1				3	156
22 オウム病	5	2	1	2	3					2	1	30
26 Q 熱			1									7
27 狂犬病				1								
28 コクシジオイデス症		1	2									3
34 つつが虫病	10	19	22	15	27	1					26	382
35 デング熱	2	5	5	7	9	7					2	89
49 マラリア	12	8	10	9	3	1			1		1	52
51 ライム病	1			1								12
55 レジオネラ症	6	6	19	25	43	28	4	6	2	1	2	667
56 レプトスピラ症		1	1		1	1						35
合 計	36	50	75	81	101	47	6	6	3	3	36	1,625

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上

《五類感染症》

12 疾患の報告があり、報告数は 41 件増加し 292 件であった。最も報告の多かった疾患は後天性免疫不全症候群で前年より 10 件増加し 93 件、続いてアメーバ赤痢 80 件であった。梅毒が前年よりも 24 件増加し 46 件であった。市・域別では、県域が 69 件、横浜市が 134 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年							全国
	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(横 須 賀 市)	(相 模 原 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
59 アメーバ赤痢	48	52	63	80	80	49	7	2	5	2	15	800
60 ウイルス性肝炎	32	14	20	14	15	3	2	1		2	7	236
61 急性脳炎	1	2	4	4	5	2	2		1			227
62 クリプトスポリジウム症			2	2	1						1	6
63 クロイツフェルト・ヤコブ病	4	11	14	10	9	5			1		3	155
64 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	3	5	11	4	3	1	1	1	1	98
65 後天性免疫不全症候群	85	86	69	83	93	43	16	3	6	4	21	1,494
66 ジアルジア症	20	9	24	10	8	5		1	1		1	57
67 髄膜炎菌性髄膜炎	5	3	1	3	1						1	17
68 先天性風しん症候群		1										
69 梅毒	10	24	27	22	46	15	13	4	2	1	11	737
70 破傷風	2	4	3	7	6	2	2		1		1	89
72 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	5	8	11	17	6	1		3		7	82
合計	217	216	238	251	292	134	46	12	21	10	69	3,999

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上

2 定点把握の対象疾患

(1) 定点

定点把握の対象疾患の情報は、予め指定した医療機関から報告され、その医療機関のことを定点という。定点の数は人口に応じて決められている。定点は5種類あり、報告する疾患が分かれている。神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	計
インフルエンザ定点	137	139	54	330
小児科定点	87	84	33	204
眼科定点	19	15	7	41
STD（性感染症）定点	28	26	7	61
基幹定点	6	3	2	11

○インフルエンザ定点

対象疾患名：インフルエンザ（鳥インフルエンザを除く）

○小児科定点

対象疾患名：RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・風しん・ヘルパンギーナ・麻しん（成人麻しんを除く）・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名：急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○基幹定点

対象疾患名：クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・成人麻しん・無菌性髄膜炎・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

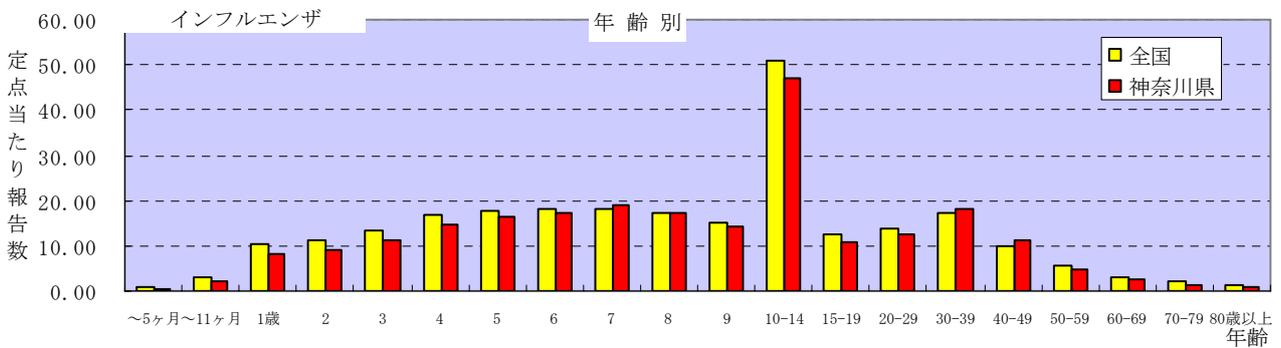
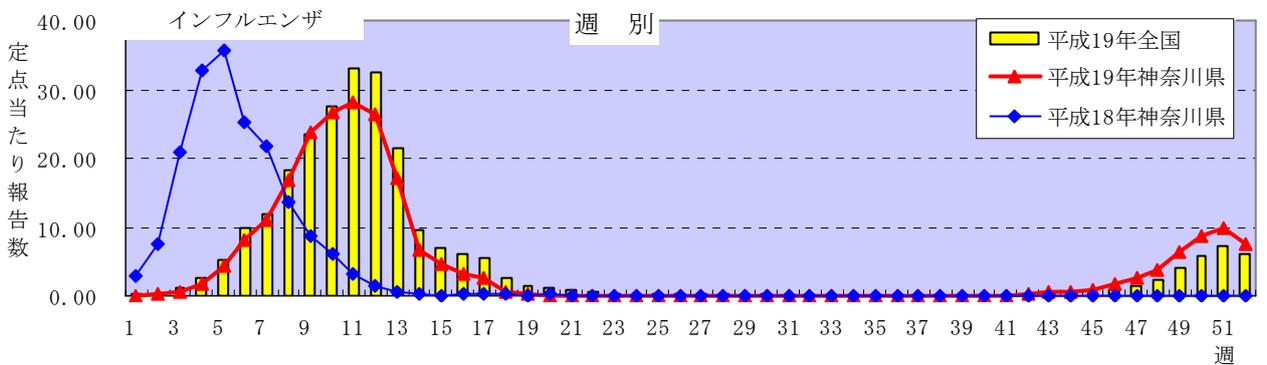
○STD定点

対象疾患名：性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全県）

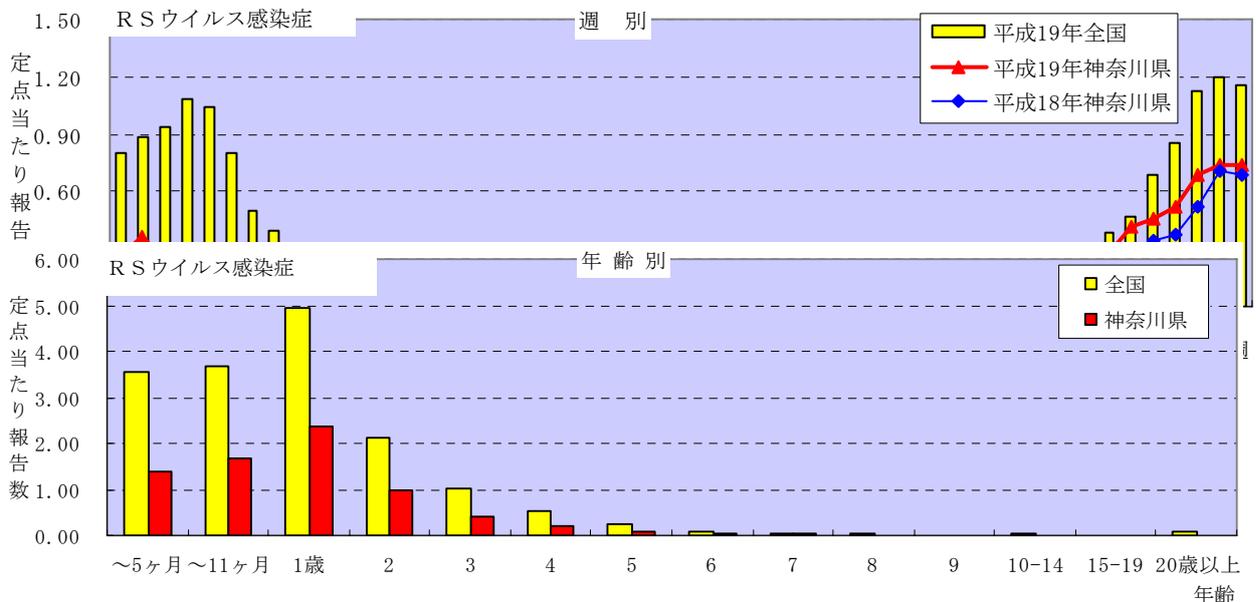
インフルエンザ

例年よりも遅い第 11 週に流行のピークがみられ、速やかに減少した。年末には、例年より早い第 45 週から報告数の増加がみられた。年齢別では、10-14 歳に報告が多くみられた。



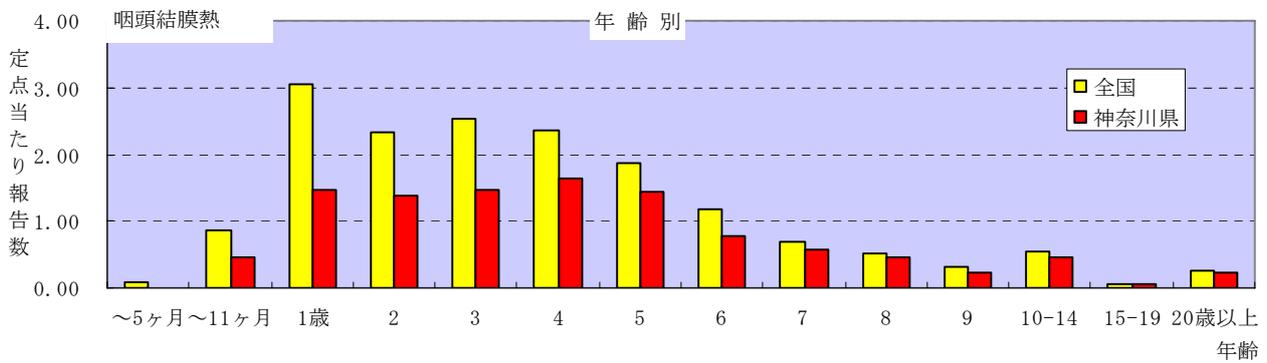
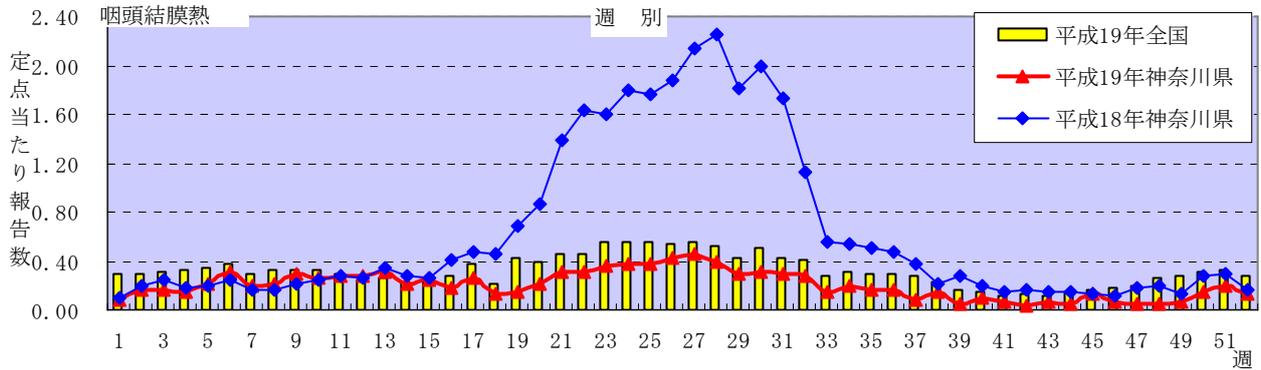
RSウイルス感染症

1歳以下の乳児を中心に昨年より報告が多くあり、第51週に流行のピークがみられた。



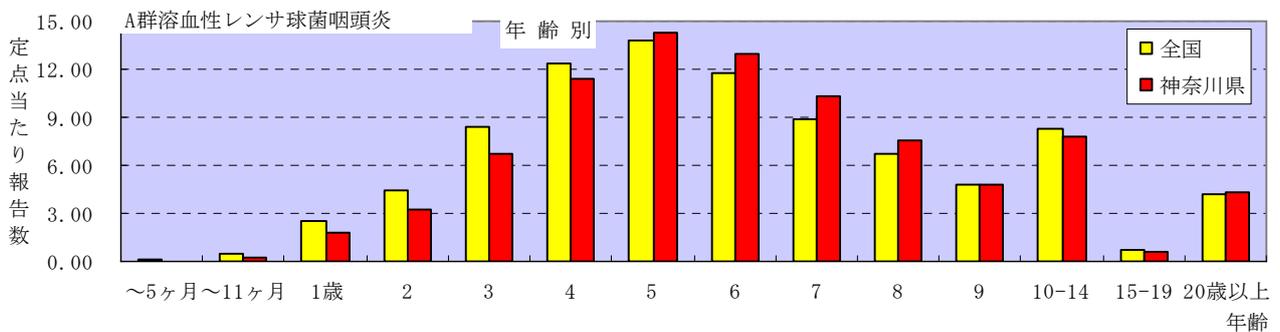
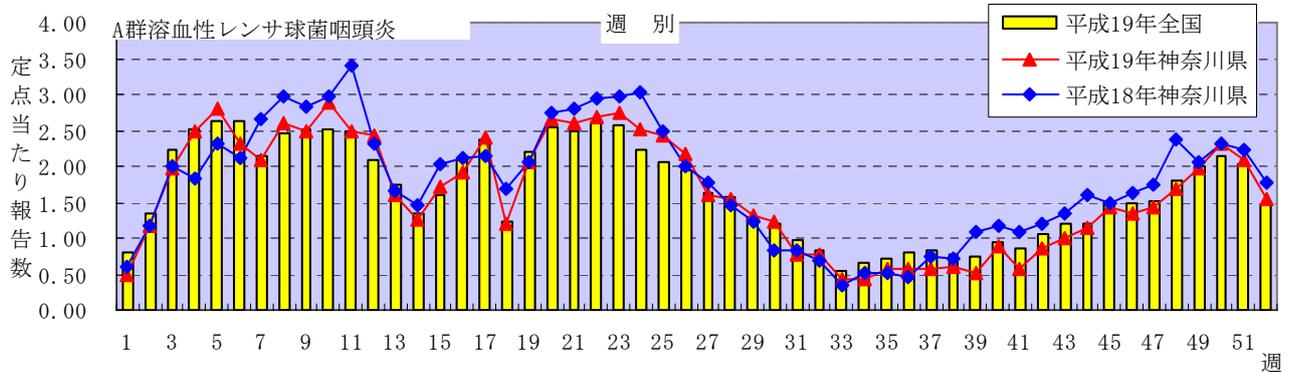
咽頭結膜熱

大きな流行がみられた昨年より報告数は少なく、明らかな流行のピークはみられなかった。



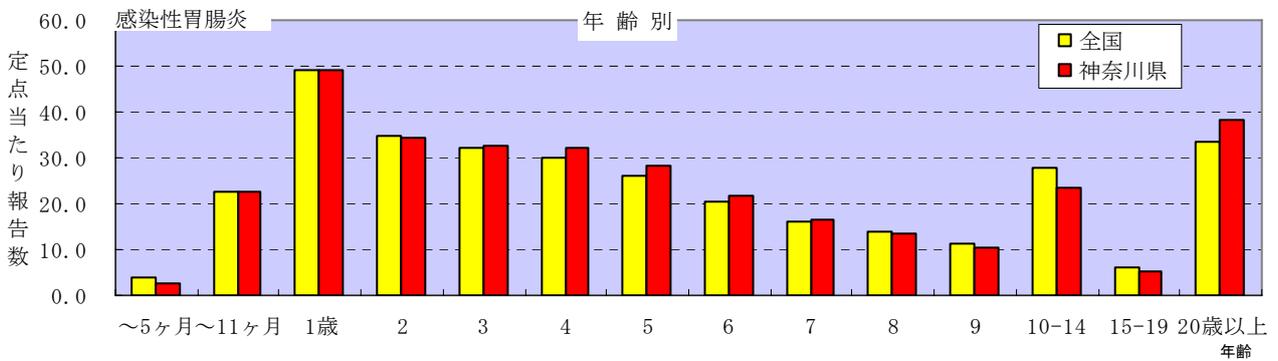
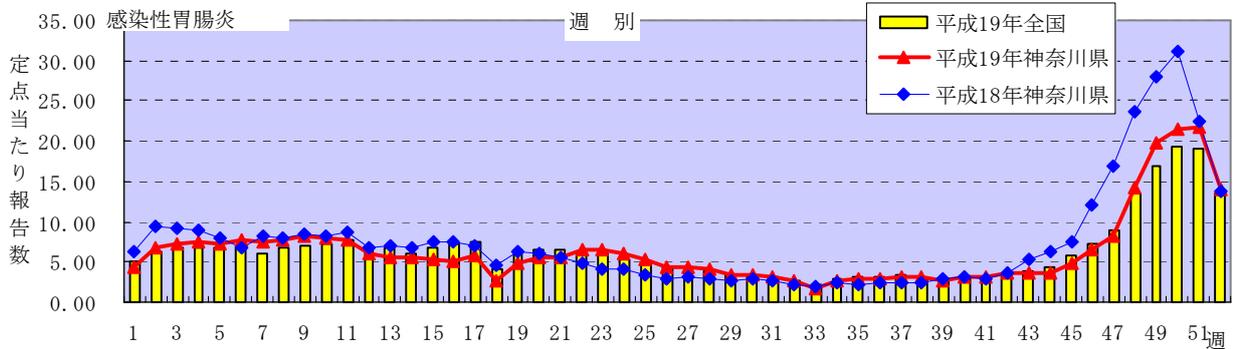
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

4～6歳に報告が多くあり、昨年と同様に、冬～春、初夏、年末の三峰性の報告数の増加がみられた。



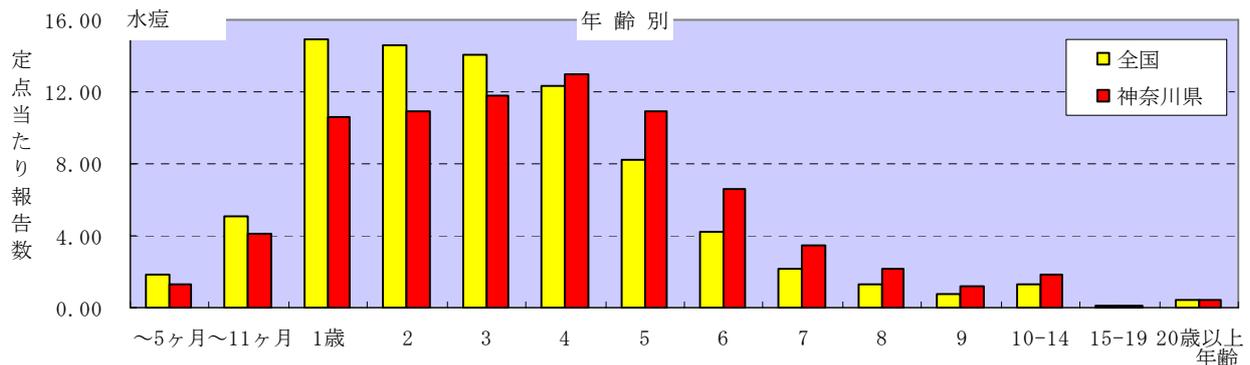
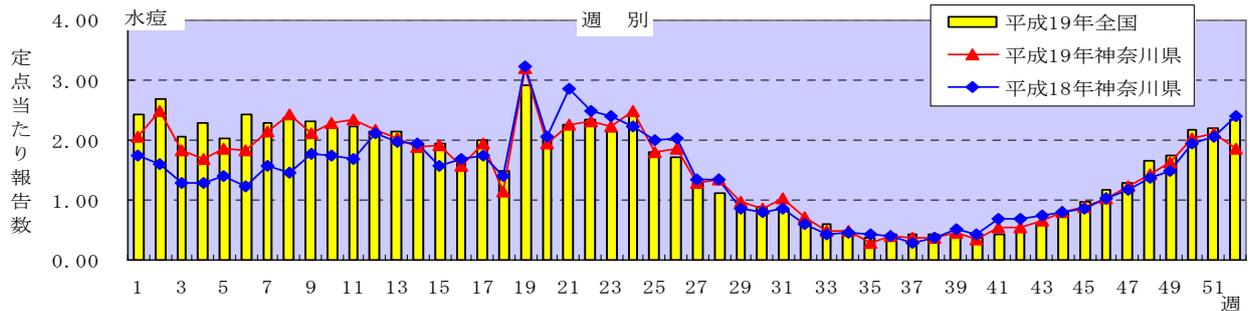
感染性胃腸炎

大きな流行がみられた昨年よりも報告数は少なく、第51週に流行のピークがみられた。年齢別では、1歳に最も多く報告がみられた。



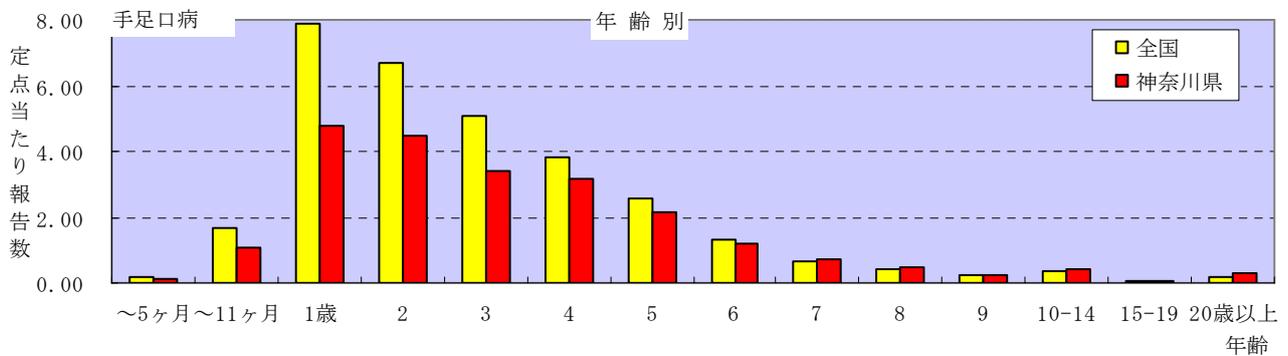
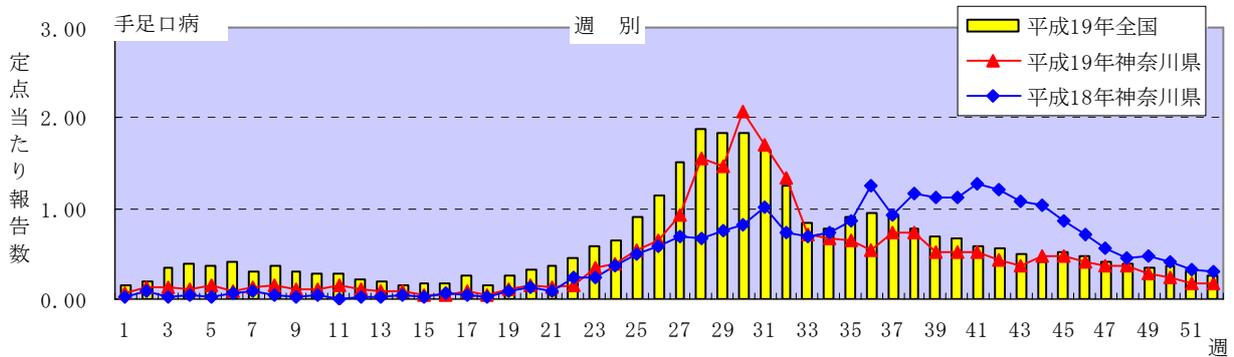
水痘

全国的には、1~3歳に報告が多くみられたが、本県では4歳に報告が多くみられた。報告数は昨年と同様で、8~11月には報告数が減少した。



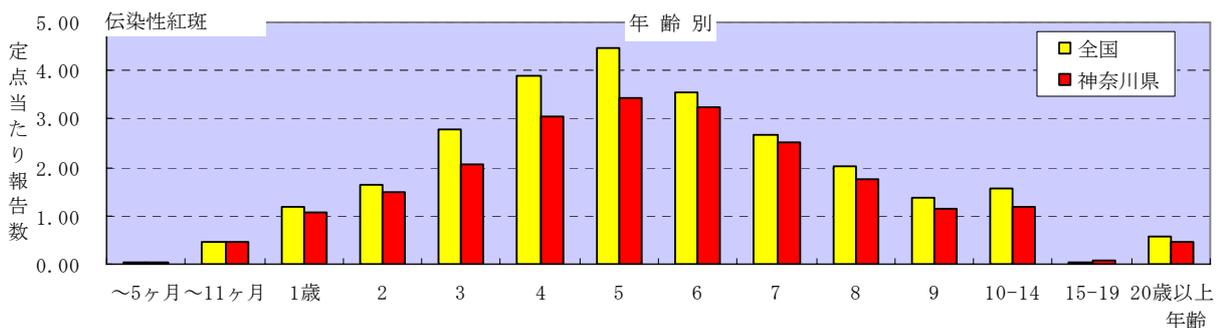
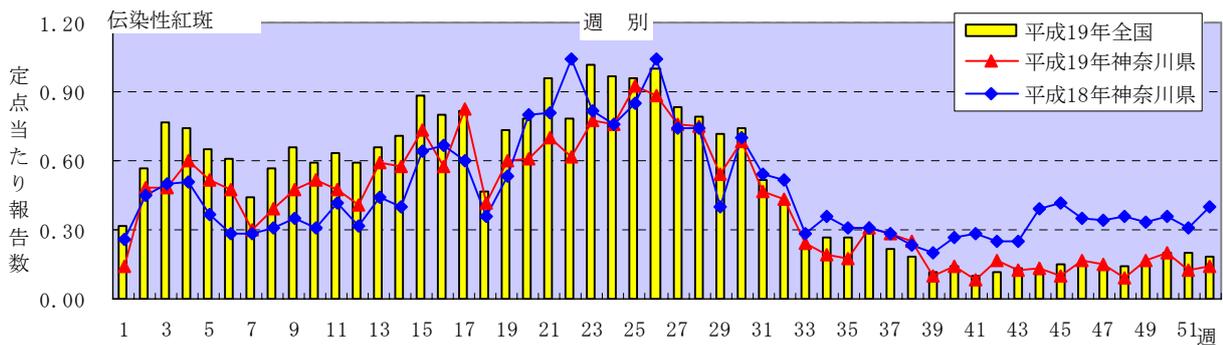
手足口病

1～4歳に報告が多くみられた。第30週に流行のピークがみられたが、8月以降は昨年より少ない報告数で推移し、報告数は昨年と同様であった。



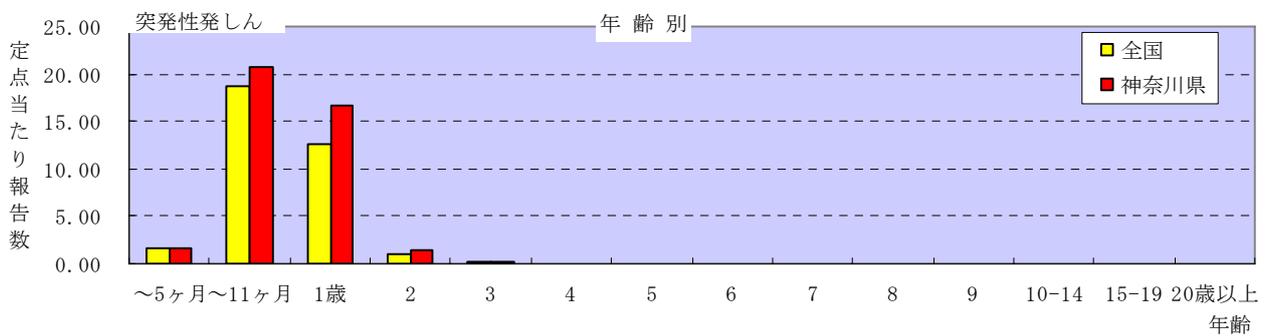
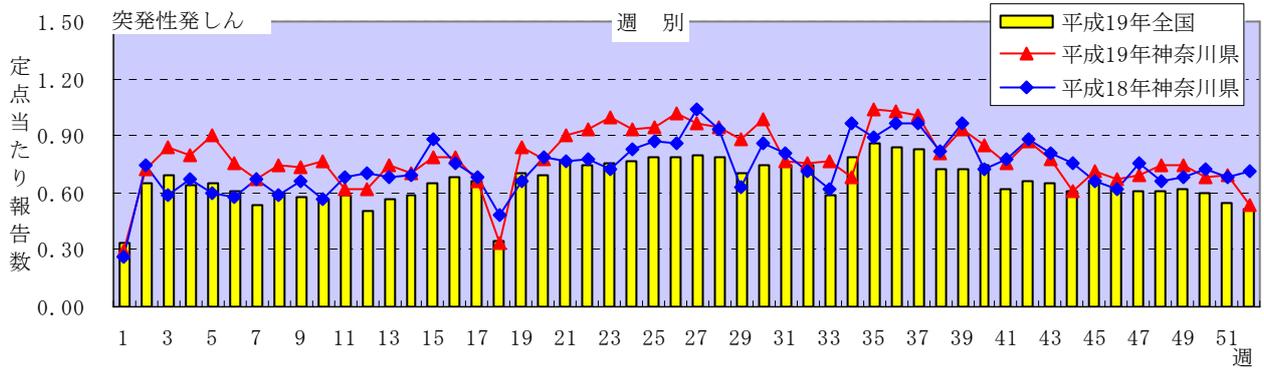
伝染性紅斑

5～6歳に報告が多くみられ、年当初は昨年よりも多い報告数で推移したが、7月以降は昨年より少ない報告数であった。全体的には、昨年より少ない報告数であった。



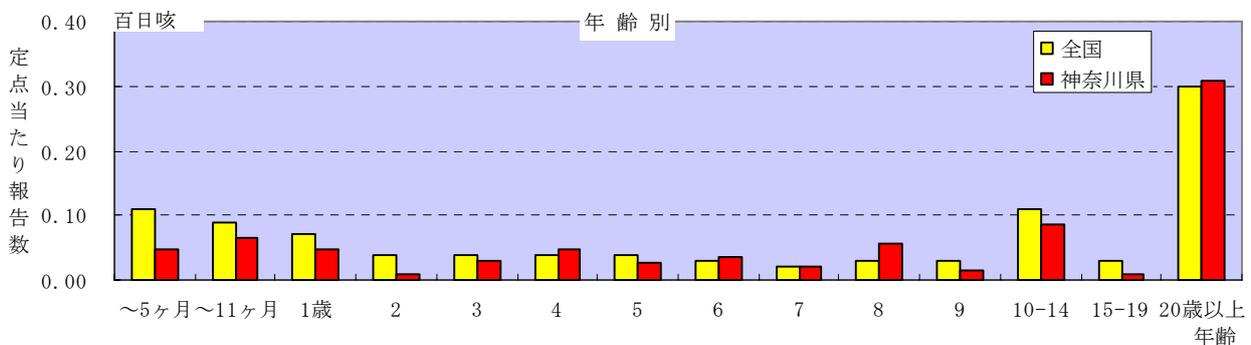
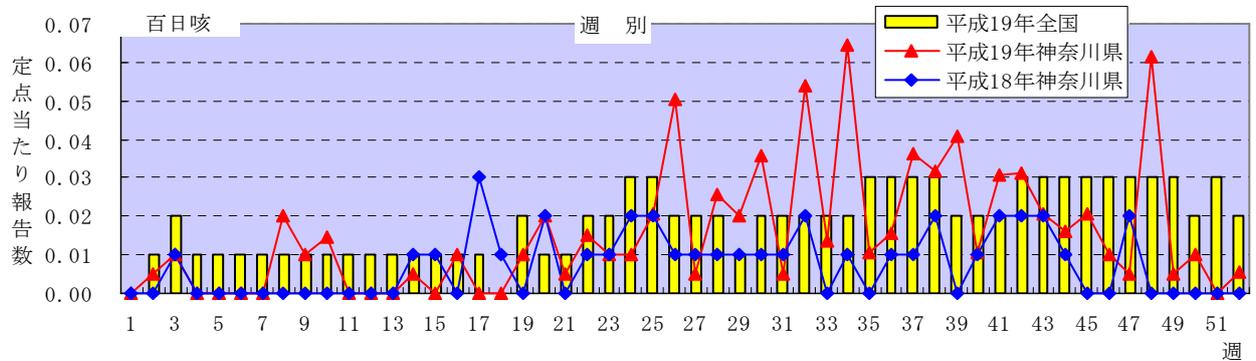
突発性発しん

1歳以下を中心に報告があり、昨年と同様の流行がみられた。



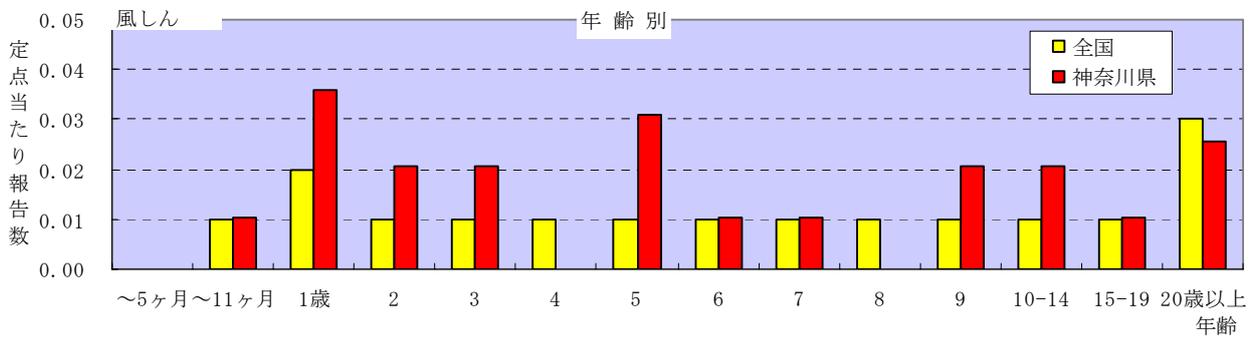
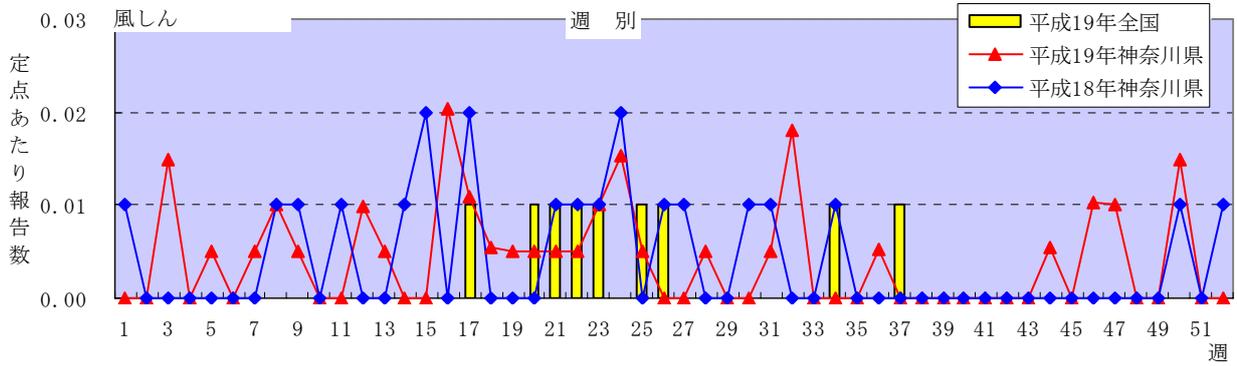
百日咳

20歳以上の報告が多くあり、全体としても昨年より報告が多かった。



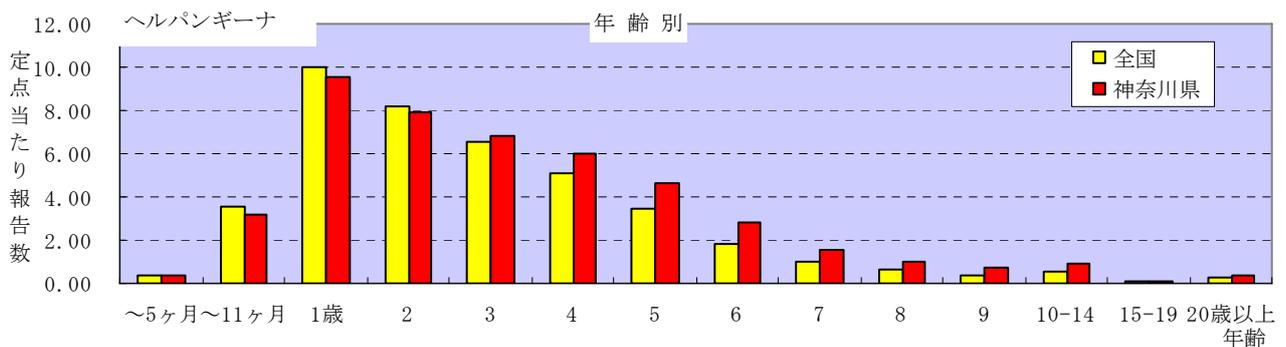
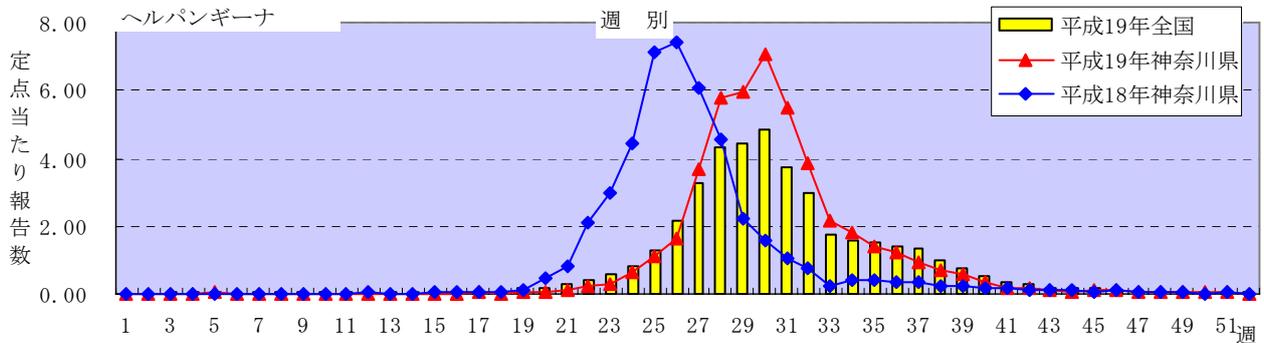
風しん

散発的な報告がみられ、昨年と同様の報告数であった。



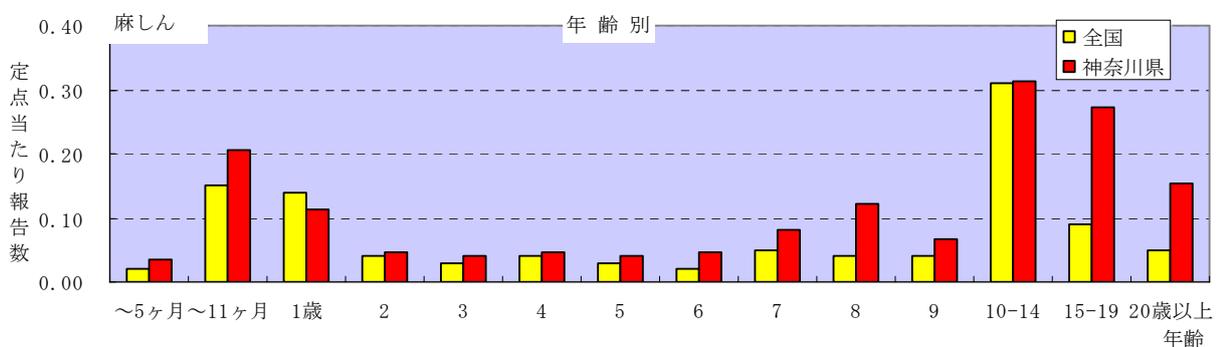
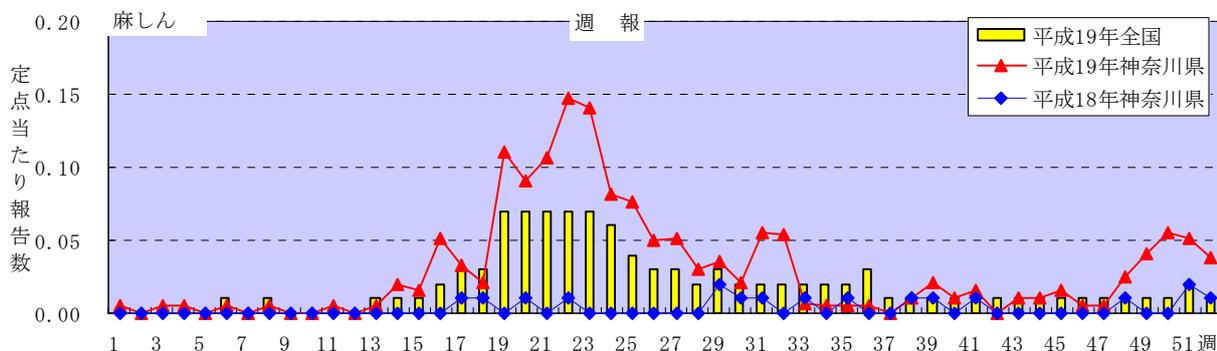
ヘルパンギーナ

昨年より4週遅く、第30週に流行のピークがみられ、その後速やかに減少した。報告数は昨年と同様であり、年齢別では1歳に最も多く報告がみられた。



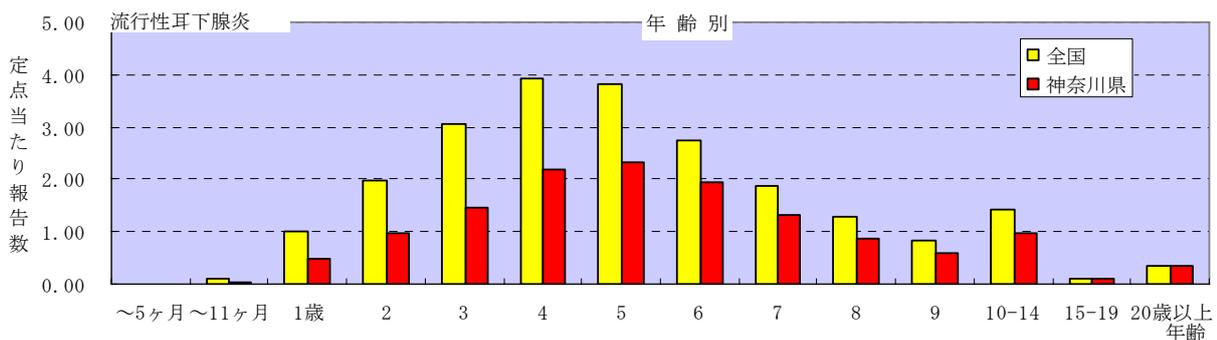
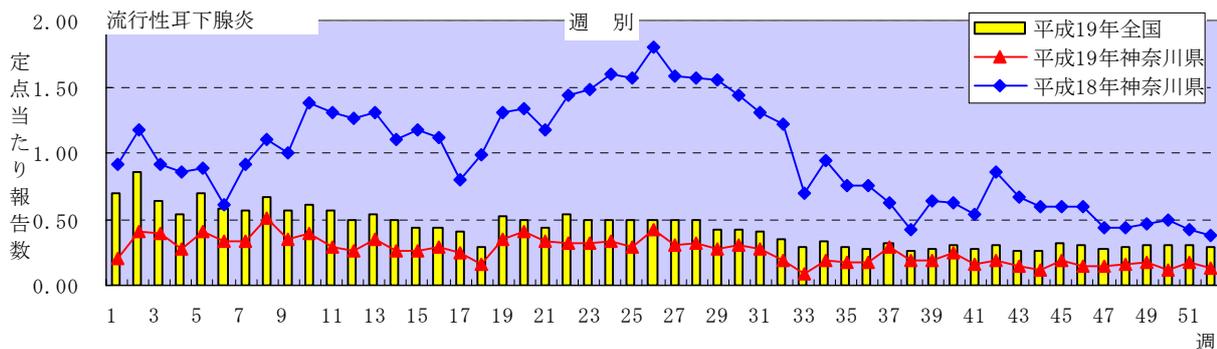
麻疹（成人麻疹を除く）

第22週をピークとした大きな流行がみられ、年末にも報告数の増加がみられた。年齢別では、10歳代を中心とした報告が多くあった。



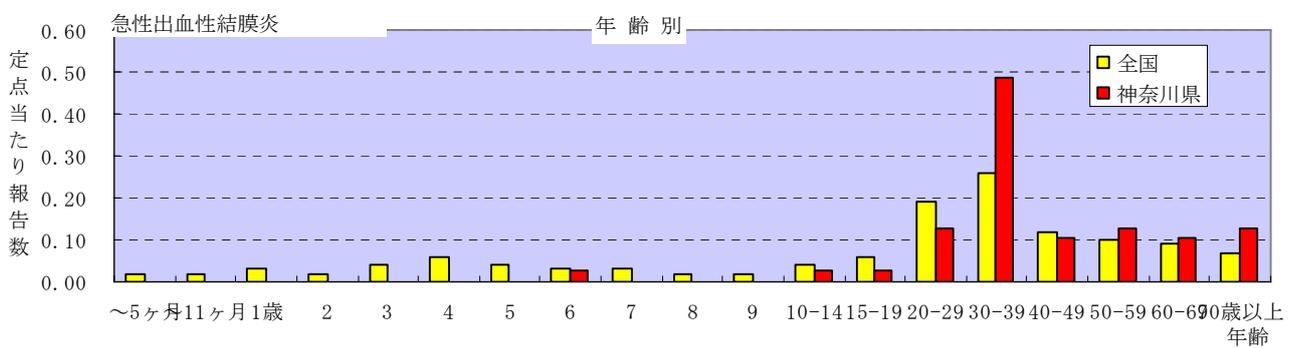
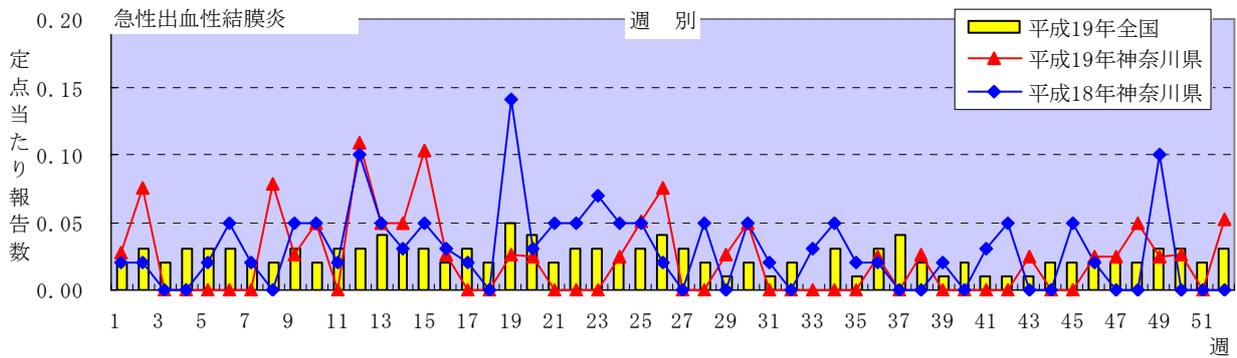
流行性耳下腺炎

1年を通じて昨年より報告数が少なく、全体としても昨年より少ない報告数であった。年齢別では、4～6歳に報告が多くみられた。



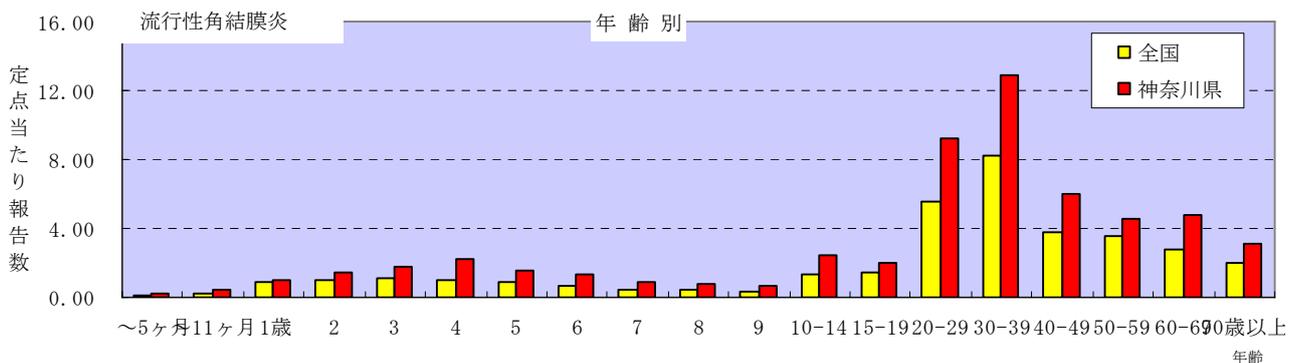
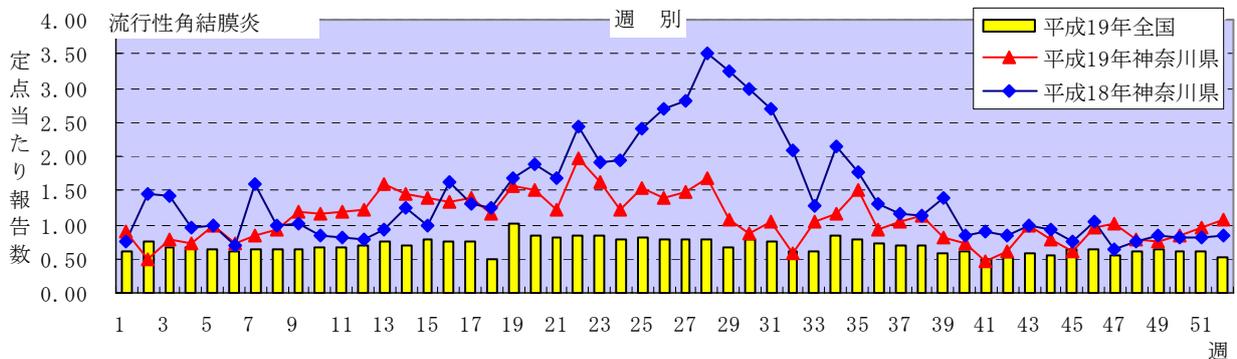
急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられ、昨年より報告数は少なかった。年齢別では、30～39歳に報告が多くみられた。



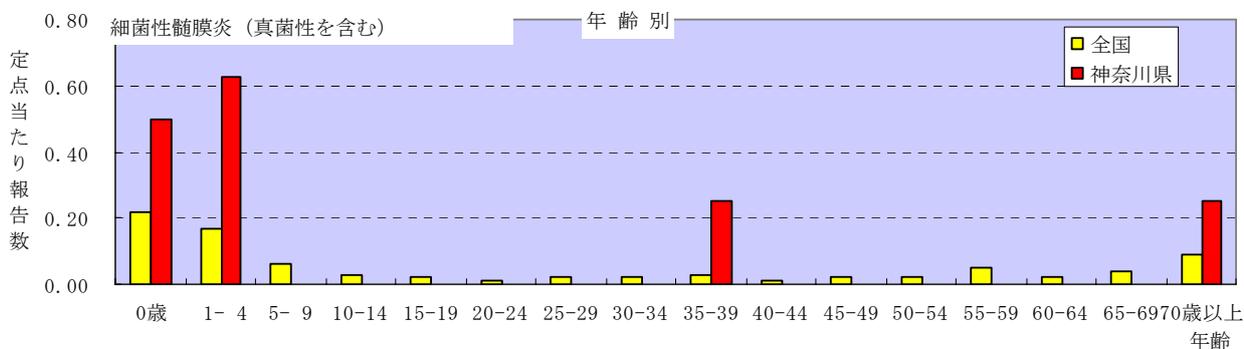
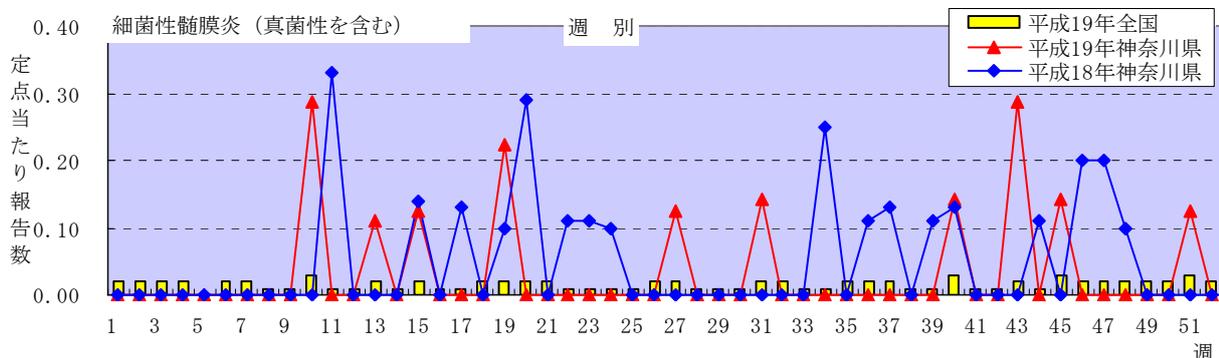
流行性角結膜炎

昨年に比べ、夏季に明らかな流行のピークはみられず、全体的に報告数も少なかった。年齢別では、30～39歳に多く報告がみられた。



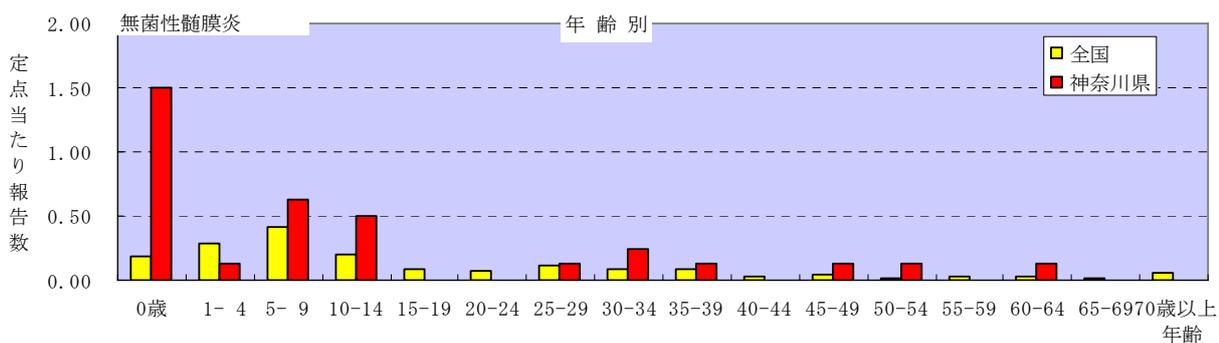
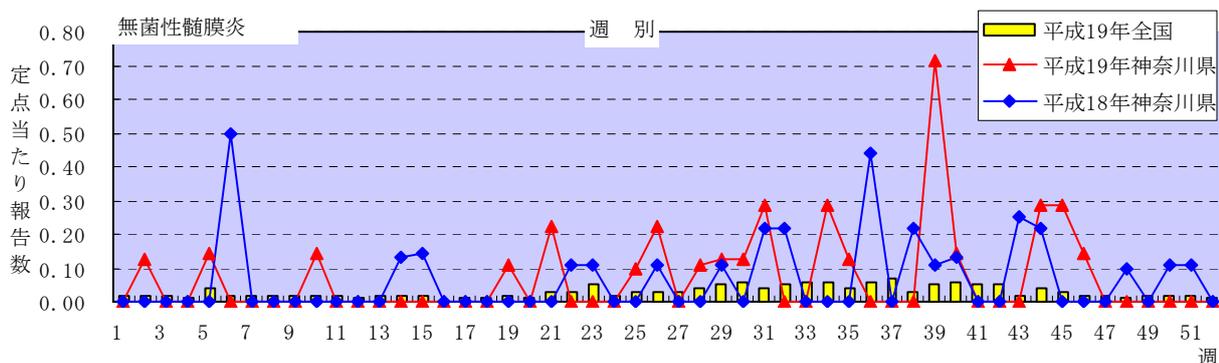
細菌性髄膜炎

4歳以下を中心とした散発的な報告があり、全体としては昨年より報告数は少なかった。年齢別では、4歳以下に報告が多かった。



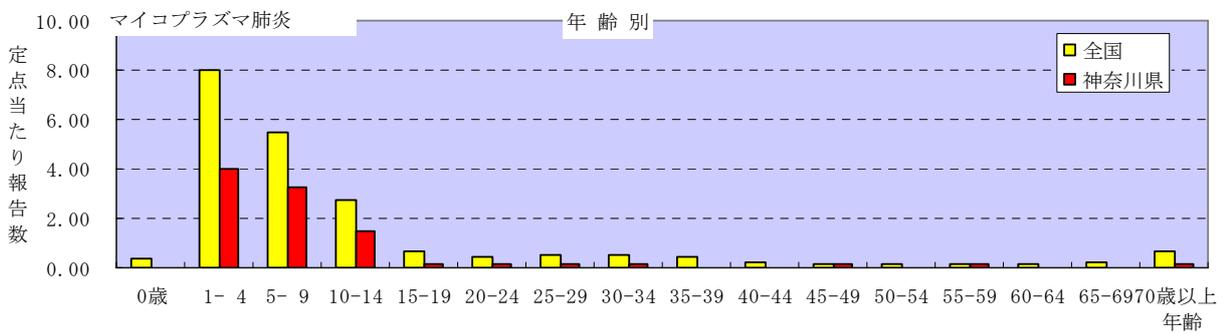
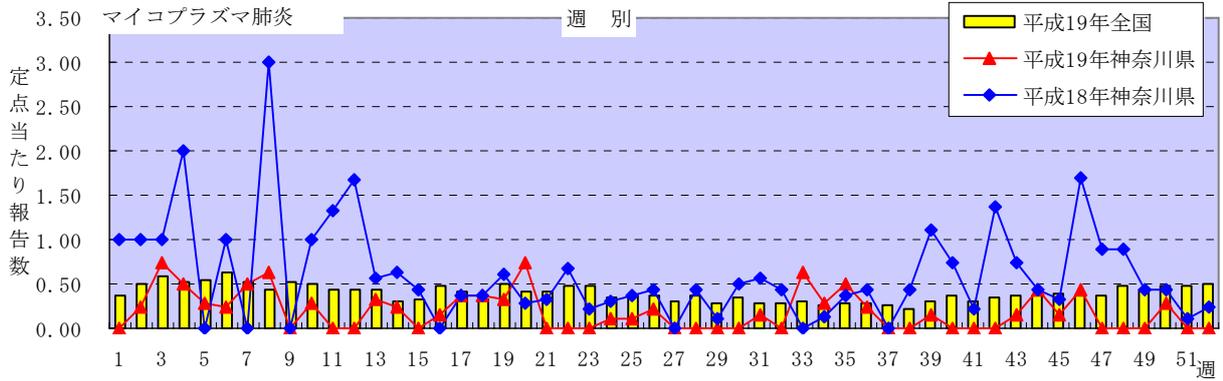
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、昨年と同様の報告数であった。年齢別では、0歳に報告が多かった。



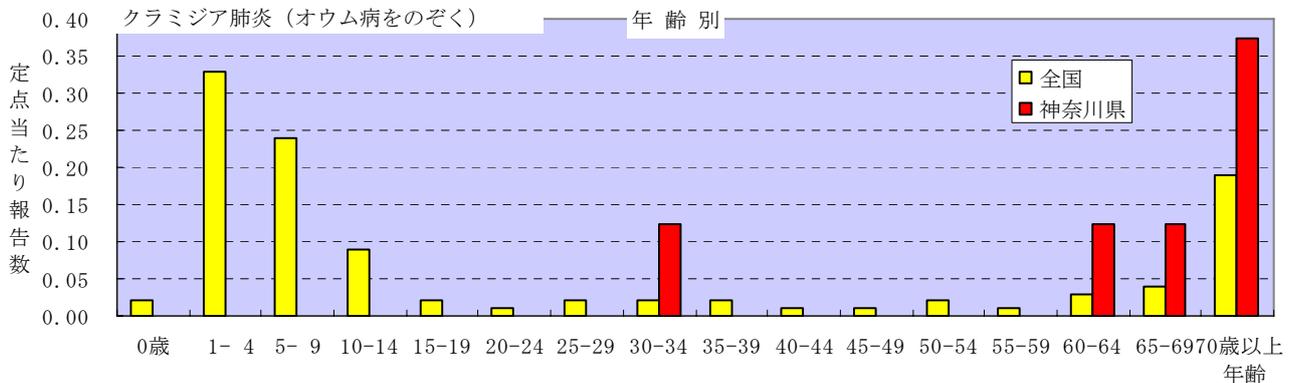
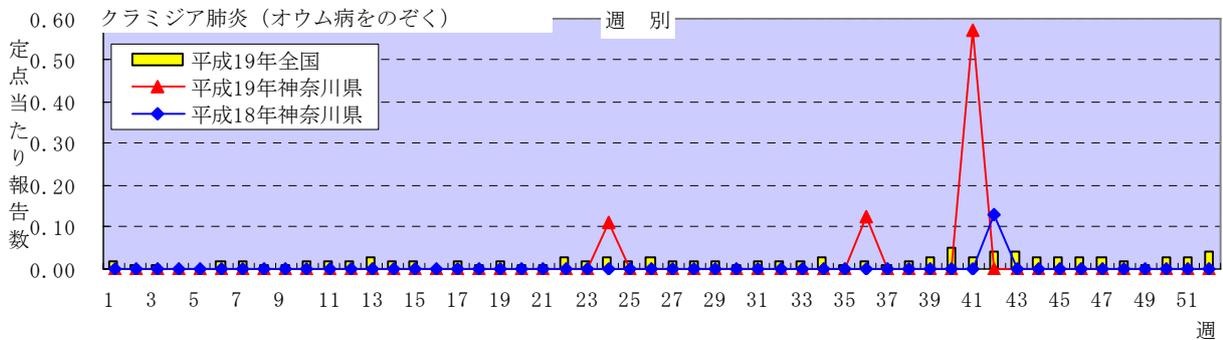
マイコプラズマ肺炎

1-4歳に報告が多くみられ、全体的には昨年より報告数は少なかった。



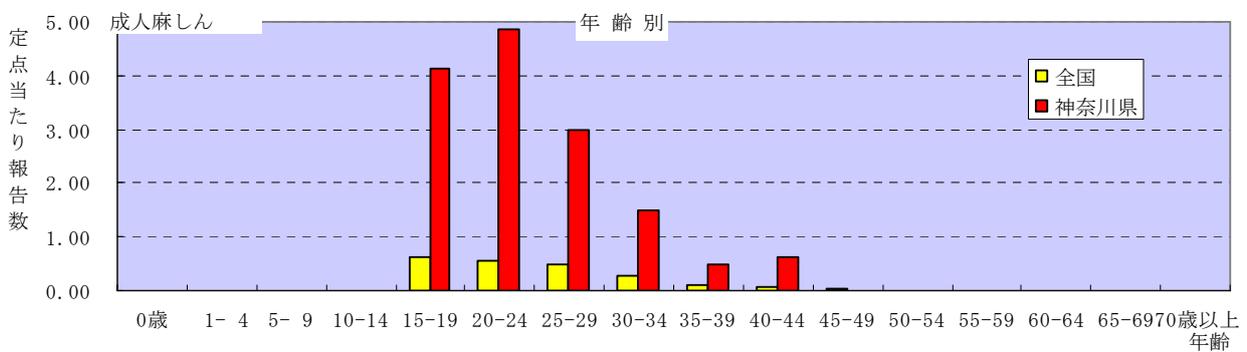
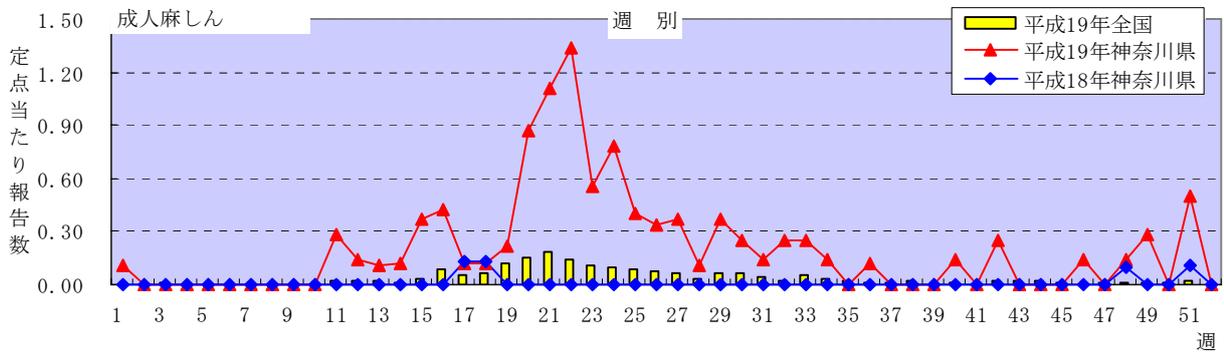
クラミジア肺炎（オウム病をのぞく）

散発的な報告があり、昨年より報告数は増加した。年齢別では、70歳以上に報告が多くみられた。



成人麻疹

第22週を流行のピークとした大きな流行がみられ、報告数も昨年の約29倍と大幅に増加した。年齢別では、20～24歳の報告が最も多かった。

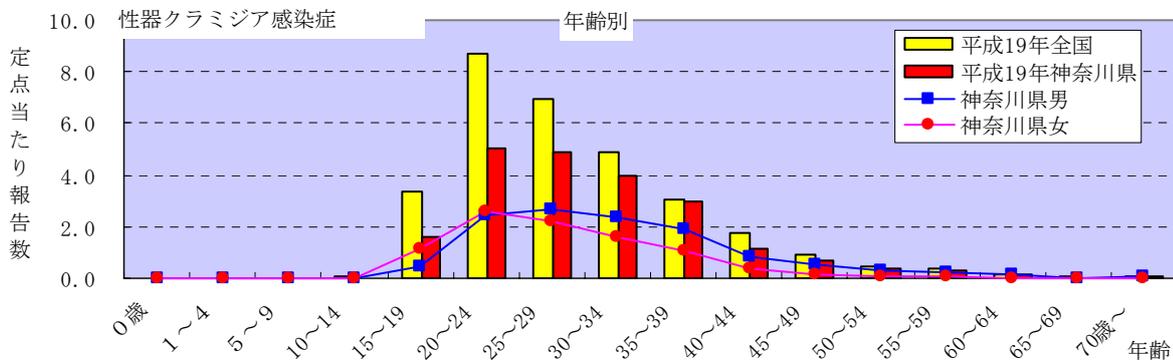
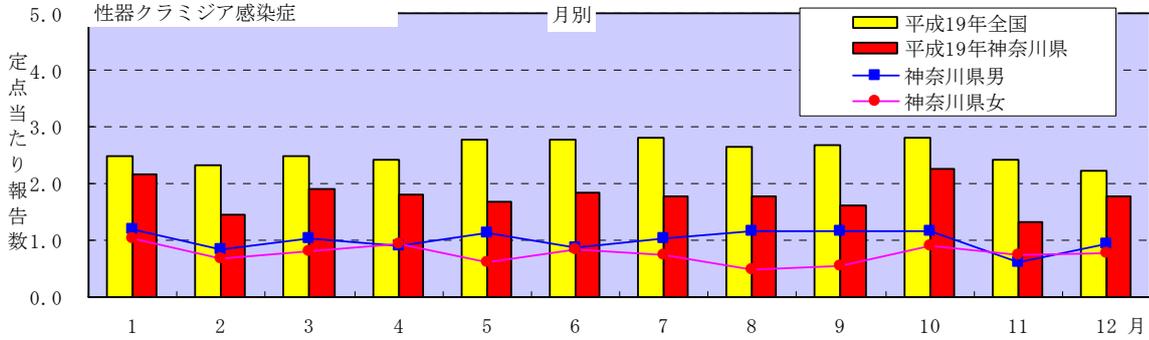


(近内 美乃里)

(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

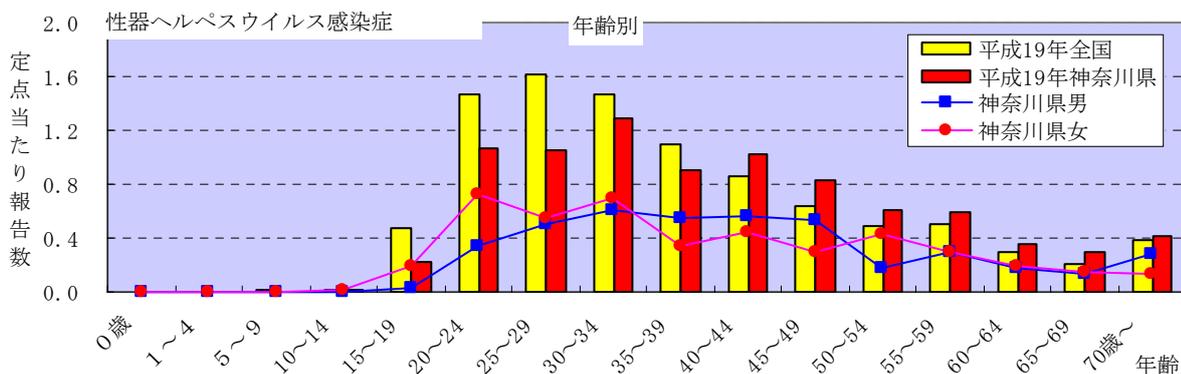
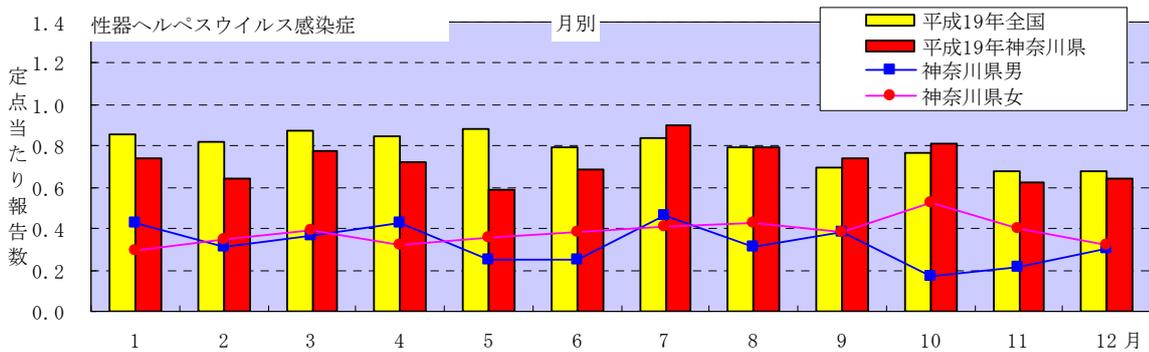
性器クラミジア感染症

年間を通して報告がみられるが、1月と10月に報告が多くあった。年齢別では20～30歳代の報告が多くあった。



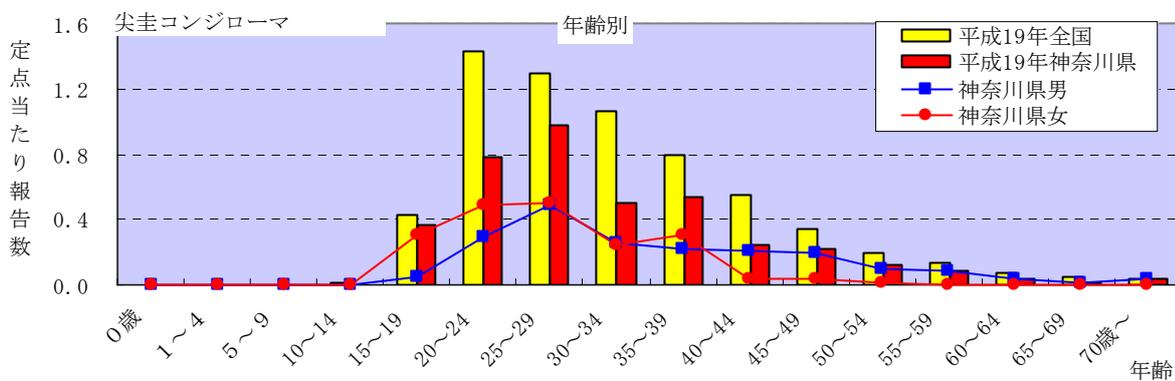
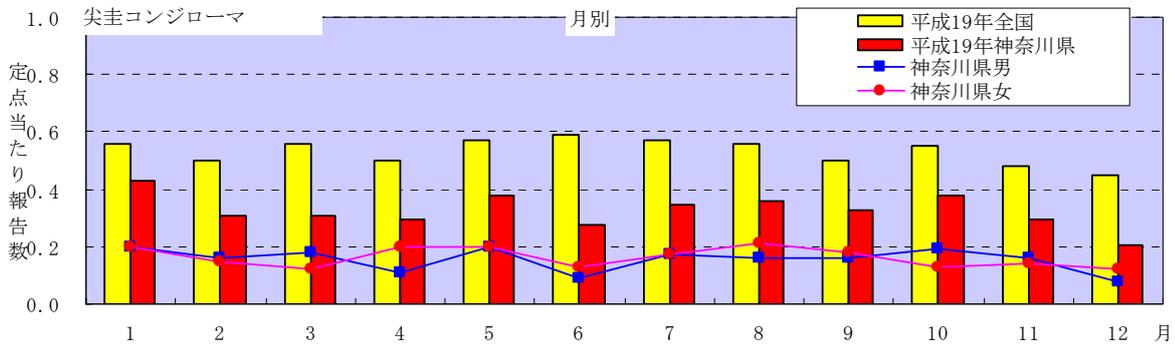
性器ヘルペスウイルス感染症

年間を通して報告がみられるが、7月が最も多かった。年齢別では30～34歳で最も多く報告があった。



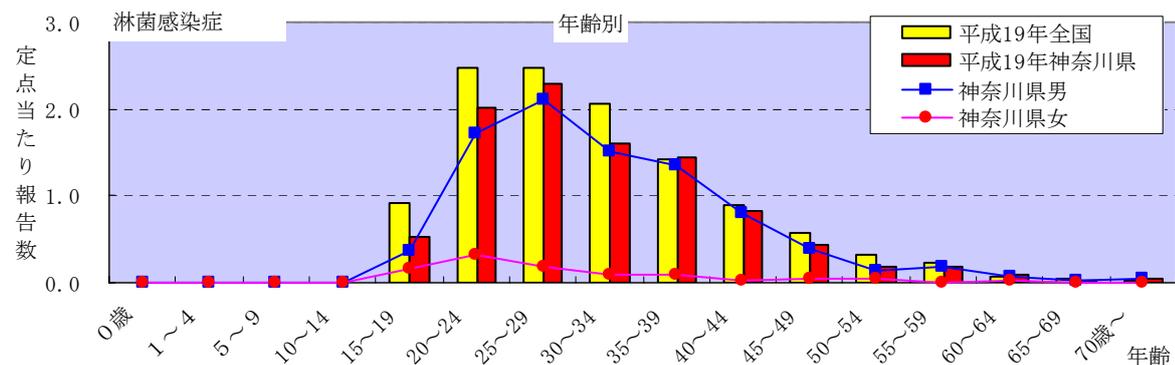
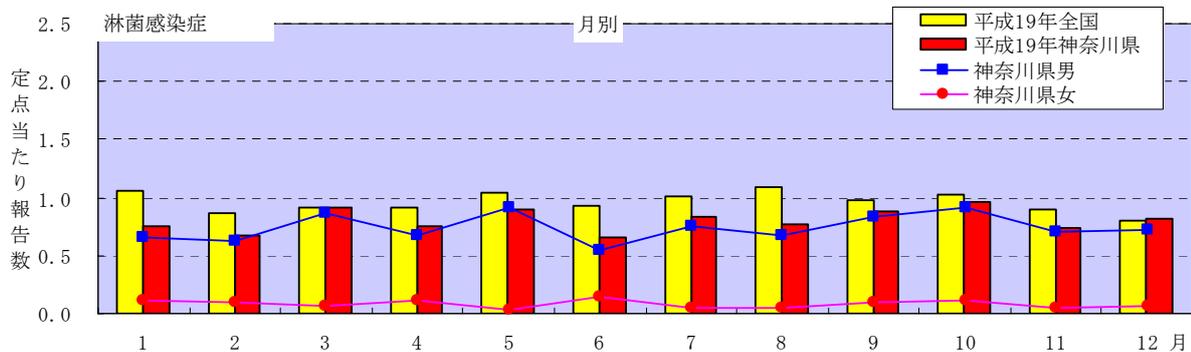
尖圭コンジローマ

年間を通して報告がみられたが、全国に比較して少ない報告数で推移した。年齢別では 25～29 歳で最も多く報告があった。



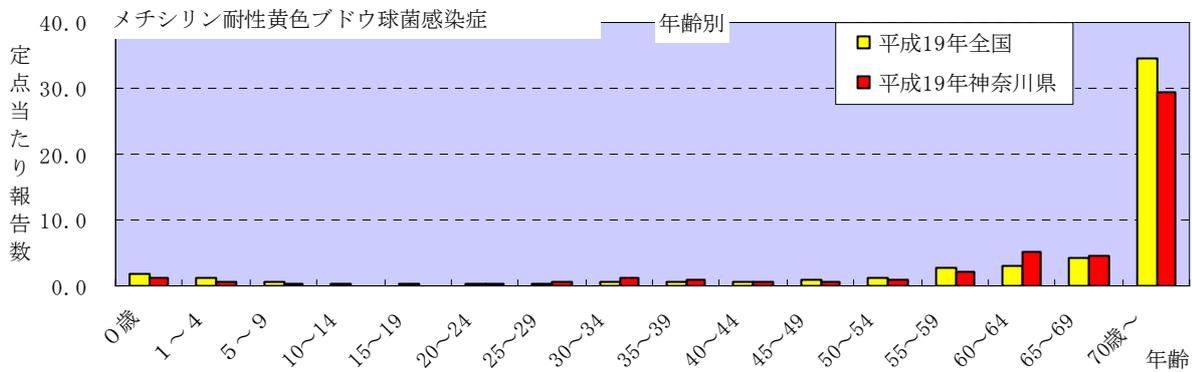
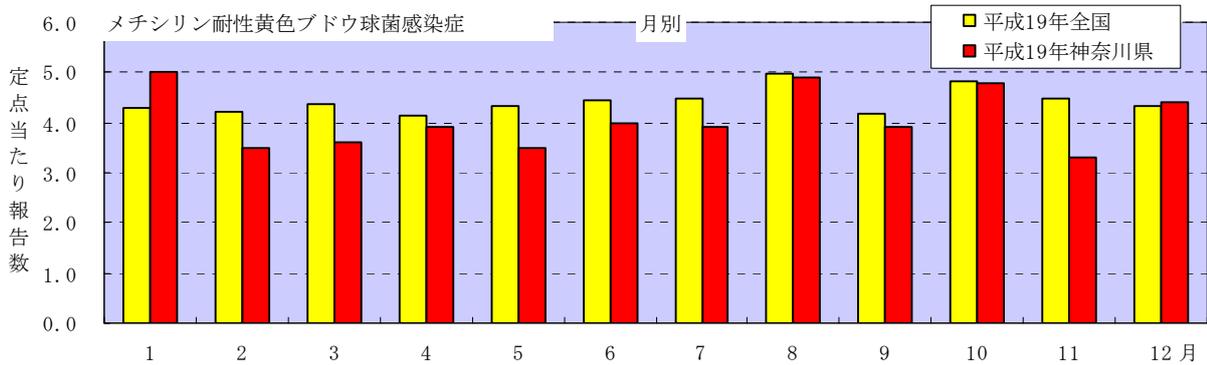
淋菌感染症

年間を通して報告がみられ、5月と9月に報告が多かった。年齢別では 25～29 歳の報告が最も多かった。女の報告は少なく、男の報告が多くを占めた。



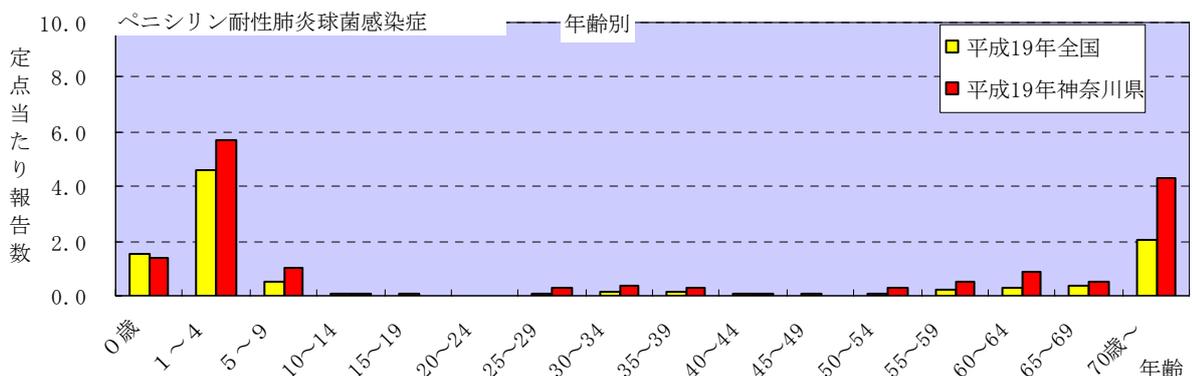
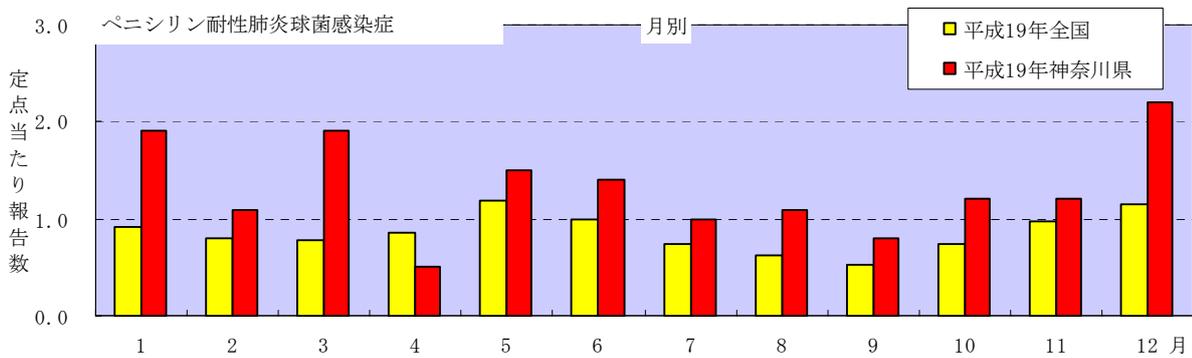
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告があり、5月と7月に報告が多くみられた。年齢別では70歳以上に報告が多かった。



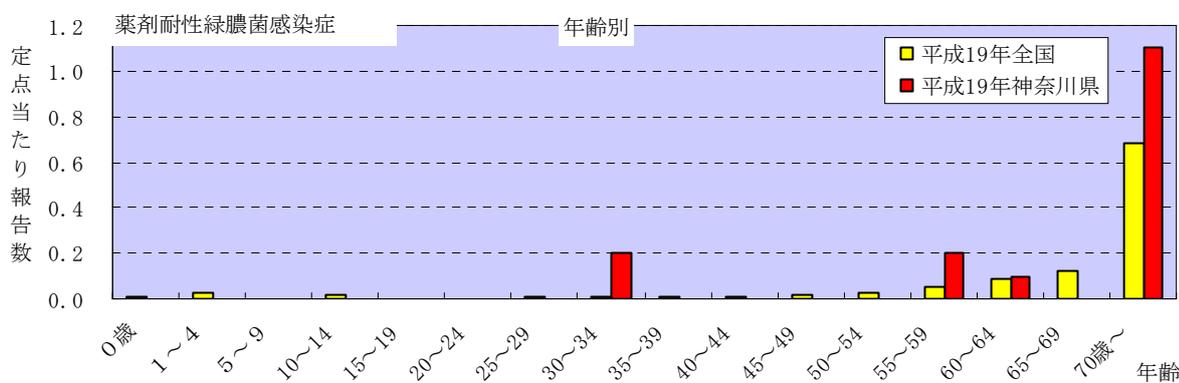
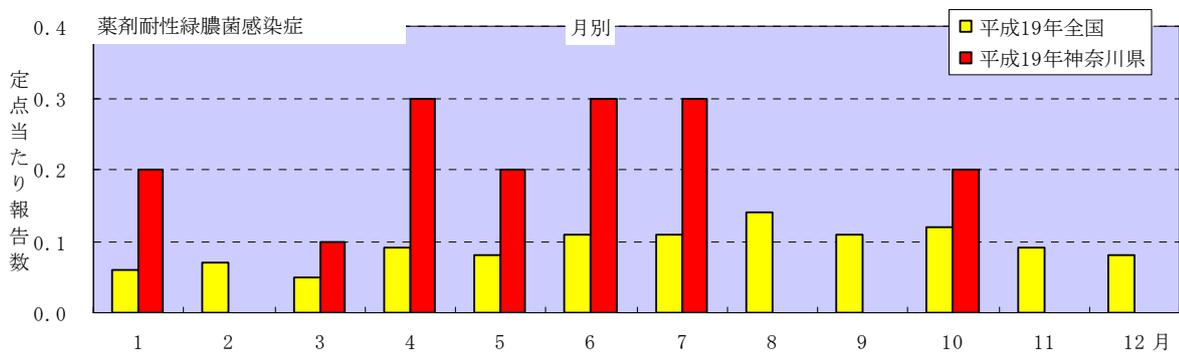
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間を通して全国よりも多い報告があり、特に12月に多かった。年齢別では、1~4歳と70歳以上に報告が多くあった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

散発的な報告がみられ、4月、6月、7月に報告が多かった。年齢別では70歳以上に報告が多くみられた。



(近内 美乃里)

Ⅱ ウイルス性感染症

1 インフルエンザ

(1) 概況

平成 19～20 年のインフルエンザの報告数は、例年よりも早く増加し、第 51 週でピークを迎え、一旦減少した。その後、再び増加し、第 5 週で再びピークとなり、その後速やかに減少した。市・域別では、平成 19 年年末では、川崎市の報告数が多く、平成 20 年当初では横浜市、川崎市を除いた県域の報告数が多かった。

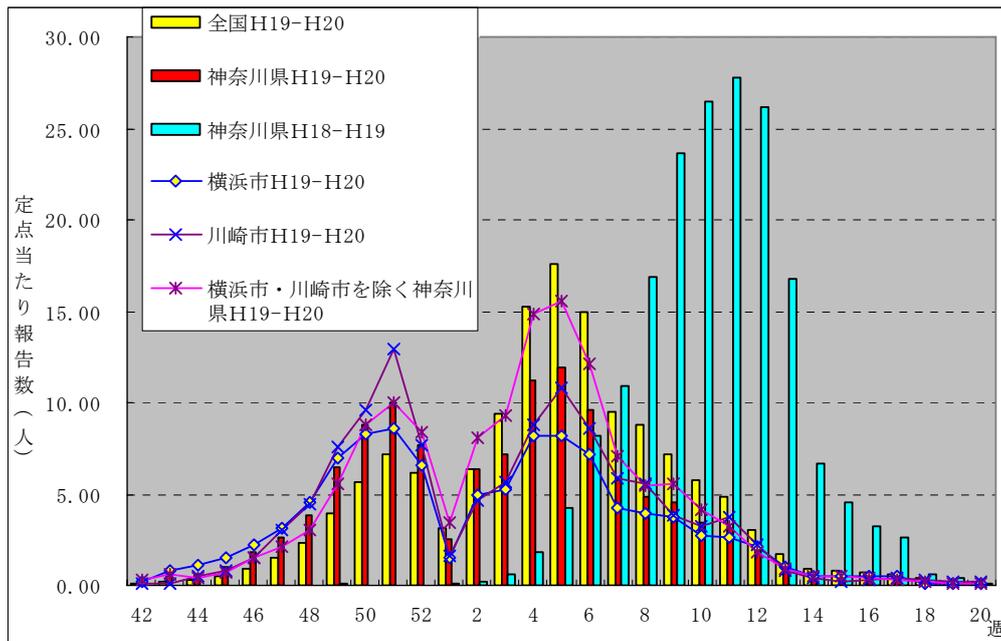


図 インフルエンザ定点当たり報告数（感染症発生動向調査）

平成 19 年 10 月に例年よりも早く集団かぜが発生し、A ソ連型(H1)であった。発生数は昨年よりも少なく、約半数であった。(近内 美乃里)

表 学校等における集団かぜの発生状況（神奈川県。平成20年3月31日現在）

資料：神奈川県健康増進課

年度	区分	発生年月日	終息年月日	発生施設数	学級閉鎖数	欠席者数	ウイルス型
10 (冬季)		10.11.6	11.3.18	1,938	2,949	33,370人	A 香港型 (H3) B 型
11 (冬季)		11.11.19	12.3.17	1,074	1,498	18,778人	A ソ連型 (H1) A 香港型 (H3)
12 (冬季)		12.12.12	13.3.19	143	144	1,535人	A ソ連型 (H1) B 型
13 (冬季)		13.11.16	14.3.19	791	1,059	12,336人	A ソ連型 (H1) A 香港型 (H3)
14 (冬季)		14.12.13	15.3.17	1,115	1,430	19,024人	A 香港型 (H3) B 型
15 (冬季)		15.12.8	16.3.22	554	699	8,941人	A 香港型 (H3) B 型
16 (冬季)		16.11.25	17.3.26	961	1,250	14,634人	A 香港型 (H3) B 型
17 (冬季)		17.12.5	18.3.18	715	881	9,962人	A ソ連型 (H1) A 香港型 (H3) B 型
18 (冬季)		19.1.17	19.3.24	754	984	12,412人	A 香港型 (H3) B 型
19 (冬季)		19.10.15	20.3.19	391	497	5,234人	A ソ連型 (H1)

(2) 神奈川県(横浜市及び川崎市を除く)のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

インフルエンザ非流行期にあたる平成19年5月～9月においては、8月(第34週、8/20～26)に厚木保健所管内で1例の患者発生があり、咽頭拭い液および鼻腔拭い液のウイルス分離検査を行ったところ、両検体からインフルエンザウイルスA香港(H3)型が分離された。分離株は、前年度のワクチン株であるA/広島/52/2005標準抗血清(ホモ価640HI)に対して80HIを示したことから、抗原性が異なっていると考えられ、次シーズンの流行に与える影響が懸念された。該当患者は中国からの帰国者であり、帰国から2日後に発症したこと、同時期に中国でA香港(H3)型が分離されていた(WHO FluNetの集計より)こと、近隣地域では同時期にインフルエンザ患者が確認されていないことから、中国滞在中に感染した可能性が高いと考えられた。

冬季におけるインフルエンザ流行は、19年10月～20年3月にかけて起こった。感染症発生動向調査によるとシーズン最初の患者発生報告は早くも19年第38週(9/17～23)から始まり、51週(12/17～23)に第一のピーク(定点あたり報告数9.96人)を迎えた後、一旦、減少した。年明けは、20年第2週(1/7～13)から報告数が急増して5週(1/28～2/3)に第二のピーク(定点あたり報告数15.6人)を迎えた後減少に転じ、13週(3/24～30)にはほぼ終息(定点あたり報告数0.88人)した。本シーズン(19年第36週～20年第17週)における報告数の累積は18530人と昨シーズンよりも小さな流行となった。例年のインフルエンザの流行は、第2週頃から患者報告が増加を始め、5週頃にピークを迎えた後、13週頃には終息する。本シーズンは、過去8シーズンで最も早い立ち上がりが見られ、終息はほぼ例年並みであったため、流行期間は最も長くなり、患者報告のピークも2峰性となった。しかし、累計患者報告数は、過去8シーズンで2番目に少なかった(図1)。

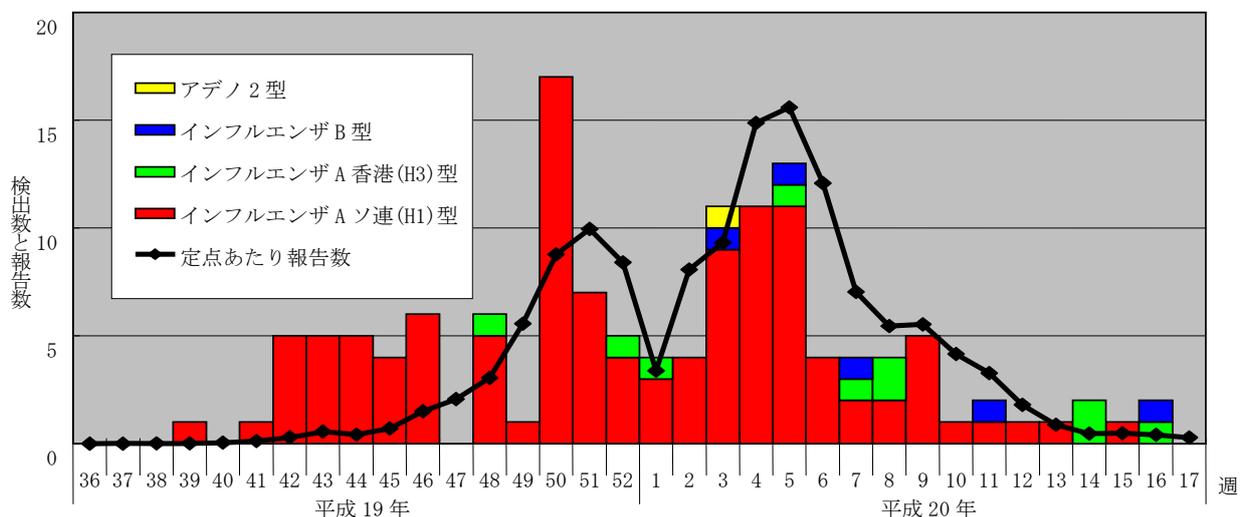


図1 インフルエンザ患者の定点あたり報告数とウイルス検出数

感染症発生動向調査病原体定点(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く神奈川県内)で採取された104検体および藤沢市からの一般依頼14検体について(検体採取月は19年9月～20年4月)ウイルス分離を実施した。また、一部検体についてはPCR法によるウイルス遺伝子検出(インフルエンザ、RS、パラインフルエンザ)を実施した。シーズンを通じて、インフルエンザウイルスAソ連(H1)

型が検出され続け、A 香港(H3)型と B 型は散発的に検出されるに留まった。ウイルス分離および遺伝子検出をあわせたウイルス検出数の内訳は、インフルエンザウイルス A ソ連(H1)型 78 件、A 香港(H3)型 10 件、B 型 5 件、アデノウイルス 2 型 1 件であった。

神奈川県（横浜市及び川崎市を除く）の各保健所管内初発集団かぜ（12 集団 55 名）について上記と同様にウイルス分離および遺伝子検出を実施した。10 月に 3 集団、11 月に 5 集団、12 月に 3 集団、1 月に 1 集団の検査依頼があり、いずれの集団からもインフルエンザウイルス A ソ連型(H1)が検出された。また、インフルエンザウイルス以外のウイルスは検出されなかった。

インフルエンザ分離株の抗原性の変異を HI 試験の成績から見ると、A ソ連(H1)型はワクチン株（A/ソロモン諸島/3/2006）標準抗血清のホモ価（640HI）とは同等～2 倍差の類似株が 1%、4 倍差を示す株が 49%、8 倍差を示す株が 47%、16 倍差を示す株が 3%であった。A 香港(H3)型はワクチン株（A/広島/52/2005）標準抗血清のホモ価（640HI）とは 2 倍差の類似株が 1 株、4 倍差を示す株が 2 株、8 倍差を示す株が 6 株であった。B 型は全分離株が本シーズンのワクチン株とは異なる山形系統株であったが、全株が同系統の代表株である B/上海/361/2002 標準抗血清のホモ価(640HI)とも 8 倍以上の差を示した。

本シーズンは A ソ連(H1)型の単独流行であり、A 香港(H3)型と B 型は散発するに留まった。A ソ連(H1)型、A 香港(H3)型、B 型ともに、ワクチン類似株ではないタイプの分離株が多かった。

（渡邊寿美、齋藤隆行、尾上洋一）

（3）横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

横浜市結核・感染症発生動向調査による平成 19 年 10 月から平成 20 年 4 月までのインフルエンザ様疾患患者数は 12, 087 人と昨シーズン同期間における 21, 166 人のほぼ半数であった。定点あたり患者数は 10 月下旬から増えはじめ、12 月（第 51 週）に 8.45 人、1 月（第 5 週）に 8.19 人と 2 つのピークがみられ、その後、ゆるやかに減少した（図 1）。

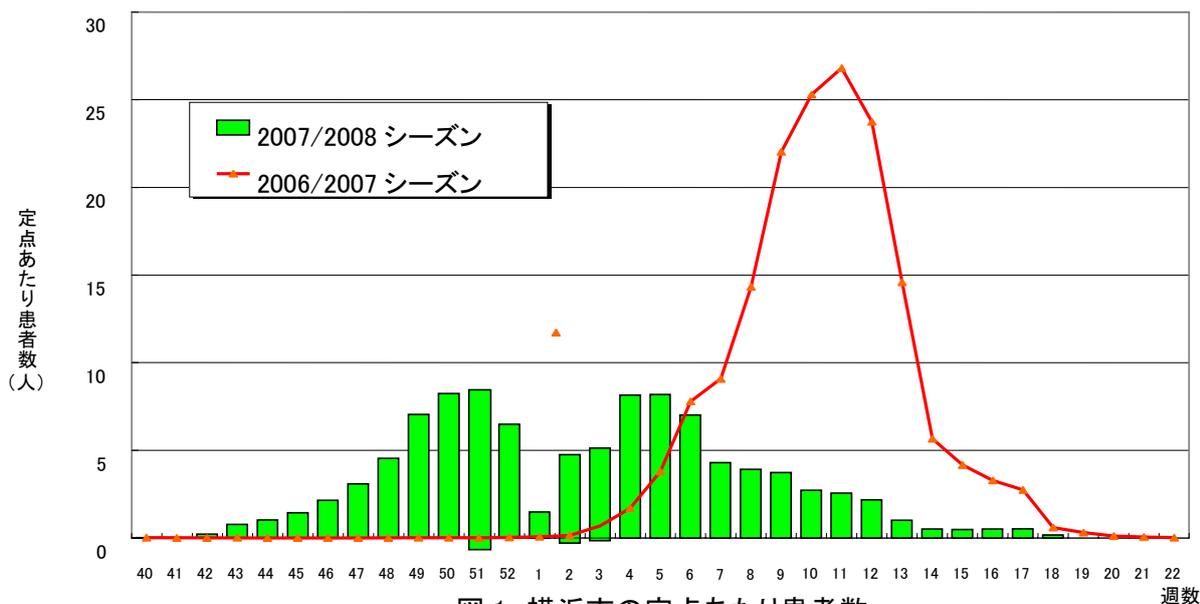


図 1 横浜市の定点あたり患者数

集団かぜの初発は平成 19 年 11 月 6 日（第 45 週）に港北区の小学校からの報告であった。その後、3 月第 11 週まで続き、終息までの発生数は 10 区 18 施設 154 学級であった。検査依頼のあった 10 集団 33 人についてウイルス学的調査を実施し、10 集団すべてから A ソ連型(H1) ウイルスが分離またはその遺伝子が検出された。（表 1）。

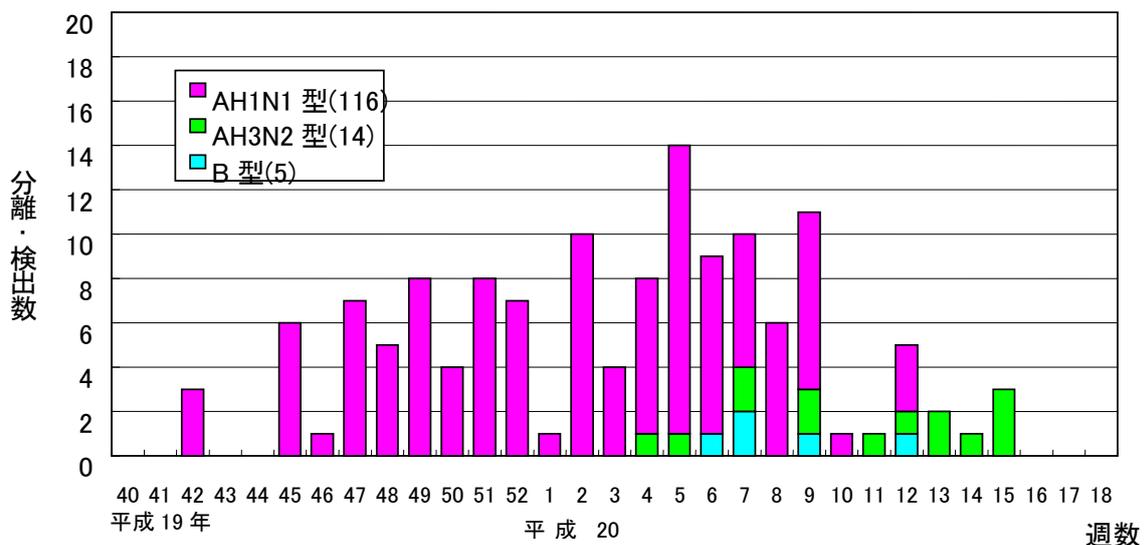
表 1 横浜市の集団かぜ調査の結果

発生年月日	週	区	学校名	〈ウイルス分離〉			〈遺伝子検索〉			
				検体数	分離株数	型	判定数	HA遺伝子	判定数	NA遺伝子
平成19. 11/7	第45週	港北	小学校	4	2	AH1N1	0	陰性	2	NA1
11/14	第46週	旭	幼稚園	3	3	AH1N1	1	AH1	1	NA1
11/15	第46週	緑	小学校	1	1	AH1N1	1	AH1	—	未実施
11/15	第46週	港南	幼稚園	3	3	AH1N1	3	AH1	—	未実施
12/4	第49週	都筑	幼稚園	3	0	陰性	0	陰性	3	NA1
12/4	第49週	青葉	小学校	2	2	AH1N1	2	AH1	—	未実施
平成20. 1/21	第4週	栄	幼稚園	5	3	AH1N1	2	AH1	1	NA1
1/28	第5週	戸塚	小学校	5	3	AH1N1	2	AH1	2	NA1
2/18	第8週	磯子	幼稚園	5	2	AH1N1	0	陰性	3	NA1
2/26	第9週	金沢	小学校	2	1	AH1N1	0	陰性	1	NA1
合計			10施設	33	20	AH1N1	11		13	

発生動向調査病原体定点ウイルス調査においては、平成 19 年 10 月から平成 20 年 4 月までの 7 カ月間に採取した鼻咽頭ぬぐい液 306 検体より、A ソ連型(H1)116 株、A 香港型(H3)14 株、B 型 5 株の合計 135 株が分離または遺伝子が検出された。また、定点以外の医療機関から依頼された検体では、A ソ連型(H1)3 株、B 型 1 株が分離された。

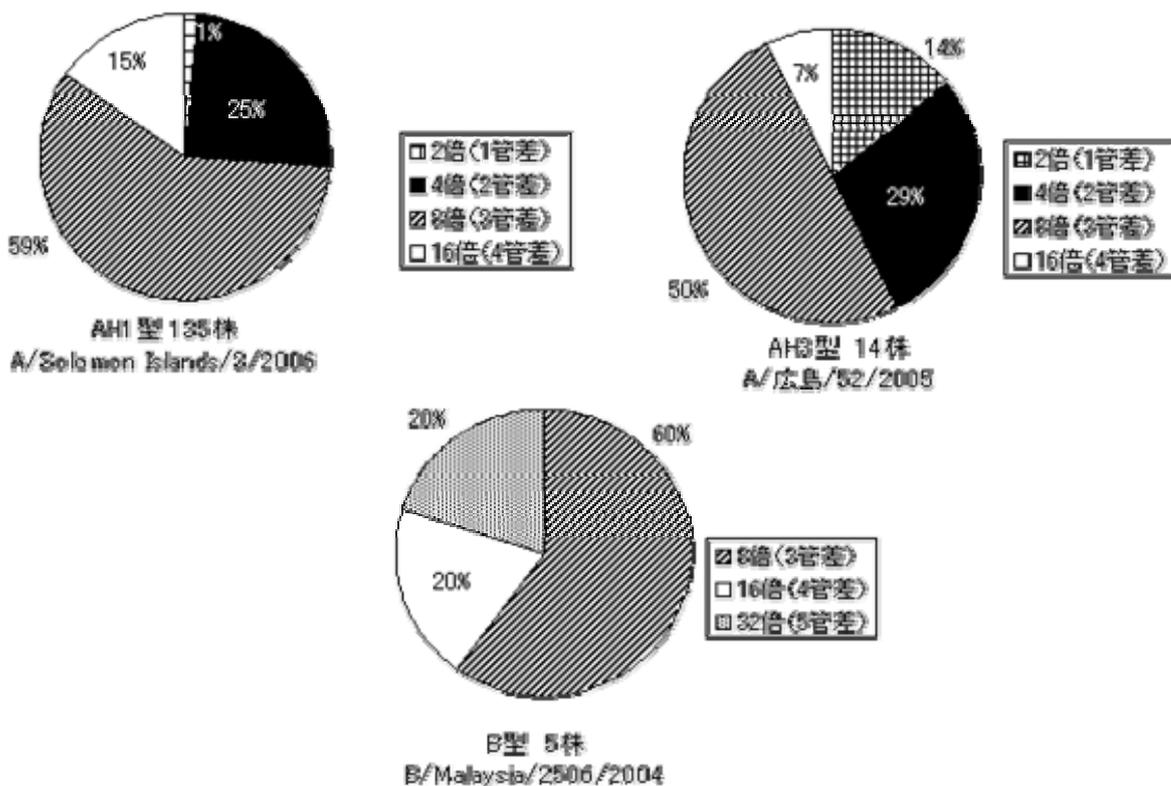
A ソ連型(H1)型ウイルスについては平成 19 年 10 月 17 日、18 日（第 42 週）の瀬谷区定点検体から 2 株分離され、15 日の港北区定点検体から 1 件遺伝子が検出された。その後 11 月から分離数は増え始め、1 月第 5 週をピークとして 4 月まで分離・検出された。一方、AH3N2 型ウイルスについては平成 20 年 1 月 21 日（第 4 週）の保土ヶ谷区定点検体から 1 株分離され、4 月まで散発的に分離・検出された。他方、B 型ウイルスは平成 20 年 2 月 4 日（第 6 週）の瀬谷区定点検体から 1 株分離されたが、その後、3 月まで少数分離されたのみであった。（図 2）。

図 2 横浜市の病原体定点ウイルス調査における分離・検出状況



集団かぜ調査および定点ウイルス等調査で分離されたウイルス株の抗原性状を調べたところ、A ソ連型(H1)ウイルスの26% (36株) はワクチン株である A/Solomon Islands/3/2006 と HI 価が類似していたが、74% (102株) はワクチン株に低い反応性を示した。一方、A 香港型(H3)ウイルスの43% (6株) はワクチン株である A/広島/52/2005 と HI 価が類似していたが、57% (8株) はワクチン株に低い反応性を示した。他方、B 型ウイルス5株はワクチン株である Victoria 系統の B/Malaysia/2506/2004 とは反応せず、山形系統のウイルスであった (図3)。

図3 横浜市の2007/2008シーズン分離株のワクチン株に対するHI価



定点+集団+依頼分離株

AH1		138 株	A/Solomon Islands/3/2006	(ホモ価 620)
2 倍(1 管差)	4 倍(2 管差)	8 倍(3 管差)	16 倍(4 管差)	
2	34	81	21	
AH3		14 株	広島/52/2005	(ホモ価 1280)
2 倍(1 管差)	4 倍(2 管差)	8 倍(3 管差)	16 倍(4 管差)	
2	4	7	1	
B 型		5 株	B/Malaysia/2506/2004	(ホモ価 640)
8 倍(3 管差)	16 倍(4 管差)	32 倍(5 管差)		
3	1	1		

系統樹解析では、A ソ連型(H1)についてはワクチン株の A/Solomon Islands/3/2006 より進化の進んだ2つのサブクレードに分かれ、1つは A/Brisbane/59/2007 (2008/2009 シーズン 推奨ワクチン株) と同じサブクレードであった (図4)。A 香港型(H3)についてはワクチン株の A/広島/52/2005 や

A/Wisconsin/67/2005 より進化が進んでおり、次季推奨ワクチン株 A/Uruguay/716/2007 により近似していた(図 5)。B 型ウイルス株はワクチン株の B/Malaysia/2506/2004 株と異なる山形系統で、2004/2005 シーズンの流行株に近い位置であった(図 6)。

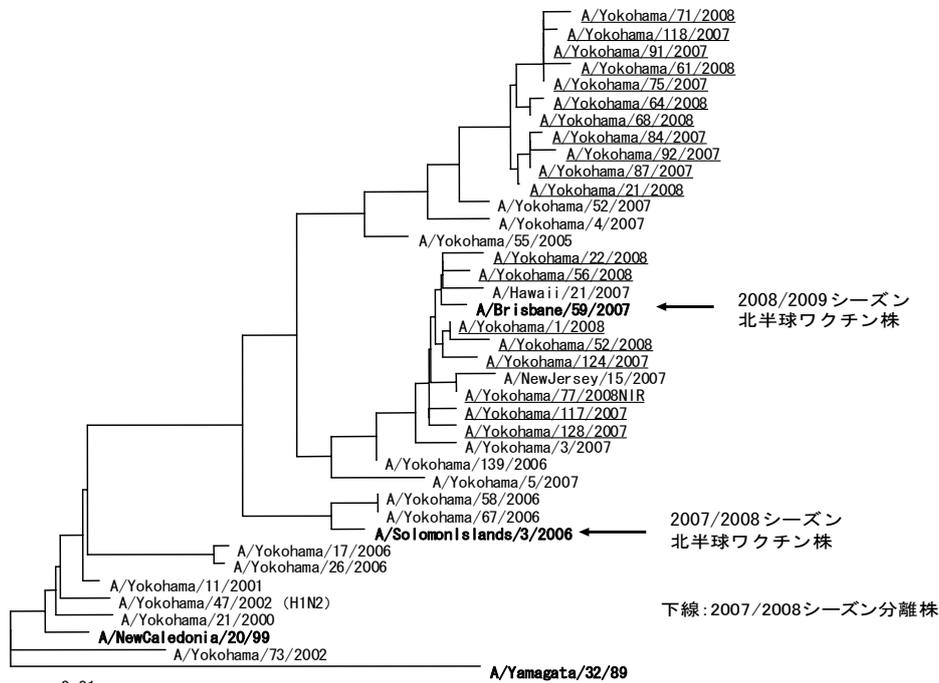


図4 AH1型ウイルスのHA1遺伝子NJ系統樹 981bp

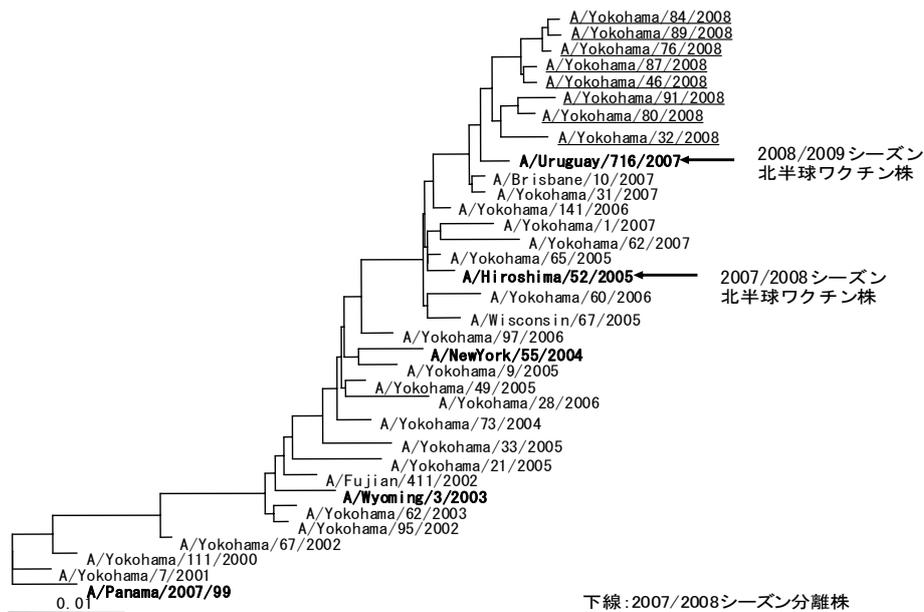


図5 AH3型ウイルスのHA1遺伝子NJ系統樹 986bp

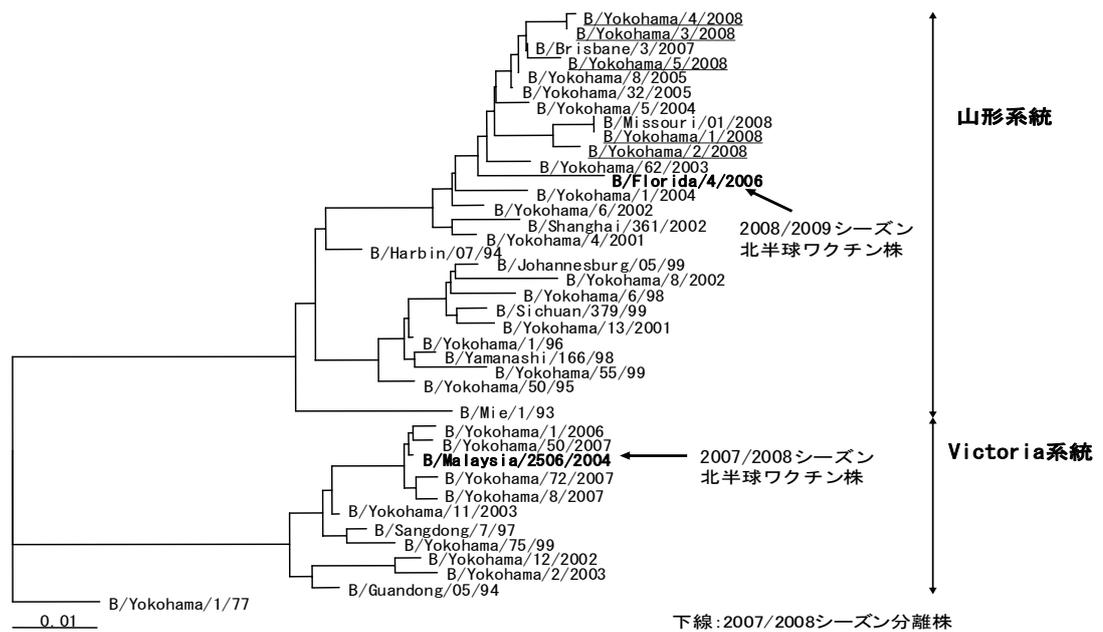


図6 B型ウイルスのHA1遺伝子NJ系統樹 1041bp

以上のように横浜市における2007/2008シーズンにおけるインフルエンザの流行は小規模なものであり、Aソ連型(H1)の単独流行であったが、A香港型(H3)やB型ウイルスも散発に分離された。

(川上千春、百木智子、七種美和子、野口有三、佐々木一也、豊澤隆弘)

(4) 川崎市のインフルエンザの動向

川崎市衛生研究所

① 川崎市におけるインフルエンザ様患者の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図1)によると定点あたりの患者数が1.0人を超えたのが、19年11月の第3週で、その後患者数は急増し、12月の第3週に12.92人とピークを迎えたが、年末年始にかけて患者が減少した。20年1月の第5週に10.79人と再びピークを迎えた後、患者数は減少していくが、2008年5月の時点でも患者の報告があり、完全には終息していない。2005/2006年および2006/2007年のピーク時の定点あたりの患者数は約30人で中規模な流行、2004/2005年は約50人の大規模な流行であったが、それに比べて、2007/2008年シーズンは患者発生が例年に比べて早かったものの、小規模な流行であった。

② インフルエンザウイルス分離状況

今シーズンは合計130例のインフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液が搬入され、そのうち103例(79.2%)からインフルエンザウイルスが分離された。血清型別では、Aソ連型が87株、A香港型が12株、B型が4株分離され、Aソ連型が全体の84.5%を占めた。また、B型はすべてB/上海/361/2002抗血清に反応する山形系統の株であった。抗原解析の結果、A香港型のHI価はワクチン株とほぼ一致していたが、Aソ連型は4～8倍の変化が認められた。なお、B型のワクチン株はビクトリア系統であり、今回分離されたB型とは系統が違っていた。

週別のインフルエンザウイルス分離状況（図2）では、初めてウイルスが分離されたのは2007年11月2日でAソ連型が分離された。Aソ連型は11月中は15株が分離されるに留まったが、12月に入り分離数は増加し、12月の第2週（51週）に12株が分離され、2007年中は49株が分離された。1月に入って、分離数はいったん減少するが第3週にAソ連型が12株分離され再びピークを迎えた。A香港型は1月15日（4週）に初めて分離され、2月の第2週（8週）以降分離数は増加していった。B型は1月24日（5週）に初めて分離されたが、その後、散発的に分離されるに留まった。（清水英明、石丸陽子）

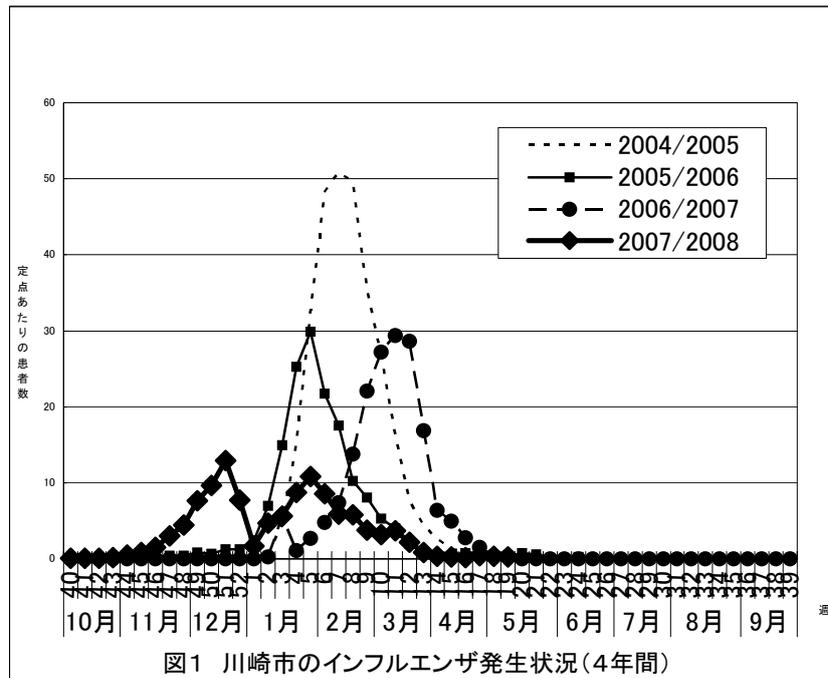


図1 川崎市のインフルエンザ発生状況(4年間)

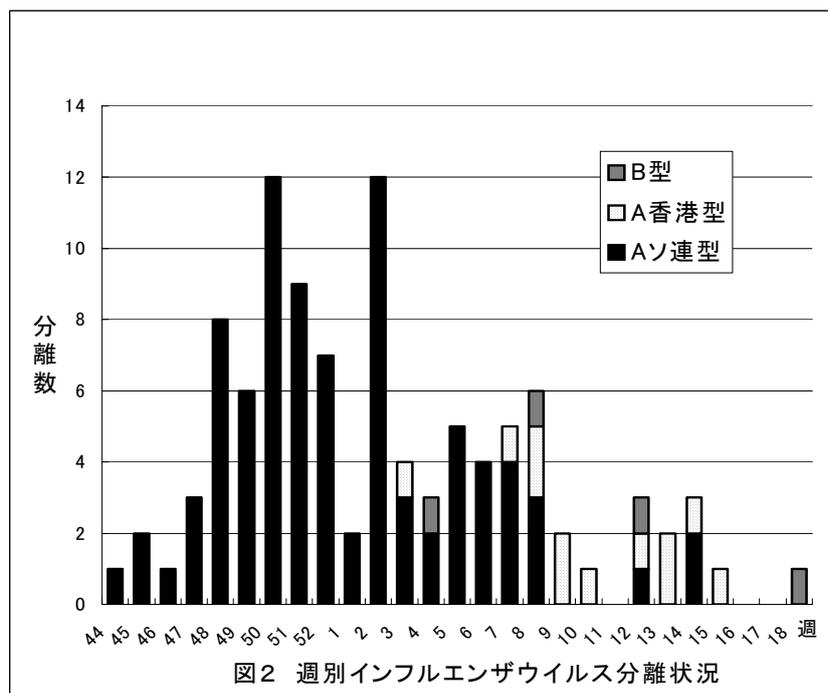


図2 週別インフルエンザウイルス分離状況

(5) インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

平成 19 年 9 月に採取された 0 歳以上の県民 266 名 (0~4、5~9、10~14、15~19、20~29、30~39、40~49、50~59、60 歳以上の 9 区分の年齢群各 30 名ずつ、ただし、0~4 歳は 29 名、5~9 歳は 27 名) の血清について、インフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/ソロモン諸島/3/2006、A/広島/52/2005、B/マレーシア/2506/2004、B/フロリダ/7/2004 の 4 種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の 10HI 価と、感染防御能があるとされている 40HI 価の 2 点で集計した。

A/ソロモン諸島/3/2006 は、19 年度から新しく A ソ連(H1)型のワクチン株に採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 15~19 歳の 90.0%、最低が 0~5 歳の 13.8%、40HI 価でみると最高が 15~19 歳の 83.3%、最低は 60 歳以上の 6.7%であった。15~29 歳および 50~59 歳では前年度よりも抗体保有率の上昇がみられたが、他の年齢群では低下が見られ、特に 0~9 歳および 30 歳以上では抗体獲得が不十分と考えられるため、これらの年齢群では、A ソ連(H1)型の流行が懸念された。(図 1. a)

A/広島/52/2005 は、18 年度から A 香港(H3)型のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 10~14 歳の 96.7%、最低が 0~4 歳の 58.6%、40HI 価でみると最高が 10~14 歳の 76.7%、最低が 30~39 歳の 13.3%であった。前年度よりも全体的に抗体保有率の上昇が見られ、前シーズンの A 香港(H3)型の流行を反映していると考えられた。(図 1. b)

B/マレーシア/2506/2004 は、18 年度から B 型のワクチン株として採用されており、“ビクトリア系統”に属する株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 20~29 歳の 66.7%、最低が 0~4 歳の 13.8%であった。40HI 価でみると最高が 30~39 歳の 30.0%、最低が 0~4 歳の 3.4%であった。ビクトリア系統株に対する抗体保有率は、全体的に前年度よりも上昇がみられ、前シーズンの B 型(ビクトリア系統)の流行を反映していると考えられた。(図 1. c)

B/フロリダ/7/2004 は、B 型のワクチン株(マレーシア株)とは別系統の“山形系統”に属する株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 15~19 歳および 20~29 歳の 93.3%、最低が 0~4 歳の 17.2%であった。40HI 価でみると最高が 15~19 歳の 80.0%、最低が 0~4 歳の 3.4%であった。全体的に前年度よりも抗体保有率の低下がみられた。(図 1. d)

40HI 価以上の抗体保有者の割合が 50%未満の年齢群をみると、A ソ連(H1)型は 0~9 歳および 30 歳以上の各年齢群、A 香港(H3)型は 0~4 歳および 30~59 歳の各年齢群、B 型のビクトリア系統は全年齢群、B 型の山形系統は 0~14 歳および 30 歳以上の各年齢群、がそれに該当した。これらの年齢群ではインフルエンザに対する警戒が必要であると考えられた。(渡邊寿美、齋藤隆行、尾上洋一)

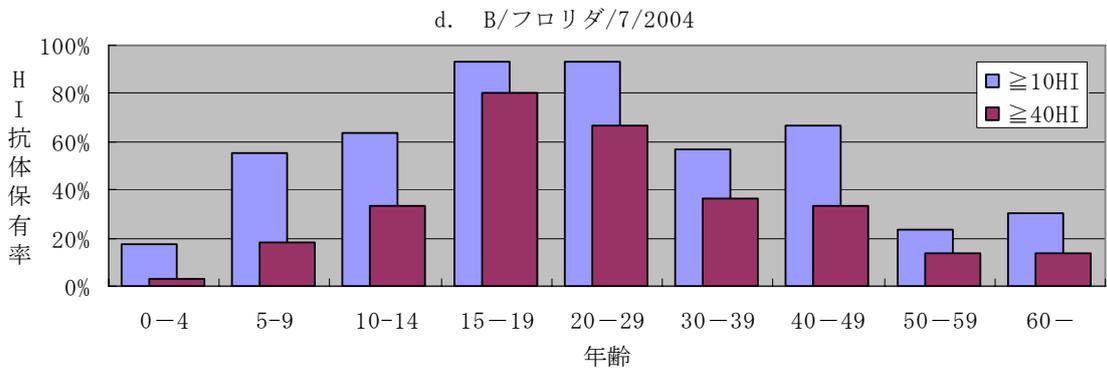
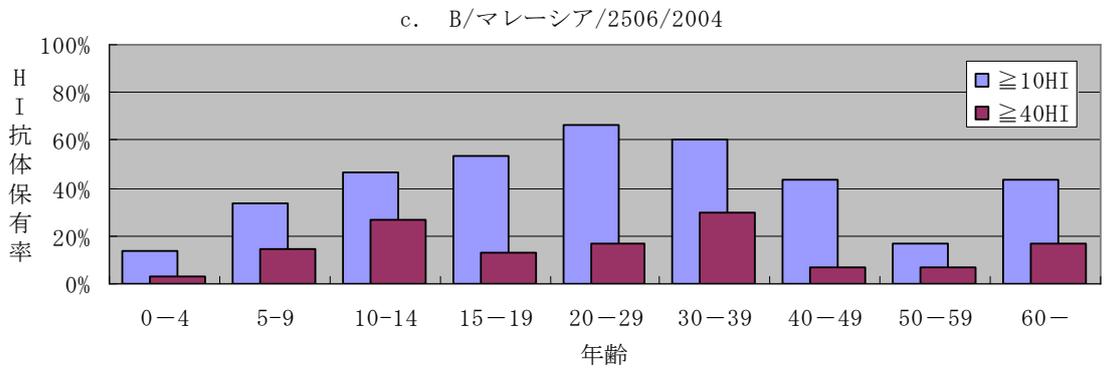
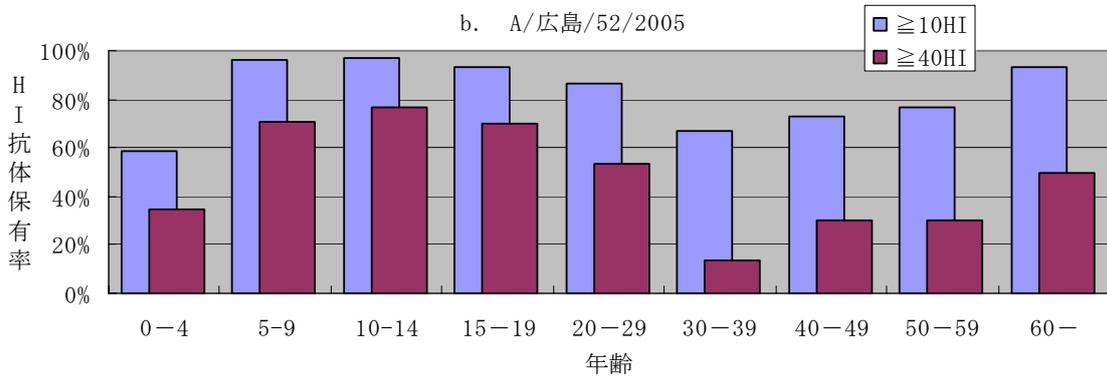
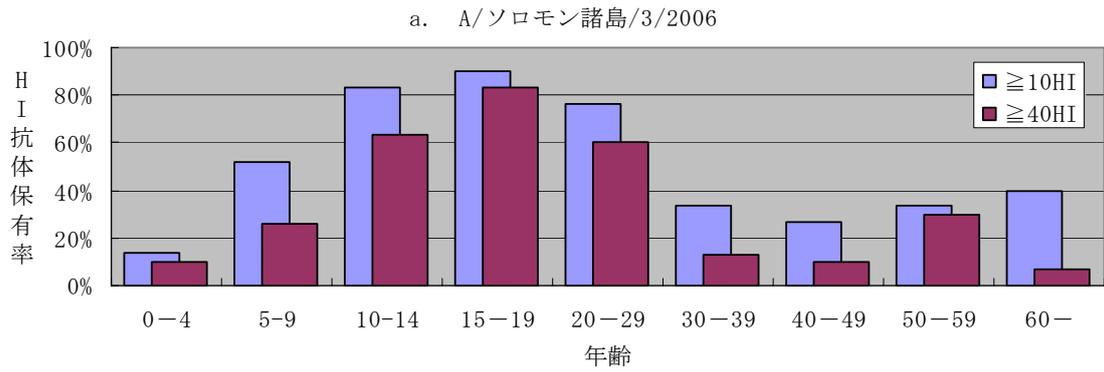


図1 インフルエンザ感受性調査

2 HIV/エイズ

(1) 神奈川県 HIV/エイズの概況

平成 19 年の神奈川県の HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で増加し 97 人であった。感染者及び患者数ともに増加した(表 1)。

表 1 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移 (神奈川県) (人)

		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	昭和60年からの累計
男性	総数	64	50	65	62	73	74	59	66	85	869
	感染者	39	32	36	40	39	45	41	45	53	538
	患者	25	18	29	22	34	29	18	21	32	331
女性	総数	15	12	18	7	13	8	10	12	12	204
	感染者	15	9	10	7	5	8	7	9	7	155
	患者	0	3	8	0	8	0	3	3	5	49
合計	総数	79	62	83	69	86	82	69	78	97	1,073
	感染者	54	41	46	47	44	53	48	54	60	693
	患者	25	21	37	22	42	29	21	24	37	380

平成 11 年以降の全国に占める神奈川県の HIV 感染者・エイズ患者数の割合は、総数において昨年より増加し、平成 19 年は 6.7%であった。エイズ患者数の割合が 9.3%と大きく増加した。全国に占める割合が最も高いのは女性の患者数で 12.8%を占めた(表 2)。

表 2 HIV 感染者・エイズ患者の性別全国比の推移 (神奈川県/全国) (%)

		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	昭和60年からの累計
男性	総数	9.5	7.5	8.0	7.7	8.4	7.1	5.3	5.4	6.4	7.6
	感染者	9.3	8.2	6.7	7.5	6.8	6.4	5.3	5.2	5.4	7.2
	患者	9.7	6.4	10.3	8.2	11.7	8.4	5.3	5.7	8.9	8.5
女性	総数	9.7	9.8	13.1	5.9	11.6	6.5	11.1	9.4	10.7	8.4
	感染者	13.4	12.3	11.5	9.0	7.5	9.8	11.1	10.1	9.6	8.2
	患者	0.0	6.1	16.0	0.0	17.8	0.0	11.1	7.9	12.8	8.9
合計	総数	9.5	7.8	8.7	7.5	8.8	7.0	5.8	5.7	6.7	7.8
	感染者	10.2	8.9	7.4	7.7	6.9	6.8	5.8	5.7	5.7	7.4
	患者	8.3	6.4	11.1	7.1	12.5	7.5	5.7	5.9	9.3	8.5

エイズ相談件数は 5 年連続で増加し、平成 19 年の相談件数は前年比 32.2%増の 22,585 件であった。(表 3)。

表 3 エイズ相談件数年次推移 (件)

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
県域	2,567	2,923	3,582	2,560	2,648	3,462	3,815	6,373	9,244
横浜市	5,483	5,425	6,316	5,110	5,269	4,891	5,396	5,937	7,251
川崎市	2,219	2,475	3,361	3,124	3,626	3,972	3,925	2,852	3,222
横須賀市	679	581	484	522	617	603	521	641	1,005
相模原市	-	248	436	291	492	847	939	981	1,251
藤沢市	-	-	-	-	-	-	-	305	612
合計	10,948	11,652	14,179	11,607	12,652	13,775	14,596	17,089	22,585
前年比 (%)	-8.8	6.4	21.7	-18.1	9.0	8.9	6.0	17.1	32.2

*相模原は平成 12 年 4 月から、藤沢は平成 18 年 4 月から保健所設置市

エイズ検査件数も 5 年連続で増加し、平成 19 年は前年比 22.3%増の 11,768 件であった。横浜市での検査件数が全体の 43%を占めた(表 4)。 (近内 美乃里)

表4 HIV検査実施件数年次推移

(件)

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
県域	1,630	1,235	1,583	1,045	1,026	1,247	1,553	2,258	3,078
横浜市	2,740	2,787	3,759	2,763	3,036	3,197	3,601	4,432	5,092
川崎市	1,451	1,405	1,818	1,560	1,802	2,077	1,943	2,083	2,381
横須賀市	211	195	201	218	237	299	293	298	440
相模原市		193	357	236	301	401	477	434	585
藤沢市								115	192
合計	6,032	5,815	7,718	5,822	6,402	7,221	7,867	9,620	11,768
前年比 (%)	-6.7	-3.6	32.7	-24.6	10.0	12.8	8.9	22.3	22.3

*相模原は平成12年4月から、藤沢は平成18年4月から保健所設置市

(※表1～表4数値: 県健康増進課提供)

(2) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)におけるHIV検査の実施状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)では、昭和62年2月より保健所においてHIV抗体検査の受付が開始され、当衛研で検査を行っている。平成5年4月からはHIV抗体検査が無料化され、同年8月からはHIV-1型抗体検査に加え、HIV-2型抗体検査も検査が可能となった。

平成11年8月からは厚生労働省「HIV検査体制研究班」の協力により、夜間検査を行っている大和保健福祉事務所の検体について核酸増幅スクリーニング検査(NAT検査)を導入し、平成17年8月からはHIV即日検査機関として横浜YMCA(厚木)に「厚木即日検査センター」を開設、平成18年4月からは平塚保健福祉事務所、6月からは厚木、茅ヶ崎、小田原各保健福祉事務所においても即日検査を実施している。また、11月から平成19年9月までは大和保健福祉事務所において、平成19年11月からは秦野保健福祉事務所において、HIV検査受検者で性感染症検査を希望する人に対し、梅毒抗体検査、性器クラミジア感染症検査が実施された。

HIV検査数は検査が無料化された平成5年をピークに年々減少傾向にあったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成16年以降、当県でも検査数が増加し始め、平成17年のHIV即日検査センターの設置、平成18年の保健福祉事務所への即日検査の導入により、検査数が急激に増加している(図1)。

平成19年の検査数は3,080件であり、検査種別で見ると、日曜即日検査では1,093件、保健福祉事務所の即日検査では1,237件、大和保健福祉事務所の平日および夜間通常検査では533件、その他の保健所の平日通常検査では217件であった(表1)。即日検査では日曜、保健福祉事務所いずれも平成18年の検査数(それぞれ874件、712件)を大きく上回った。また、大和、秦野両保健福祉事務所で希望者に梅毒、性器クラミジア感染症検査を実施したことにより、平日通常検査件数も増加がみられた。即日検査の利便性や、他の性感染症検査も実施することによりHIV検査受検者数の増加が実現できた。

陽性数は5件ですべてHIV-1型であった。検査の種類では、日曜即日検査が3件(陽性率0.3%)、保健所での即日検査が2件(陽性率0.2%)、その他の保健所の平日通常検査では陽性はなかった(表1)。陽性5例の性別および国籍は、男性は4例ですべて日本国籍、女性は1例で外国籍であった。

受検者にとって利便性の高い検査機関が増え、検査が受けやすくなりHIV検査数は増加傾向にあるが、陽性数は横ばい状態にあり、まだ検査を受けに来ないハイリスクグループが潜在していると思われる。

今後も、さらにHIV検査体制を強化するとともに検査の普及啓発活動にもさらに重点をおいて取り組んでいく必要があると考える。(佐野貴子、近藤真規子、渡邊寿美、齋藤隆行、尾上洋一)

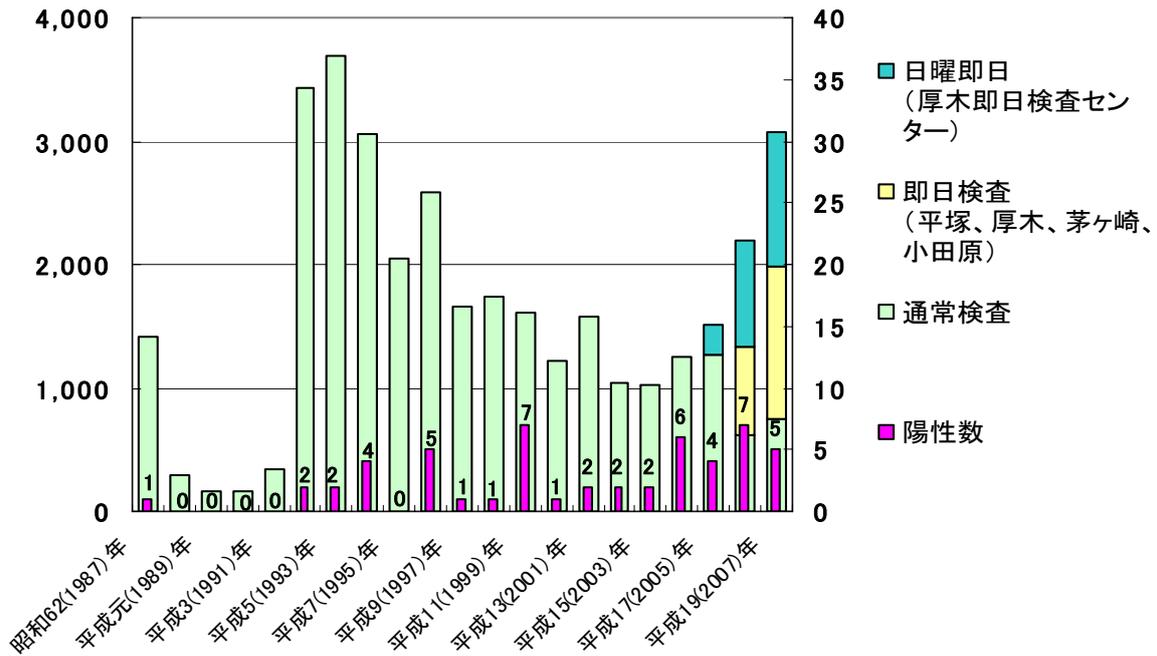


図1 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)のHIV検査数、陽性数の推移

- * 相模原は平成12年4月から、藤沢は平成18年4月から保健所設置市となった。
- * 津久井は平成19年4月相模原市に統合。
- * 厚木即日検査センターは平成17年8月、平塚保健福祉事務所は平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原保健福祉事務所は平成18年6月から即日検査を開始。

表1 平成19年 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)での検査種類別による検査数、陽性数

検査の種類	検査数	陽性数	陽性率 (%)
日曜即日検査 (厚木即日検査センター)	1,093	3	0.3%
即日検査 *	1,237	2	0.2%
大和保健福祉事務所通常検査 (平日+夜間)	533	0	0.0%
平日通常検査 **	217	0	0.0%
合計	3,080	5	0.2%

* 平塚、厚木、茅ヶ崎、小田原(平成19年1~12月)

** 津久井(平成19年1~3月)、鎌倉、秦野、足柄上、三崎(平成19年1~12月)

平成19年(1月~12月) 保健所別・検査数

平塚	鎌倉	小田原	茅ヶ崎	三崎	秦野	大和	足柄上	厚木	津久井	厚木 YMC	計
496	100	123	275	6	95	533	15	343	1	1,093	3,080

3 ウイルス性感染性胃腸炎

(1) 概況

平成19年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は、前年の111件から横ばいの114件であり、横浜市での発生件数は71件で全体の半数以上を占めた。

検査人数は1,411人から減少して957人となった。また、検査人数に対する陽性者数の割合は前年の51%から若干上回り54%であった(表)。

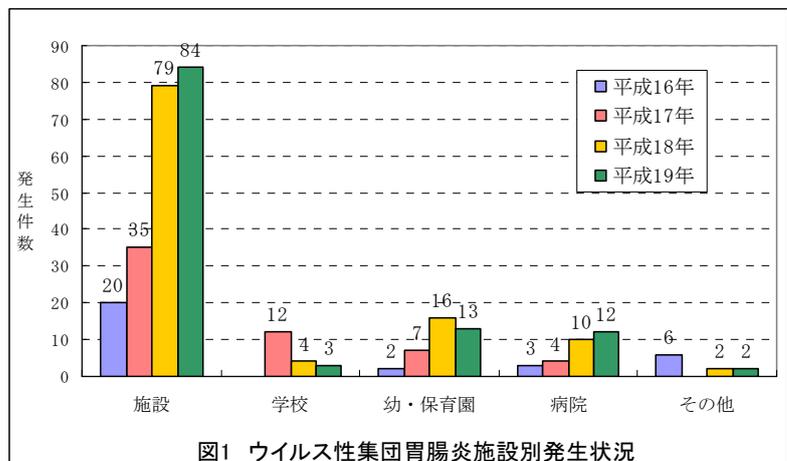
表 ウイルス性感染性胃腸炎集団発生状況

	平成17年				平成18年				平成19年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	25	337	230	68	63	815	397	49	71	553	313	57
川崎市	12	217	91	42	15	111	55	50	22	163	79	48
横須賀市	1	36	9	25	10	217	116	53	11	158	89	56
相模原市	2	39	20	51	1	7	7	100	3	13	8	62
藤沢市					3	13	11	85	1	5	5	100
上記を除く神奈川県	18	230	133	58	19	248	137	55	6	59	21	36
計	58	859	483	56	111	1411	723	51	114	951	515	54

次に、施設別発生状況では、平成19年は高齢者等の施設が全体の約71%の81件、病院が12%の14件、幼・保育園が約11%の13件となっていた。

(図1)

また、月別発生状況では、18年12月のピーク時の53件から、平成19年1月には32件と若干落ちつき次第に減少傾向を示したが、再び10月に発生し12月には33件となった。(図2)



(2) 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が6事例確認された。ノロウイルスが4事例より検出され、その遺伝子群は4事例すべてGⅡであった。その他にC群ロタウイルスが1事例、サポウイルスが1事例より検出された。

昨年はほとんどがノロウイルスによる事例であったが、今年はC群ロタウイルス、サポウイルスによる集団事例が2年ぶりに発生した。

（宮原香代子、原田美樹、片山 丘、古屋由美子、尾上洋一）

表 ウイルスによる集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19.3	施設	24	2	2	ノロウイルス	GⅡ
2	H19.3	施設	11	30	9	ノロウイルス	GⅡ
3	H19.5	学校	不明	19	4	C群ロタウイルス	
4	H19.10	施設	不明	4	2	サポウイルス	
5	H19.11	施設	5	2	2	ノロウイルス	GⅡ
6	H19.12	学校	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
				59	21		

(3) 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成19年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は75事例であった。ノロウイルスが70事例より検出され、その遺伝子群はGⅡが69事例、GⅠが1事例であり、GⅡが大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にサポウイルスが1事例より検出された。

（野口有三、宇宿秀三、熊崎真琴、佐々木一也）

表 ウイルス性集団胃腸炎の検出結果 横浜市衛生研究所

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19.1	高齢者施設	?	5	5	ノロウイルス	GII
2	H19.1	高齢者施設	?	3	3	ノロウイルス	GII
3	H19.1	高齢者施設	15	5	4	ノロウイルス	GII
4	H19.1	高齢者施設	?	4	4	ノロウイルス	GII
5	H19.1	高齢者施設	?	4	4	ノロウイルス	GII
6	H19.1	高齢者施設	16	5	5	ノロウイルス	GII
7	H19.1	高齢者施設	?	2	1	ノロウイルス	GII
8	H19.1	高齢者施設	?	3	3	ノロウイルス	GII
9	H19.1	高齢者施設	?	4	4	ノロウイルス	GII
10	H19.1	福祉施設	?	1	1	ノロウイルス	GII
11	H19.1	高齢者施設	?	4	3	ノロウイルス	GII
12	H19.1	高齢者施設	10	3	3	ノロウイルス	GII
13	H19.1	高齢者施設	?	5	4	ノロウイルス	GII
14	H19.1	高齢者施設	?	8	7	ノロウイルス	GII
15	H19.1	高齢者施設	?	10	6	ノロウイルス	GII
16	H19.1	高齢者施設	?	4	2	ノロウイルス	GII
17	H19.1	病院	?	5	4	ノロウイルス	GII
18	H19.1	高齢者施設	?	3	2	ノロウイルス	GII
19	H19.2	病院	?	5	4	ノロウイルス	GII
20	H19.2	病院	28	49	24	ノロウイルス	GII
21	H19.2	高齢者施設	14	11	9	ノロウイルス	GII
22	H19.2	福祉施設	33	20	9	ノロウイルス	GII
23	H19.2	高齢者施設	?	2	2	ノロウイルス	GII
24	H19.2	高齢者施設	?	5	4	ノロウイルス	GII
25	H19.2	病院	?	5	5	ノロウイルス	GII
26	H19.2	高齢者施設	20	9	2	ノロウイルス	GII
27	H19.2	高齢者施設	?	1	1	ノロウイルス	GII
28	H19.2	高齢者施設	5	8	4	ノロウイルス	GII
29	H19.3	病院	?	24	12	ノロウイルス	GII
30	H19.3	福祉施設	35	30	15	ノロウイルス	GII
31	H19.3	福祉施設	?	10	4	ノロウイルス	GII
32	H19.3	高齢者施設	40	19	7	ノロウイルス	GII
33	H19.4	保育園	29	12	5	ノロウイルス	GII
34	H19.4	高齢者施設	?	3	3	ノロウイルス	GII
35	H19.4	福祉施設	5	5	3	ノロウイルス	GII
36	H19.5	小学校	20	19	12	ノロウイルス	GI
37	H19.6	高齢者施設	?	5	2	ノロウイルス	GII
38	H19.6	高齢者施設	?	15	6	ノロウイルス	GII
39	H19.6	福祉施設	13	5	3	サポウイルス	
40	H19.10	病院	?	3	3	ノロウイルス	GII
41	H19.11	保育園	?	5	3	ノロウイルス	GII
42	H19.11	幼稚園	?	1	1	ノロウイルス	GII
43	H19.11	幼稚園	?	4	4	ノロウイルス	GII
44	H19.11	福祉施設	12	15	3	ノロウイルス	GII
45	H19.11	その他	3	3	3	ノロウイルス	GII
46	H19.11	保育園	?	11	7	ノロウイルス	GII
47	H19.11	高齢者施設	?	4	2	ノロウイルス	GII
48	H19.12	病院	?	2	1	ノロウイルス	GII
49	H19.12	病院	?	10	8	ノロウイルス	GII
50	H19.12	保育園	38	7	7	ノロウイルス	GII
51	H19.12	保育園	?	3	2	ノロウイルス	GII
52	H19.12	保育園	?	4	4	ノロウイルス	GII
53	H19.12	保育園	?	6	3	ノロウイルス	GII
54	H19.12	保育園	?	6	3	ノロウイルス	GII
55	H19.12	高齢者施設	21	7	7	ノロウイルス	GII
56	H19.12	高齢者施設	?	3	3	ノロウイルス	GII
57	H19.12	その他	?	38	8	ノロウイルス	GII
58	H19.12	病院	?	5	2	ノロウイルス	GII
59	H19.12	病院	3	3	2	ノロウイルス	GII
60	H19.12	高齢者施設	12	4	3	ノロウイルス	GII
61	H19.12	病院	?	4	4	ノロウイルス	GII
62	H19.12	高齢者施設	16	4	4	ノロウイルス	GII
63	H19.12	小学校	8	16	3	ノロウイルス	GII
64	H19.12	高齢者施設	19	1	1	ノロウイルス	GII
65	H19.12	保育園	?	3	2	ノロウイルス	GII
66	H19.12	高齢者施設	?	5	4	ノロウイルス	GII
67	H19.12	高齢者施設	11	21	4	ノロウイルス	GII
68	H19.12	病院	12	4	3	ノロウイルス	GII
69	H19.12	高齢者施設	9	4	3	ノロウイルス	GII
70	H19.12	高齢者施設	8	1	1	ノロウイルス	GII
71	H19.12	高齢者施設	?	6	4	ノロウイルス	GII

553

313

(4) 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市衛生研究所

川崎市ではノロウイルスを原因とした集団胃腸炎が21例発生した。検出された遺伝子群はすべてGⅡであった。また、ロタウイルスを原因とした集団胃腸炎が1例発生し、A群であった。

(清水英明、奥山恵子)

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19. 1	施設	26	3	2	ノロウイルス	GⅡ
2	H19. 1	施設	25	3	2	ノロウイルス	GⅡ
3	H19. 1	施設	52	15	6	ノロウイルス	GⅡ
4	H19. 1	病院	62	2	2	ノロウイルス	GⅡ
5	H19. 1	保育園	14	6	4	ノロウイルス	GⅡ
6	H19. 1	病院	42	27	5	ノロウイルス	GⅡ
7	H19. 1	施設	16	11	4	ノロウイルス	GⅡ
8	H19. 1	施設	35	5	2	ノロウイルス	GⅡ
9	H19. 1	施設	42	5	5	ノロウイルス	GⅡ
10	H19. 1	施設	41	3	2	ノロウイルス	GⅡ
11	H19. 1	施設	59	11	5	ノロウイルス	GⅡ
12	H19. 3	施設	21	5	5	ノロウイルス	GⅡ
13	H19. 3	施設	16	4	3	ノロウイルス	GⅡ
14	H19. 3	乳幼児施設	18	5	5	ロタウイルス	A群
15	H19. 11	施設	32	12	5	ノロウイルス	GⅡ
16	H19. 11	施設	18	15	6	ノロウイルス	GⅡ
17	H19. 12	施設	22	5	2	ノロウイルス	GⅡ
18	H19. 12	施設	13	3	2	ノロウイルス	GⅡ
19	H19. 12	施設	57	9	4	ノロウイルス	GⅡ
20	H19. 12	施設	31	6	3	ノロウイルス	GⅡ
21	H19. 12	施設	12	3	2	ノロウイルス	GⅡ
22	H19. 12	施設	57	5	3	ノロウイルス	GⅡ

163

79

(5) 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではノロウイルスが原因の集団胃腸炎が11事例発生した。検出遺伝子群は全てGⅡであった。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19. 1	施設	13	13	12	ノロウイルス	G II
2	H19. 1	施設	9	9	9	ノロウイルス	G II
3	H19. 1	施設	7	7	5	ノロウイルス	G II
4	H19. 2	施設	16	17	6	ノロウイルス	G II
5	H19. 2	施設	14	14	11	ノロウイルス	G II
6	H19. 2	施設	3	3	3	ノロウイルス	G II
7	H19. 7	施設	35	35	11	ノロウイルス	G II
8	H19. 11	施設	4	4	3	ノロウイルス	G II
9	H19. 11	施設	2	10	2	ノロウイルス	G II
10	H19. 12	施設	41	41	22	ノロウイルス	G II
11	H19. 12	施設	5	5	5	ノロウイルス	G II
				158	89		

(6) 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

平成19年1月から12月の間に、ノロウイルスを原因とした感染症としての集団胃腸炎で、当所において検査を行ったものは3事例であった。検出された遺伝子群はすべてG IIであった。

(青木響子、清水壽美子、田向香織、前谷史恵、笹野亜也子、金沢聡子)

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19. 5	施設	16	4	2	ノロウイルス	G II
2	H19. 10	幼稚園	69	6	3	ノロウイルス	G II
3	H19. 11	施設	65	3	3	ノロウイルス	G II
				13	8		

(7) 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成19年1月から12月の間に、ノロウイルスを原因とした感染症としての集団胃腸炎が1例発生した。検出された遺伝子群はG IIであった。(佐藤 健、今井良美、寺田直樹、安田哲夫)

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H19.11	施設	88	5	5	ノロウイルス	G II
				5	5		

4 ウエストナイル熱

(1) 概況

県内では平成15年からウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランスを行っているが、国内では、これまでウエストナイルウイルス遺伝子は検出されていない。平成19年は、横浜市、川崎市、横須賀市が34箇所から9,895匹を採取して検査を行ったが、全ての検体で検出されなかった。

(2) 横浜市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

近年、米国におけるWNVの流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡カラスと蚊を用いたWNVのサーベイランス事業を平成15年7月15日から実施している。

蚊における調査は、昨年度と同様にドライアイス併用のライトトラップにより採集された蚊を用いて行った。ライトトラップの設置場所は、環境創造局管理の公園計18箇所（各区1箇所）及び港湾局管理の敷地内2箇所の合計20箇所と、中区の独自事業の2箇所（横浜公園と本牧市民公園）の総計22箇所である。採集方法としては、毎週火曜日の夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝にライトトラップと採集された蚊を回収する方法で行い、午前中までに当所へ蚊が搬入された。これら一連のライトトラップの設置、検体（死亡カラスと蚊）の回収、当所への検体の搬送に関しては、神奈川県ペストコントロール協会に委託して実施した。蚊の採集期間は、6月12日から10月23日までの全20週実施し、

表 横浜市のWNV検査結果

区名	トラップ設置公園	住所	年間設定回数					総計	内 訳								
			1~3 6月 集計	4~8 7月 集計	9~12 8月 集計	13~16 9月 集計	17~20 10月 集計		アカイエ カ群	ヒトスジ シマカ	コガタア カイエカ	ヤマトヤ ブカ	その他				
環境創造局(公園)トラップ設置場所																	
1 鶴見	馬場花木園	馬場2-20-1	90	152	305	587	187	1321	28	1164	1	21	107				
2 神奈川	三ツ沢公園	三ツ沢西町3-1	64	151	381	544	230	1370	12	1355	0	1	2				
3 西	野毛山公園	老松町63-10	58	73	29	27	6	193	147	39	1	5	1				
4 中	根岸森林公園	根岸台	87	95	129	59	38	408	258	120	4	25	1				
5 南	清水ヶ丘公園	清水が丘73-1	43	68	97	156	63	427	24	365	2	33	3				
6 港南	久良岐公園	上大岡東3-12-1	4	17	60	58	4	143	4	101	1	0	37				
7 保土ヶ谷	横浜市児童遊園地	狩場町213	43	49	52	82	143	369	81	59	1	22	206				
8 旭	こども自然公園	上大池町65	9	29	31	33	3	105	40	50	5	4	6				
9 磯子	根岸なつかし公園	下町86	49	31	44	40	22	186	57	115	3	7	4				
10 金沢	長浜公園	長浜106-6	35	36	88	29	68	256	36	213	2	1	4				
11 港北	岸根公園	岸根町725	29	64	45	43	42	223	126	92	0	1	4				
12 緑	霧が丘公園	霧が丘5-24	5	7	28	16	15	71	2	54	0	10	5				
13 青葉	桜台公園	桜台42	7	24	123	79	26	259	126	125	3	0	5				
14 都筑	都筑中央公園	茅ヶ崎中央57	8	41	33	30	6	118	26	60	3	20	9				
15 戸塚	舞岡公園	舞岡町1703	10	28	13	73	59	183	9	63	1	9	101				
16 栄	飯島わんわん公園	飯島町2908-2	8	24	23	49	112	216	14	187	0	5	10				
17 泉	泉中央公園	和泉町3026-1	7	38	68	25	24	162	4	107	0	4	47				
18 瀬谷	瀬谷猿窪公園	阿久和西3-52-6	15	13	55	36	16	135	0	39	0	50	46				
港湾局トラップ設置場所																	
19 中	シンボルタワー	本牧埠頭1-16	93	413	211	118	233	1068	891	78	97	0	2				
20 鶴見	大黒中央公園	大黒埠頭1	32	148	68	222	192	662	162	489	8	3	0				
中区独自事業																	
21 中	横浜公園	横浜公園	23	85	97	34	81	320	224	88	7	1	0				
22 中	本牧市民公園	三之谷59	41	142	300	66	71	620	20	592	4	1	3				
総 計			760	1728	2280	2406	1641	8815	2291	5555	143	223	603				
蚊の種類			回数	1~3	4~8	9~12	13~16	17~20	総計								
アカイエカ群				372	745	493	219	462	2291								
ヒトスジシマカ				276	772	1587	1953	967	5555								
コガタアカイエカ				5	80	10	38	10	143								
ヤマトヤブカ				82	61	40	17	23	223								
その他				25	70	150	179	179	603								
総 計				760	1728	2280	2406	1641	8815								
WNV遺伝子の検出結果				(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)								

検査した蚊の総個体数は、8,815 匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群 2,291 匹、ヒトスジシマカ 5,555 匹、コガタアカイエカ 143 匹、ヤマトヤブカ 223 匹、その他 603 匹であった。WNV の検査結果は、全て不検出であった。

(3) 川崎市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

川崎市衛生研究所

市内 7 箇所の保健所に設置したライトトラップに捕獲された蚊を毎週 1 回採取し、平成 19 年 4 月 5 日から 11 月 28 日まで(全 35 週 140 回)の蚊におけるウエストナイルウイルスの保有状況 140 件、また、ヒトスジシマカにおいてはデングウイルスの保有状況 52 件も併せて調査した。

市内 4 箇所の公園に設置したライトトラップに捕獲された蚊を毎週 1 回採取し、平成 18 年 6 月 11 日から 10 月 22 日まで(全 20 週 101 回)の蚊におけるウエストナイルウイルスの保有状況 101 件を、また、ヒトスジシマカにおいてはデングウイルスの保有状況 29 件も調査した。

検査は PCR 法を用いて行った。1027 匹の蚊においてウエストナイルウイルス遺伝子はすべて陰性であった。また、ヒトスジシマカ 177 匹のデングウイルス遺伝子もすべて陰性であった。蚊の種類はアカイエカ群が全体の 77.8% (799/1027)、ヒトスジシマカが 17.2% (177/1027)、オオクロヤブカ 1.9% (20/1027)、コガタアカイエカは 1.5% (15/1027)、ヤマトヤブカ 1.1% (11/1027) であった。

(清水英明、石丸陽子)

表 川崎市の WNV サーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

保健所検査分										公園検査分						
採取日2007年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計	採取日2,007年	6月	7月	8月	9月	10月	総計
川崎保健所	2	5	6	13	7	10	12	5	60	東扇島中公園	5	8	2	9	2	26
幸保健所	3		1	4	4	2	5	2	21	夢見ヶ崎動物公園	4	4	4	2	4	18
中原保健所	1	1	1	4	2		2		11	緑ヶ丘霊園	5	6	8	5	3	27
高津保健所			3	5	4	3	2	2	19	早野聖地公園	3	5	5	3	3	19
宮前保健所	2		1	1			1	1	6	合計	17	23	19	19	12	90
多摩保健所		1	3	3	1	1	1	1	11	蚊の種類						
麻生保健所		1	1	2			4	4	12	アカイエカ群	171	82	56	143	234	686
合計	8	8	16	32	18	16	27	15	140	ヒトスジシマカ	18	19	41	27	5	110
蚊の種類										コガタアカイエカ		1		4		5
アカイエカ群	11	7	21	27	7	8	17	15	113	トラフカクイカ		1				1
ヒトスジシマカ			5	18	17	8	19		67	ヤマトヤブカ	9		1		1	11
コガタアカイエカ		1		1		1	4	3	10	オオクロヤブカ		3	2	2	13	20
総計	11	8	26	46	24	17	40	18	190	キンバラナガハシカ			1		2	3
WNV 遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	フタクロホシチビカ	1		1			2						
デングウイルス遺伝子の検出結果			陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	WNV 遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
										デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(4) 横須賀市のウエストナイル熱媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱媒介蚊の調査として平成19年6月より9月まで計4回、当センター敷地内にて蚊を捕獲（ドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法）し、分類した後、RT-PCR 法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した53匹の蚊（イエカ類49匹、ヤブカ類4匹）から遺伝子は検出されなかった。

今後もウエストナイルウイルスの国内侵入、流行、拡大を防止するため、引き続き調査を行い監視することが必要と思われる。
(蛭田徳昭)

表 横須賀市のウエストナイルウイルス遺伝子検査結果

	採取日	種類	匹数	結果
6月分	6月29日	イエカ類	25	陰性
6月分	6月29日	ヤブカ類	1	陰性
7月分	7月25日	イエカ類	9	陰性
7月分	7月25日	ヤブカ類	3	陰性
8月分	8月22日	イエカ類	8	陰性
9月分	9月20日	イエカ類	7	陰性
計			53	

5 その他のウイルス性感染症

(1) 日本脳炎

ア 概況

全国では日本脳炎患者は毎年5～8人程度の報告があるが、神奈川県内では平成2年を最後に発生報告はない。神奈川県衛生研究所では豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査を行っており、豚の日本脳炎ウイルス抗体の保有率は低い。また、横浜市衛生研究所ではウエストナイルウイルス(WNV)のサーベイランス事業として採取した蚊の日本脳炎ウイルスの検査を実施しており、蚊から日本脳炎ウイルスは検出されていない。

イ 神奈川県((横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

近年におけるわが国の日本脳炎患者は、西日本を中心に発生が見られている。日本脳炎ウイルスの侵淫度を追跡し流行予測を行うため、豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況を調査した。

神奈川県食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、平成19年7月から9月までの期間に、8回、20頭ずつ、計160頭について、血中のJaGAr01株に対する血球凝集抑制抗体及び2-メルカプトエタノール感受性抗体をそれぞれ測定した。

その結果、160検体すべて血球凝集抑制抗体は検出されなかった。この結果より、今年度は県内での日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかった。神奈川県では平成19年度も平成18年度と同様に、患者発生はなかった。(原田美樹、古屋由美子、尾上洋一)

表 日本脳炎ウイルスに対するHI抗体保有状況

採血月日	検査数	HI抗体価							抗体陽性率 (%)	2-メルカプトエタ ノール感受性抗体 保有率(%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
7.12	20	20							0.0	
7.24	20	20							0.0	
8.9	20	20							0.0	
8.21	20	20							0.0	
8.30	20	20							0.0	
9.6	20	20							0.0	
9.11	20	20							0.0	
9.20	20	20							0.0	

(2) 神奈川県((横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の麻疹抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

昭和53年から義務接種として始まった、わが国の麻疹ワクチンの接種は、平成6年10月の予防接種法改正にともない勧奨性になり、平成18年4月から2回接種となった。小児の麻疹ウイルスに対する免疫状態を把握しておくことが必要なことから、昭和54年以降、麻疹ウイルスに対する抗体の保有状況調査を行っている。

平成19年8月から12月の間に採取された小児の血清87例について麻疹ウイルス抗原を吸着してあるゼラチン粒子による凝集反応法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。

年齢別の抗体保有率は1歳以下が68.8%、他の年齢層（2～14歳）は81.8～100%を示し、平均抗体保有率は87.4%であった。

今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握を行うとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及してゆくことが大切と思われる。

（古屋由美子、宮原香代子、片山 丘、尾上洋一）

表 麻しん抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成19年（採血 平成19年 8月～12月）										18年	17年	16年	15年	
	PA抗体価									検査数 (人)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	陽性率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024						
0～1	5	1	2	1	1	1	2	1	2	16	68.8	66.7	61.5	73.7	76.2
2～3							3	5	3	11	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
4～5							3	3		6	100.0	94.4	100.0	100.0	100.0
6～7	2			1		1	3	4		11	81.8	100.0	100.0	100.0	100.0
8～9				2	1	3	2	3	2	13	100.0	100.0	92.9	100.0	100.0
10～14	4			2	7	3	10	1	3	30	86.7	86.7	93.5	93.9	88.5
合計(人)	11	1	2	6	9	8	23	17	10	87	87.4	88.4	91.2	92.2	90.7
(%)	12.6	1.1	2.3	6.9	10.3	9.2	26.4	19.5	11.5		100.0				

（3）神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の風しん抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

風疹流行の予測とその推移を知るため、住民の風疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。

平成19年においては、一般健康人男女186名を対象として、風疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

結果は年齢別抗体保有状況を陰性率で見ると、1歳以下50.0%、1～4歳11.1%、5～9歳20.0%、10～14歳30.0%、15歳以上5.0～35.0%となり平均陰性率は18.8%であった。

次に抗体価をみると16～128倍が74.2%を占め、平均抗体価は $2^{6.0}$ であった。

以上の成績より、抗体保有率の低い年齢層が今後の感染と流行の主体になると考えられる。これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種は継続して奨励する必要があると思われる。

（古屋由美子、原田美樹、片山 丘、尾上洋一）

表 風しん抗体保有状況

抗体価 年齢(歳)	平成19年（採血 平成19年 8月～12月）										18年	17年	16年	15年	
	HI抗体価									検査数 (人)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	陰性率 (%)	
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024						
<1	4	1		1	2					8	50.0	50.0	70.0	12.5	50.0
1～4	2		1	3	8	3		1		18	11.1	5.0	25.0	35.0	30.0
5～9	4	1	5	6	3	1				20	20.0	20.0	10.0	5.0	10.0
10～14	6	1	3	7	2	1				20	30.0	25.0	45.0	40.0	35.0
15～19	7	1	4	6	1		1			20	35.0	30.0	15.0	20.0	20.0
20～24	1		3	4	6	1				15	6.7	36.4	25.0	25.0	25.0
25～29	1		1	4	7	1	1			15	6.7	21.1	21.4	10.5	22.2
30～34	4		1	1	4	1	1			12	33.3	5.9	12.5	6.3	12.5
35～39	1			8	5	2	1	1		18	5.6	0.0	7.1	14.3	0.0
40～49	4		3	5	3	3	2			20	20.0	5.0	20.0	15.0	30.0
≥50	1	1	1	7	3	7				20	5.0	10.0	10.0	5.0	5.0
合計(人)	35	5	22	52	44	20	6	2	0	186	18.8	16.7	22.1	17.5	20.4
(%)	18.8	2.7	11.8	28.0	23.7	10.8	3.2	1.1	0.0		100.0				

Ⅲ 細菌性感染症

1 腸チフス・パラチフス

(1) 概況

平成19年に報告のあった腸チフスは1件、パラチフスは3件であった。チフスの市域別発生状況は横浜市3件、川崎市で1件であった。前年18年に比べ腸チフスは9件の減、パラチフスは2件の増であった。

(2) 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成19年1月～12月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は1件、パラチフスA菌は2件であった。チフス菌、パラチフスA菌はいずれも海外旅行歴のある患者の静脈血から分離されており、旅行先はチフス菌はラオスとシンガポール、パラチフスA菌はいずれもインド、ネパールであった。情報とチフス菌等のフェージ型別内訳は表に示したとおりである。薬剤感受性は、パラチフスA菌2株はNA耐性であった。うち1名は診定前にレボフロキサシンを服用し一度は解熱したが再燃し、他の薬剤による治療をおこなった。パラチフスA菌のNA耐性は全国的にも増えていることから、今後とも薬剤感受性の動向を監視していきたい。

(松本裕子、山田三紀子、武藤哲典)

表 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	フェージ型	備考
1	H19.4.18	男	25	パラチフスA	4	ネパール、インドへ渡航
2	H19.8.17	男	26	パラチフスA	4	ネパールへ渡航
3	H19.12.14	男	29	チフス	A	ラオス、シンガポールへ渡航

(3) 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果

川崎市衛生研究所

平成19年1～12月に川崎市内で分離されたのはパラチフス菌1件であり、詳細は表に示したとおりである。

(小嶋由香)

表 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	フェージ型	備考
1	12.4	男	27	パラチフスA菌	1	インドから渡航

2 細菌性腸管系感染症

(1) 概況

平成 19 年の腸管出血性大腸菌感染症は前年 18 年よりも減少し、175 件であった。県域が 67 件から 30 件へ減少、横浜市が 64 件から 86 件へ増加、藤沢市が 31 件から 2 件へと大幅減となった。

(2) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌の分離状況

神奈川県衛生研究所

腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の患者が確認された場合には、各医療機関は直ちに所轄の保健所に報告し、これを受けて、所轄保健所は分離された菌株を衛生研究所に送付している。衛生研究所では、集められた菌株について生化学的性状、血清型、毒素型等を確認し、パルスフィールド・ゲル電気泳動 (PFGE) 法による分子疫学調査を実施している。

神奈川県 (横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く) における平成 19 年 1 月～12 月の腸管出血性大腸菌 (EHEC) の受領株数は、O157 が 18 株、O26 が 1 株、計 19 株と前年度および今年度の他自治体と比較して非常に事例が少なく、また、集団事例も認められなかった。表に所轄保健福祉事務所の分離数と毒素型を示した。今年度は、すべての菌株について PFGE 解析を実施したが、散発的集団発生事例も認められず、すべて散発事例であった。薬剤耐性の状況は、O157 で 3 剤耐性 (ABPC・SM・TC) 1 株、2 剤耐性 (TC・SM) 1 株および単剤耐性 (ABPC、TC) がそれぞれ 1 株であった。O26 は 2 剤耐性 (FOM・SM) であった。

(石原ともえ、伊東久美子、黒木俊郎)

表 所轄保健福祉事務所からのEHECの受領状況

	O157		O26	計
	VT1&2	VT2	VT1	
厚木	2	1	1	4
大和	1	1		2
秦野	3			3
茅ヶ崎	4	3		7
平塚	1			1
鎌倉		1		1
小田原		1		1
計	11	7	1	19

(3) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)の赤痢菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 19 年に神奈川県 (横浜・川崎・横須賀・相模原市および藤沢市を除く) に送付された赤痢菌株は 5 株 (表) で、*Shigella flexnerii* 1 株と *S. sonnei* 4 株であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。薬剤感受性試験の結果、*S. sonnei* は 3 剤耐性 (SM・ST・TC) 3 株と感受性が 1 株であった。*S. flexnerii* は国内での感染で 5 剤耐性 (ABPC・CP・SM・ST・TC) であった。

(石原ともえ、伊東久美子、黒木俊郎)

表 赤痢菌の血清型および渡航歴

番号	所轄保健所	性別	年齢	菌種	渡航歴
1	厚木	男	30	<i>S. sonnei</i>	インドネシア
2	厚木	女	67	<i>S. sonnei</i>	国内
3	厚木	女	33	<i>S. flexnerii</i>	国内
4	足柄上	女	46	<i>S. sonnei</i>	米国
5	鎌倉	男	37	<i>S. sonnei</i>	米国

(4) 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症発生動向調査事業のもと、県域の小児科定点医療機関から送られた散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。平成19年1月から12月の間に実施した155件の検査結果を表に示した。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は155件中22件（14.2%）であり、その内訳は腸管病原性大腸菌(EPEC)5件、カンピロバクター・ジェジュニ13件、カンピロバクター・ジェジュニとカンピロバクター・コリの同時検出1件、サルモネラ属菌3件であった。

EPECの血清型は01（2株）、06（2株）、0166（1株）であった。EPEC分離株について志賀毒素(*Stx*)遺伝子の保有について検索したところ、いずれの株も*Stx*遺伝子は保有していなかった。

検出病原菌はカンピロバクターの検出が最も多く、カンピロバクター・ジェジュニ/コリを合わせると約9%の検出率となった。サルモネラ属菌は3件検出され、その内の2件は*S. Enteritidis*で他の1件は*S. Poona*であった。医療機関からの情報で、*S. Enteritidis*が検出された2件は同一の集団事例に関連していた。また、*S. Poona*が検出された1件は家庭でカメを飼育しているとの情報を得たが、感染源は分からなかった。

（伊東久美子 石原ともえ 黒木俊郎）

表 散発下痢症患者からの病原菌検出状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	17	28	11	9	8	11	12	13	6	16	12	12	155
陽性数	1	3	0	1	2	1	3	4	0	4	2	1	22
%	5.9	10.7	0.0	11.1	25.0	9.1	25.0	30.8	0.0	25.0	16.7	8.3	14.2
検出病原菌内訳													
腸管病原性大腸菌	1 (O1)	1 (O166)			1 (O1)						1 (O6)	1 (O6)	5
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ		2 (<i>C. j</i>)		1* (<i>C. j</i> & <i>C. c</i>)	1 (<i>C. j</i>)	1 (<i>C. j</i>)	3 (<i>C. j</i>)	3 (<i>C. j</i>)		2 (<i>C. j</i>)	1 (<i>C. j</i>)		14
サルモネラ属菌								1 (<i>S. P</i>)		2 (<i>S. E</i>)			3

検出病原菌内訳:()内は菌種および血清型

C. j : *Campylobacter jejuni*
C. c : *Campylobacter coli*

S. P : *Salmonella Poona*
S. E : *Salmonella Enteritidis*

*: カンピロバクター・ジェジュニとカンピロバクター・コリの同時検出

(5) 川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況

川崎市衛生研究所

平成19年1月～12月までに川崎市内の医療機関を訪れた下痢症患者を対象にして腸管系病原菌検査を実施した。

材料は、市内医療機関に Cary-Blair の輸送培地を配布し、医療機関を訪れた下痢症患者から大便を採取し、保健所を経由して搬入された検体について検査を行った。検査方法は、既報と同様に行った。病原菌検出状況は表1に示すとおり、検体数 693 件中腸管病原菌陽性数 72 件 (10.4%) であり、サルモネラ 2 件 (0.3%)、腸管病原性大腸菌 (EPEC) 6 件 (0.9%)、腸管出血性大腸菌 (EHEC) 2 件 (0.3%) 毒素原性大腸菌 (ETEC) 2 件 (0.3%)、腸炎ビブリオ 1 件 (0.1%)、カンピロバクター・ジェジュニ 60 件 (8.7%) の検出であり、検出病原菌のうちカンピロバクター・ジェジュニが 82.3% を占め、下痢症患者の主要病原菌であった。同一患者から 2 菌種の病原菌が検出された事例は 1 事例みられた。

検出病原菌の血清型は表2に示すとおりである。サルモネラは 2 株の血清型は *S. Enteritidis* であった。EPEC は 6 血清型に型別され、055、086a、0111、0119、0126、0166 が 1 株ずつであった。EHEC は 0157:H7 (VT1+VT2) が 2 株、ETEC は 027 (ST)、0159 (ST) が 1 株ずつであった。腸炎ビブリオは 1 株分離され、2 血清型に型別され、K34、KUT が 1 株ずつであった。

以上のように本市内の下痢症患者から腸管系病原菌が 10.4% 検出され、カンピロバクター・ジェジュニが 8.7% と最も多く検出された。また、その他の食中毒菌も低率ながら分離されていることから今後も細菌性下痢症の原因菌追究のため検査を強化していく必要があると思われる。

(小嶋由香 本間幸子 湯澤栄子 駒根綾子 岡田京子)

表1 川崎市の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	72	62	63	47	71	58	81	65	31	33	48	62	693
陽性数	4	4*	4	6	16	11	12	14	0	0	1	0	72*
(%)	(5.6)	(6.5)	(6.3)	(12.8)	(22.5)	(19.0)	(14.8)	(21.5)			(2.1)		(10.4)
サルモネラ								1			1		2 (0.3)
腸管病原性大腸菌		1*	1	1		1	1	1					6 (0.9)*
腸管出血性大腸菌								2					2 (0.3)
毒素原性大腸菌							1	1					2 (0.3)
腸炎ビブリオ								1					1 (0.1)
カンピロバクター・ジェジュニ	4	4*	3	5	16	10	10	8					60 (8.7)*

備考：*印は、同一人から 2 菌種の病原菌が検出された事例 (1 事例)

表2 川崎市の検出病原菌の血清型

病原菌	株数	菌種および血清型
サルモネラ	2	<i>S. Enteritidis</i> (2)
腸管病原性大腸菌	6	055 (1)、086a (1)、0111 (1)、0119 (1)、0126 (1)、0166 (1)
腸管出血性大腸菌	2	0157:H7 (VT1;VT2) (2)
毒素原性大腸菌	2	027 (ST) (1)、0159 (ST) (1)
腸炎ビブリオ	2	K34 (1)、KUT (1)

(6) 横須賀市の散発下痢症からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

平成19年1月から19年12月に実施した市内各医療機関からの下痢・腹痛を主症状とする患者糞便及び菌株材料の腸管系病原菌検査の結果について報告する。材料は菌株材料101件、糞便材料74件、その他2件の合計177件で、検査方法は定法により行った。

病原菌検出状況は表1に示す。検査した177件全ての内、陽性数は32件(18.1%)であった。陽性の内訳は、腸管病原性大腸菌が15株、腸管出血性大腸菌が10株、サルモネラが3株、赤痢菌と毒素原性大腸菌が各々2株ずつであった。

検出病原菌の血清型は表2に示す。赤痢菌は *S. flexneri* 2a、*S. sonnei* が各々1株、サルモネラは *S. Saintpaul*、*S. Thompson*、*S. Enteritidis* が各々1株ずつ、腸管出血性大腸菌は 0157:H7 が9株、0165:HUT が1株、毒素原性大腸菌は 06:H16、0126:H12 が各々1株、腸管病原性大腸菌は 0111:H21 が8株と最も多く検出され、次いで 0128:H12 が4株、0128:H2 が2株、086a:NM が1株であった。

以上、本年は昨年に比べ腸管出血性大腸菌が10株と検出例が高かったが、これは同一人から複数回検出されたためであり10株中5株が同一人であった。また、サルモネラは3株検出されており、すべて健常者由来からであった。本年も昨年に続き、当センターでは2例目となる腸管出血性大腸菌 0165が検出されており、今後もこれら散発下痢症患者の病原菌検査について引続き実施していく。

(山口純子・天野肇)

表1 横須賀市の散発下痢症からの病原菌検出状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	12(0)	12(0)	9(0)	10(1)	11(1)	45(1)	19(6)	15(1)	17(1)	9(1)	7(0)	11(0)	177†(12)
陽性数	2(0)	2(0)*	1(0)*	2(1)*	1(0)	3(0)	4(1)	5(1)*	8(1)*	1(0)	1(0)	2(0)	32(4)*
%	16.7%	16.7%	11.1%	20.0%	9.1%	6.7%	21.1%	33.3%	47.1%	11.1%	14.3%	18.2%	18.1%
病原菌													
赤痢菌		1(0)						1(1)					2(1)
サルモネラ	1(0)								2(0)				3(0)
腸管出血性大腸菌						3(0)	1(0)	2(0)*	4(0)*				10(0)*
毒素原性大腸菌				1(1)					1(1)				2(2)
腸管病原性大腸菌	1(0)	1(0)*	1(0)*	1(0)*	1(0)		3(1)	2(0)	1(0)	1(0)	1(0)	2(0)	15(1)

備考：†印の内訳（菌株 101件、糞便 74件、その他 2件）

()は海外渡航者由来を示す。

*印は2例の複数回検出あり

表2 横須賀市の検出病原菌の血清型

病原菌	株数	菌種及び血清型
赤痢菌	2	<i>S. flexneri</i> 2a(1), <i>S. sonnei</i> (1)
サルモネラ	3	<i>S. Saintpaul</i> (1), <i>S. Thompson</i> (1), <i>S. Enteritidis</i> (1)
腸管出血性大腸菌	10	0157:H7 (9), 0165:HUT (1)
毒素原性大腸菌	2	06:H16 (1), 0126:H12 (1)
腸管病原性大腸菌	15	086a:NM (1), 0111:H21 (8), 0128:H2 (2), 0128:H12 (4)

(7) 相模原市の腸管病原菌検出状況（二類及び三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生試験所

平成 19 年 1 月から 12 月までに、感染症法による二類及び三類感染症の発症者、発症者の陰性確認、発症した患者の家族、家族以外の患者接触者及び海外旅行同行者の病原菌検索を実施した。

検査対象の事例は 11 事例で、発症者の発症原因の推定については、渡航経験が無く国内での感染が疑われるものが 4 事例、不明が 7 事例であった。

検査対象者は 47 名で、病原菌検索の内訳はチフス菌 3 名、腸管出血性大腸菌 O157 36 名、同 O26 8 名であった。検査対象者数と陽性数の合計の内訳は下表のとおりであった。

チフス菌、腸管出血性大腸菌の検査については、増菌培養と直接平板塗抹とを併用し分離、同定を行った。また、腸管出血性大腸菌のベロトキシン検索には PCR 法を実施した。

病原菌検索の結果、腸管出血性大腸菌は O157:H7 が 1 事例で 2 名検出された。それぞれの PFGE パターンを国立感染症研究所に依頼したところ、PFGE パターンが一致した。

他の事例においては病原菌は検出されなかった。しかしながら今回検査対象となった 11 事例のなかには感染原因が不明なものや、家族以外の患者接触者及びその家族も検査対象となっている事例もあることから、感染の拡大が広範囲に渡る可能性が示唆されている。今後とも発症者からの感染拡大防止の一環として、迅速な対応を図りたい。

(青木響子、清水壽美子、田向香織、前谷史恵、笹野亜也子、金沢聡子)

表 相模原市の二類及び三類感染症病原菌検索状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数			3		7	9	17(2)	5	3			3	47(2)
事例数			1		2	3	2	1	1			1	11
チフス菌			3										3
腸管出血性大腸菌O157					4	9	17(2)		3			3	36(2)
腸管出血性大腸菌O26					3			5					8

() は陽性数

(8) 藤沢市の二類及び三類感染症発症者の家族等の病原菌検出状況

藤沢市保健所

平成 19 年 1 月から 12 月の間に、二類及び三類感染症を発症した患者の家族や接触者を対象に実施した便細菌検査の病原菌検出状況について報告する。

詳細は表に示したとおりである。検査の対象となった事例数及び検体数は 3 事例、8 検体であった。赤痢菌、コレラ菌及び腸管出血性大腸菌 O157 のそれぞれについて、1 事例で 5 検体、1 事例で 1 検体、1 事例で 2 検体の検査を実施した。なおコレラ菌については海外渡航先での感染が疑われた事例であった。病原菌については、いずれも検出されなかった。(佐藤 健、今井良美、寺田直樹、安田哲夫)

表 藤沢市の二類及び三類感染症病原菌検出状況

病原菌	事例数	検体数	陽性数
赤痢菌	1	5	0
コレラ菌	1	1	0
腸管出血性大腸菌O157	1	2	0
計	3	8	0

3 河川等の環境調査

(1) 概況

平成19年の河川等の環境調査は川崎市衛生研究所が4定点で実施した。

(神奈川県、横浜市、横須賀市は平成18年度で事業終了)

(2) 川崎市の河川等の環境調査—腸管系病原菌検出

川崎市衛生研究所

平成19年に実施した河川水等からの腸管系病原菌の検査結果について報告する。

1月、4月、7月、10月の4回、川崎市宮埠頭、大師橋横(多摩川)、六郷橋横(多摩川)、末吉橋横(鶴見川)の4定点より採水し計16検体について病原菌検査を実施した。

病原菌検出状況は表に示したとおりであり、腸炎ビブリオが10件(62.5%)と年間を通して検出された。その他の病原菌ではコレラ菌01以外が1月に2件、ビブリオ・バルニフィーカスが1月に1件、5月に3件、7月に1件、10月に1件、サルモネラ(S. Saintpaul)が7月に1件であった。コレラ菌01、ビブリオ・ミミカス、ビブリオ・フルビアリス、ビブリオ・ファーニシー、腸管出血性大腸菌0157は検出されなかった。(岡田京子、駒根綾子)

表 川崎市の河川水等からの病原菌検出状況(平成19年1月~12月)

病原菌	月				計(%)
	1	4	7	10	
コレラ菌01	0	0	0	0	0
コレラ菌01以外	2	0	0	0	2(12.5)
腸炎ビブリオ	1	3	3	3	10(62.5)
ビブリオ・ミミカス	0	0	0	0	0
ビブリオ・フルビアリス	0	0	0	0	0
ビブリオ・ファーニシー	0	0	0	0	0
ビブリオ・バルニフィーカス	1	3	1	1	6(37.5)
サルモネラ	0	0	1	0	1(6.3)
腸管出血性大腸菌0157	0	0	0	0	0
検体数	4	6	5	4	19

4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(1) 概況

感染症発生動向調査の定点当たり患者報告数によると、平成19年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前年18年と同様の流行状況であり、報告数は前年と比べ少なかった。

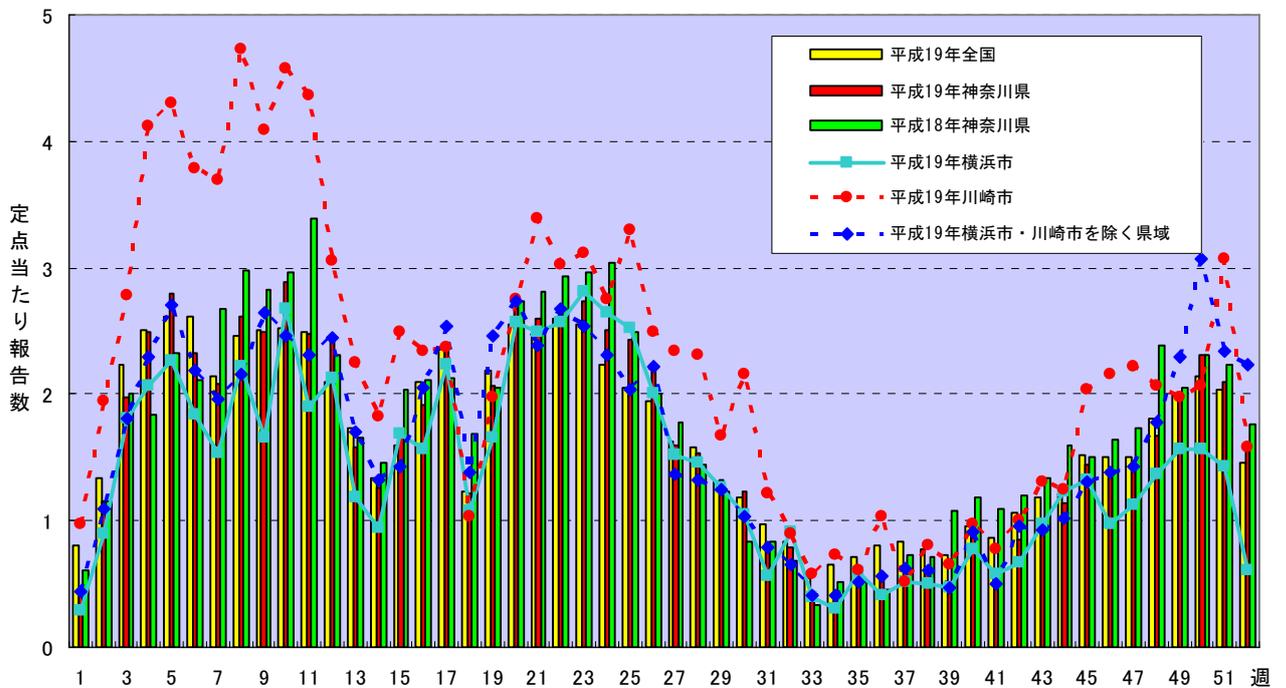


図 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数

(2) A群溶血レンサ球菌の分離およびT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東・甲信・静岡支部）活動の一環として2007年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内4施設より情報提供を受けた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離数は、横浜市衛生研究所（8株）、川崎市衛生研究所（10株）、相模原市衛生試験所（15株）および神奈川県衛生研究所（5株）の計38株で、昨年の52株に比較し減少した。図1に分離数およびT型別成績を示した。

検出されたT型は、1型、3型、4型、6型、12型、25型、28型および型別不能の8種類であった。これらの内、T4型が9株(23.7%)と最も多く、以下、T3型8株(21.1%)、T12型8株(21.1%)、T1型6株(15.8%)の順で、これら4血清型で全体の81.6%を占めた。

最近5年間のT型の経年推移を図2に示した。T4型および12型は例年比較的多数検出されている。T1型は昨年に比べ減少し、また、T3型は増加した。

(大屋日登美、岡崎則男、高橋智恵子)

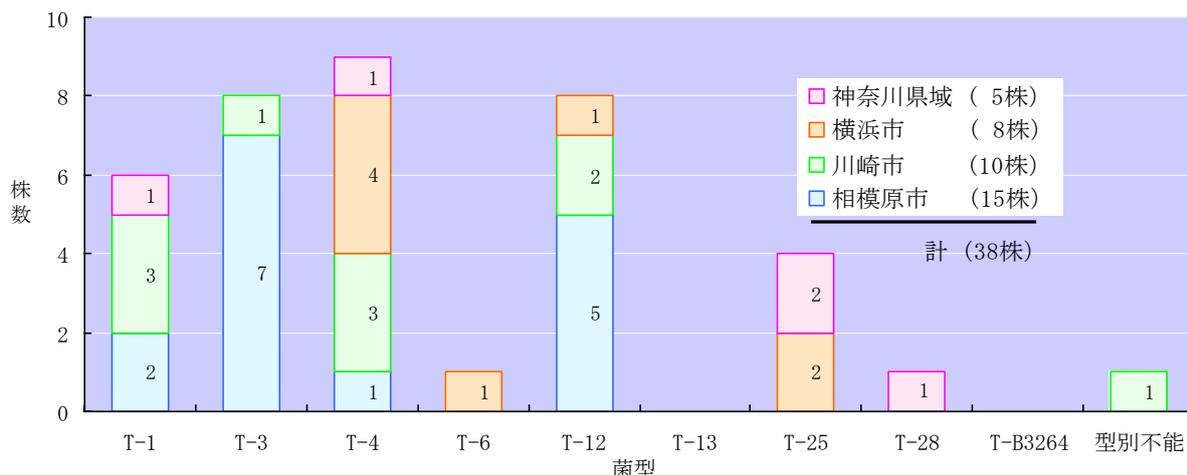


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況 (2007年1~12月)

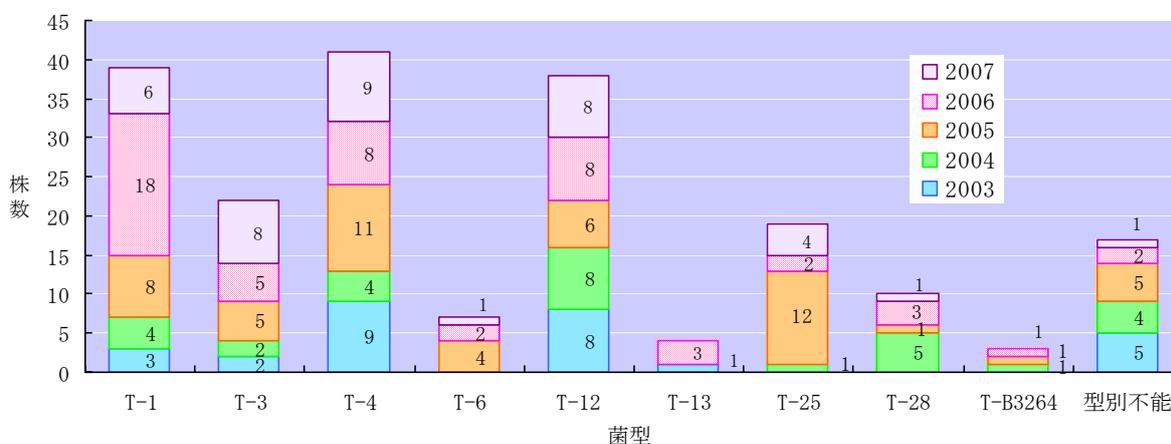


図2 A群溶血レンサ球菌T型の経年推移 (2003~2007年)

(3) 川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市衛生研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血連鎖球菌の検索を実施した。平成19年1月から12月までの検出状況は表1に示すとおりであり13件中A群溶血連鎖球菌が10件(90.9%)から分離された。そのT型別を表2に示した。T-1が3件、T-3が1件、T-4が3件、T-12が2件、その他型別不能が1件であった。

(小嶋 由香)

表 1 川崎市の溶連性レンサ球菌分離状況（平成 19 年）

検査年月	検査件数				
		A 群	B 群	C 群	G 群
19/1	4	4(100.0)			
2	0				
3	0				
4	0				
5	0				
6	1	1(100.0)			
7	6	4(66.7)			
8	0				
9	0				
10	0				
11	0				
12	2	1(50.0)			
合計	13	10(76.9)			

備考：（ ）内の数字は，検査件数に対する％を表す。

表 2 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌 T 型別

区分	T型					計
	1	3	4	12	UT	
株数	3	1	3	2	1	10

5 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の QFT 検査成績

神奈川県衛生研究所

QFT 検査は平成 18 年 1 月に健康保険が適用され、同年に日本結核病学会から使用指針が示され、また、平成 19 年には改正感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引きが作成され、その手引きの中では QFT が第一優先の検査と位置づけられ、各施設で実施されるようになってきた。

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）では平成 17 年 11 月から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 19 年には 90 例の依頼があり、陽性が 15.6%、陰性が 75.6%であった（表）。

被験者の患者との接触場所別による QFT 検査結果は、事例としては家族内感染(7 事例)が最も多いが、検査件数は、職場(55 例)が最も多く、次いでその他(21 例)であった。陽性率は、家庭での接触によるものが最も高く(30.8%)、次いで職場(16.1%)であった(図)。このことは、家庭内で患者に接触した場合の感染リスクが高いことを示している。特に家庭内の高リスクグループである小児や高齢者に対する検査の必要性は高いが、QFT 検査の適用について現在検討が行われている。また、QFT 検査は、疑陰性についての課題が残されているが、特異度が高いためツベルクリン反応では見落とされていた結核感染例を発見する可能性も示されている。(大屋日登美、高橋智恵子、岡崎則男、尾上洋一)

表 結核接触者健診における QFT 検査結果

検査 例数	陽性数		判定保留		陰性数	
	例数	%	例数	%	例数	%
90	14	15.6	8	8.9	68	75.6

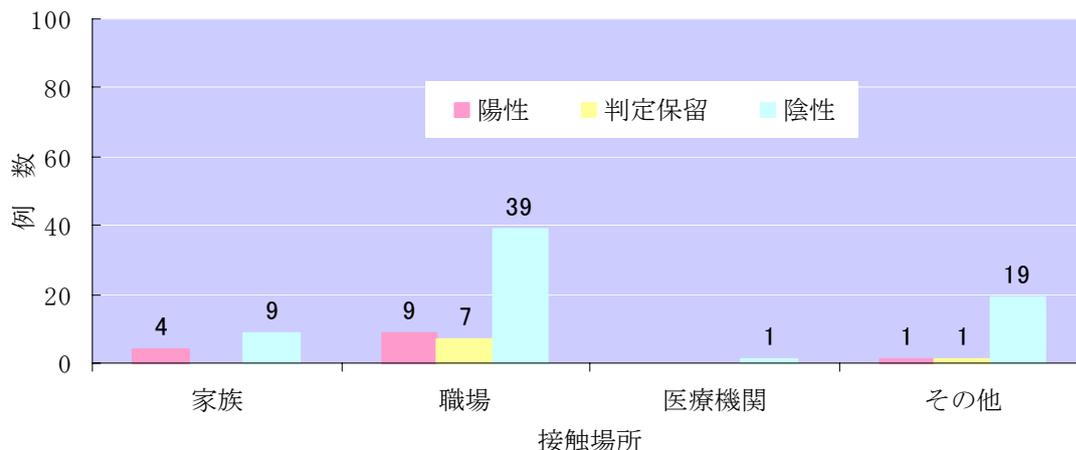


図 患者との接触場所別によるQFT検査結果(平成19年)

IV その他の感染症

1 つつが虫病

(1) 概況

平成 19 年の神奈川県内のつつが虫病患者の報告数は、前年比 12 件増の 27 件であった。県域では、足柄上保健福祉事務所管内から 18 件、小田原保健福祉事務所管内および秦野保健福祉事務所管内からそれぞれ 3 件、平塚保健福祉事務所管内から 2 件のあわせて 26 件の報告があった。また、横浜市においても 1 件の報告がみられた。(資料 1)。

このうち秦野保健福祉事務所管内 1 件、横浜市 1 件を除く 25 件について、神奈川県衛生研究所で血清抗体検査と遺伝子検査により、つつが虫病患者と確定診断した。(表 1)

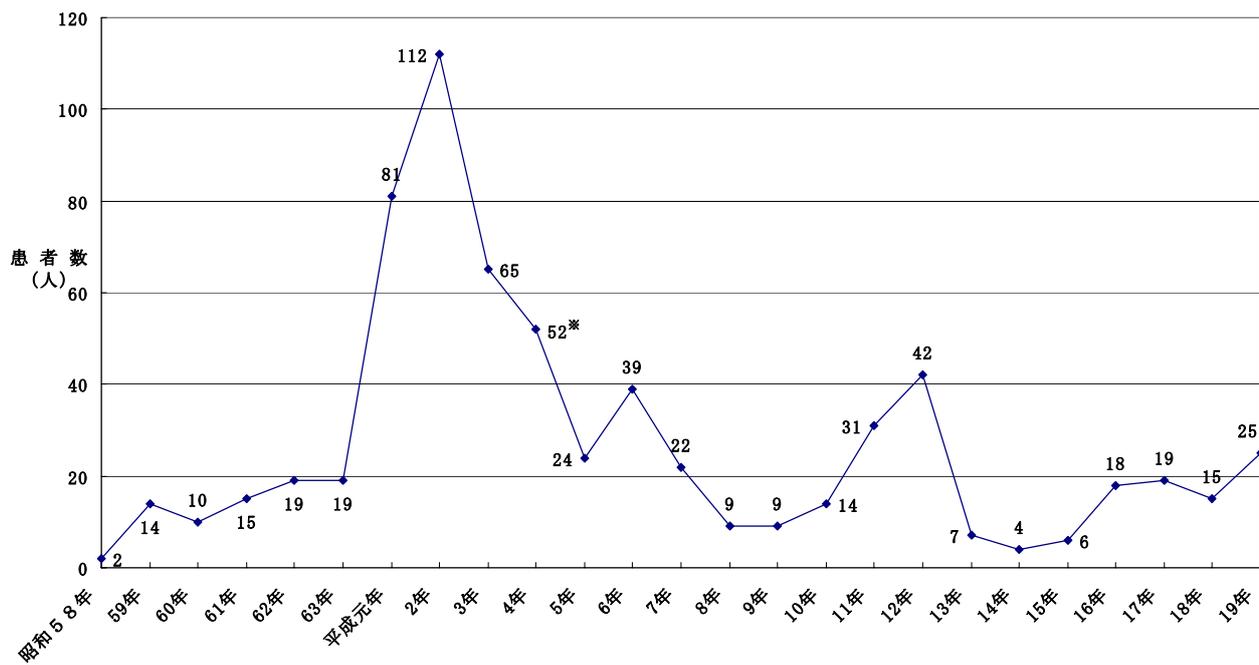
(2) 神奈川県(横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く)で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

昭和 58 年から平成 19 年までのつつが虫病患者発生数を年次別にみると、昭和 58 年から昭和 63 年までは確定患者 2~19 名で推移し、平成元年 81 名、平成 2 年 112 名と増加したが、平成 3 年からは 65 名、平成 4 年 52 名(含む紅斑熱患者 2 名)、平成 5 年 24 名、平成 6 年 39 名、平成 7 年 22 名、平成 8 年 9 名、平成 9 年 9 名と減少した。その後、平成 10 年 14 名、平成 11 年 31 名、平成 12 年 42 名と僅かながらであるが増加し、平成 13 年 7 名、平成 14 年 4 名、平成 15 年は 6 名と再び減少し、平成 16 年 18 名、平成 17 年 19 名、平成 18 年 15 名、平成 19 年 25 名と推移した(図)。

つつが虫病患者発生を季節別にみると、昭和 58 年から平成 18 年の 24 年間すべてで毎年秋期(9~11 月)に患者が多く、平成 19 年についても、9 月 1 名、10 月 9 名、11 月 13 名、12 月 2 名であり、秋期に大部分の患者が発生した。患者の感染株は Kawasaki 株が約 80%を占めていた。

患者の感染場所(聞き取り調査により推定できたもの)を検討すると、県外で感染して本県で届出されたと思われるものを除いて、平成 19 年では山北町、南足柄市、松田町、小田原市、秦野市、箱根町、中井町であった。中井町は、初めて確認された地域ではないが過去 5 年間一度も患者の感染場所となっていなかった地域である。平成 18 年度よりこのような地域での感染が見られている。平成 19 年のつつが虫病感染時の行動も、昨年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多いことが判明した。(片山 丘、原田美樹、古屋由美子、尾上洋一)



※：紅斑熱患者を含む

図 県域におけるつつが虫病患者発生状況

資料 1 平成 19 年全数把握対象感染症保健所別報告数

(単位：件)

全数類型	二類	三類					四類											五類											保 健 所 別 計				
		12	13	14	15	16	17	18	19	22	26	27	28	34	35	49	51	55	56	58	59	60	61	62	63	64	65	66		67	68	69	71
15年 神奈川県合計	9	3	38	388	3	10	442			5			10	2	12	1	6	36	48	32	1	4	1	85	20	5	10	2	9	217	695		
16年 神奈川県合計		7	37	123	6	6	179			8	2		1	19	5	8	6	1	50	52	14	2	11	5	86	9	3	1	24	4	5	216	445
17年 神奈川県合計		6	27	167	2	6	208	2	1	11	1	1	2	22	5	10	19	1	75	63	20	4	2	14	3	69	24	1	27	3	8	238	521
18年 神奈川県合計		5	27	210	10	1	253	8		13	2	1	15	7	9	1	25	81	80	14	4	2	10	5	83	10	3	22	7	11	251	585	
19年 神奈川県合計	1361	1361	21	175	1	3	200	3		12	3		27	9	3	43	1	101	80	15	5	1	9	11	93	8	1	46	6	17	292	1954	
横浜市計	527	527	8	86	1	2	97	1		8			1	7	1	1	28	1	47	49	3	2	5	4	43	5		15	2	6	134	805	
鶴見	43	43	1	12			13										1	1	1									2			4	61	
神奈川	35	35	1	4			5																									40	
西	22	22		2			2														18	1						1		1	21	45	
中	67	67	1	6			7			2							3		5	2					11			1			14	93	
南	46	46		3			3								1		1	2	2	4					2			3			9	60	
港南	35	35		9			9			2			1				2	5	1						1					2	4	53	
保土ヶ谷	4	4		2	1	2	5	1		2				6			5	14	4		2		1	14	1		3		1	26	49		
旭	24	24		6			6										2	2	2	2				1	2					5	37		
磯子	33	33															2	2	2	1									1	2	2	37	
金沢	34	34														6	1	7	4				2	13	1		1	1		22	63		
港北	14	14					7										1	1	2	1			2			1		1		5	28		
緑	20	20	1	3			4											1	1											1	25		
青葉	55	55	2	9			11										2		2	1			2		2			2		7	75		
都	22	22	2	5			7											8											1	2	11	40	
戸塚	31	31		3			3			2							1	3	1	1										2	39		
栄	2	2		4			4										2	2	1												1	9	
泉	23	23		4			4											2	2												27		
瀬谷	17	17		7			7																								24		
川崎市計	292	292	5	40		1	46	1		1							4	6	7	2	2		3	16			13	2	1	46	390		
川崎	78	78	2	13		1	16	1									1	2	5	2	1			8			6	1		23	119		
幸	47	47	1	11			12											2										1		3	62		
中原	52	52		5			5			1							1	2					2	3			1			6	65		
高津	24	24	1	1			2										1	1	1									1	1	1	2	29	
宮前	34	34	1	5			6										1	1			1		1	4			3	1		10	51		
多摩	31	31		3			3																	1				1			2	36	
麻生	26	26		2			2																								28		
横須賀市計	76	76	2	7			9										6	6	2	1			1	3	1		4			12	103		
相模原市計	109	109		10			10									1	2	3	5	1		1	1	6	1		2	1	3	21	143		
藤沢市計	52	52	1	2			3			2							1	3	2	2			1	4				1		10	68		
県域計	305	305	5	30			35	1		3	1		26	2	1	2	36	15	7		1	3	1	21	1	1	11	1	7	69	445		
平塚	42	42		3			3			2			2				1	5	2				2					6	4	14	64		
鎌倉	48	48	1	1			2										1	1	3							1			1	5	56		
小田原	43	43		1			1						3					3	2					2						4	51		
三	7	7		1			1							1				1													9		
厚木	52	52	3	5			8							1				1	3					4	1		2	2	12	73			
足柄上	9	9	1	1			2						18					18	1			1		1						3	32		
津久井																																	
秦野	40	40		3			3			1								5	3				2	6			2	1		14	62		
大和	31	31		3			3												1					4						6	40		
茅ヶ崎	33	33		12			12	1		1								2	1	6			1	1	2				11	58			

資料2 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

平成19年に県内で検出されたウイルスは、前年より減少し、1,586件であった。1月は過去3年で最低の検出数となっているが、前年11月、12月の早期のノロウイルスによる事例の多発が1月になって下火となり、また、インフルエンザの流行開始が遅くインフルエンザウイルスの検出数も少なかったためであった。(図1)。

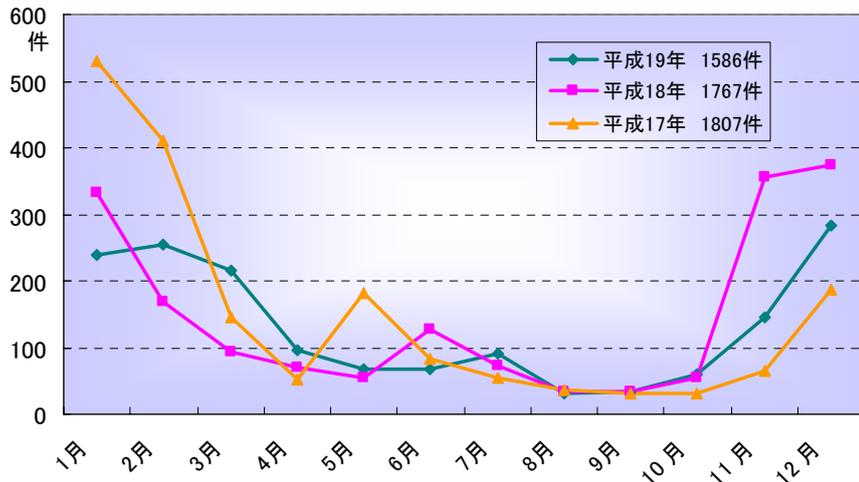


図1 ウイルス月別検出状況年別比較

検出ウイルス種類別では、前年と同様ノロウイルスが最も多く検出され、続いてインフルエンザウイルスAソ連型(H1)、同A香港型(H3)で、前年と検出状況が異なった(図2)。

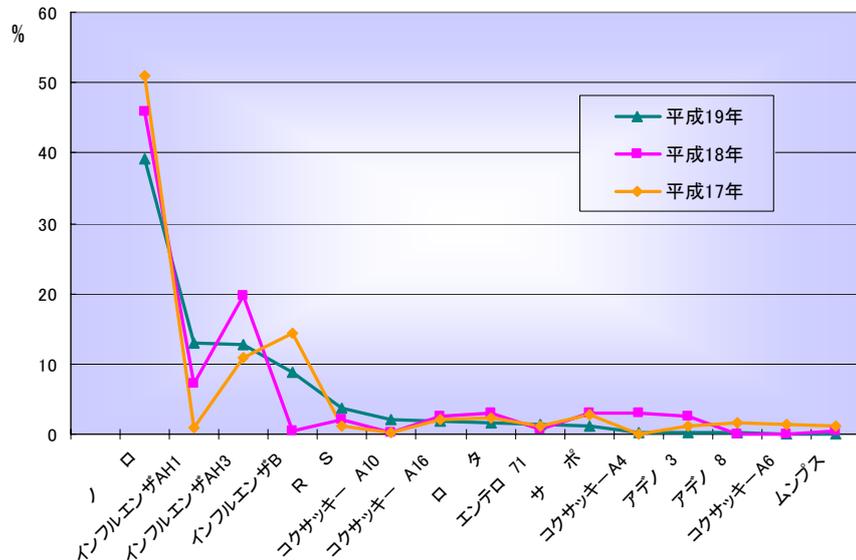


図2 主なウイルスの検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター、相模原市衛生試験所及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、60ページ以下に記載。

(折原直美)

2 病原細菌検出概況

平成19年に県内で検出された病原細菌は、平成18年の575件から715件へと増加した。月別では例年に比べ9月、10月が多く、続いて8月であった。海外渡航者からも10月が最も多く検出された(図1)。

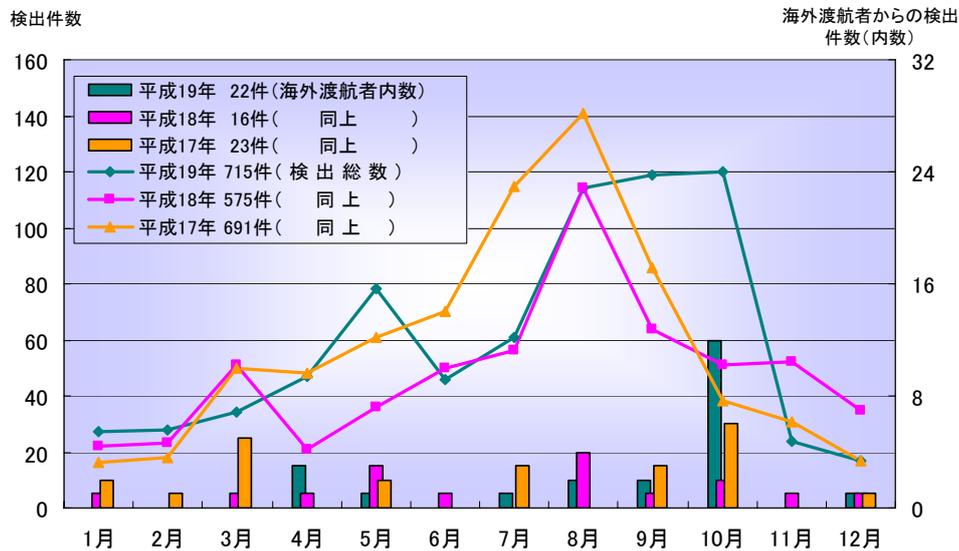


図1 細菌月別検出状況年別比較

最も多く検出された病原細菌は、平成19年はカンピロバクター ジェジュニであり、全体の22.8%を占めた(図2)。

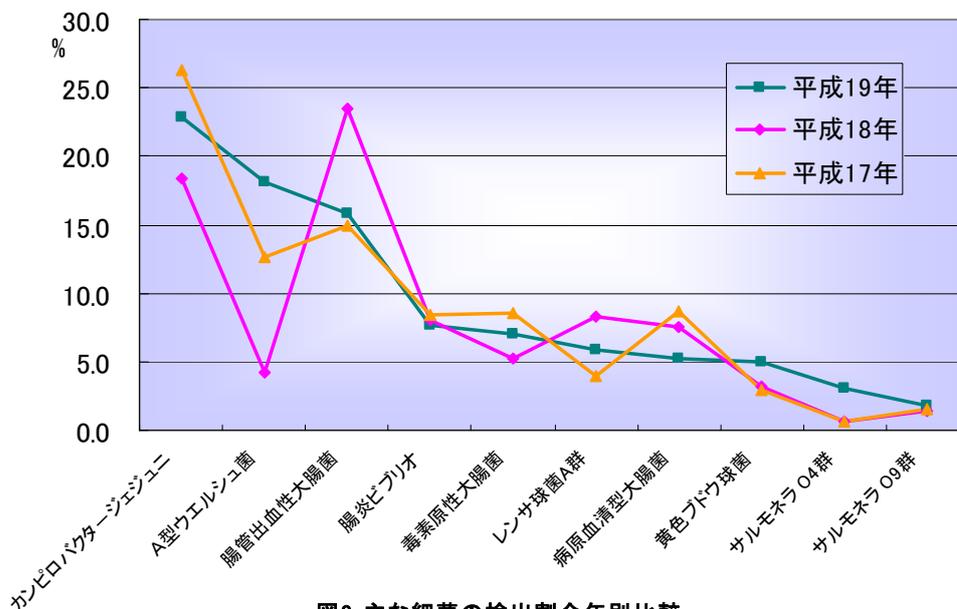


図2 主な細菌の検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター、相模原市衛生試験所及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、69ページ以下に記載。

(折原直美)

3 ウイルス検出状況表（ヒト由来）

3-1 神奈川県（月別）

検出ウイルス	平成17年	平成18年	月												平成19年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1	15	128	5	7	6	5	3				2	17	53	108	206
インフルエンザ AH3	195	346	22	97	62	15	2			1			1	1	201
インフルエンザ B	258	9	30	41	60	10									141
パラインフルエンザ 1	1	2													
パラインフルエンザ 2	2	6													
パラインフルエンザ 3	6	6						2							2
R S	20	37	19			6	3	4	2	2	2	7	4	10	59
ヒトメタニューモ		14			1	8	7	2							18
ポリオ 1	2	2						2							2
ポリオ 2	2	1										1			1
ポリオ 1+2	1														
ポリオ 3	1											2			2
コクサッキー A2	1	4							2	1	3	1			7
コクサッキー A4	2	52													
コクサッキー A5	1	9							5	4					9
コクサッキー A6	27									1	1				2
コクサッキー A9	1	6													
コクサッキー A10	3	3						2	17	10	3	1			33
コクサッキー A12	1														
コクサッキー A14	2														
コクサッキー A16	36	44	1		1	1	1	2	11		2	5	4	2	30
コクサッキー A24											5				5
コクサッキー B2	3								1						1
コクサッキー B3	2	1							2	4	1				7
コクサッキー B4	14								1		1				2
コクサッキー B5	3	6							5	1	5	1	4	1	17
エコー 3	3														
エコー 5	1														
エコー 6	2									1	1				2
エコー 9	1												1		1
エコー 11													1		1
エコー 18	1	11								1					1
エコー 24	1														
エコー 25	4	1										1			1
エコー 30		2										1		1	2
エンテロ 71	20	14	1				5	4	10		1		2		23
パレコ 1	2								1						1
パレコ 3												1			1
ライノ	1	4						1	1				1		3
麻しん					2	4	13	10	4	2					35
麻しん A							1	2							3
D5						1				1			1		3
アデノ 1	5	4		1				2		1					4
アデノ 2	7	9		1		1	3		6		2		1	1	15
アデノ 3	21	47	1											1	2
アデノ 4	3	2			1		1		1						3
アデノ 5	2	1						1							1
アデノ 8	28	1	1		1	1									3
アデノ 11	1														
アデノ 19	5				2	1									3
アデノ 37	6	4	3		1	1	1		1		2			2	11
アデノ 40/41	4	4							2		1		2	1	6
アデノ（型未決定）	2	3	1				2	1			2				6
単純ヘルペス 1	6	13	3	1				1			1	1	1		8
サイトメガロ	2					1									1
ヒトヘルペス 6	2	5					1								1
ロ タ	40	55	1	2	12	4	5	1							25
ノ ロ	923	811	148	100	65	37	16	24	15			9	54	153	621
サ ボ	50	55	2	4	1		4	5	1			2	1		20
アストロ							1	1							2
未 同 定	29	34		1				1	4	1		1	1	1	10
チエンチア ツツガムシ	13	4										8	13	1	22
計	1807	1767	238	255	215	97	68	68	92	31	35	59	145	283	1586

3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	麻しん※	その他	合計
インフルエンザ AH1				1				184				21	206
インフルエンザ AH3								183				18	201
インフルエンザ B								121				20	141
パラインフルエンザ 3												2	2
R S			2		1			10				46	59
ヒトメタニューモ								3				15	18
ポリオ 1						1						1	2
ポリオ 2												1	1
ポリオ 3						1						1	2
コクサッキー A2							1					6	7
コクサッキー A5						1	7					1	9
コクサッキー A6							2						2
コクサッキー A10						5	23					5	33
コクサッキー A16						28	1			1			30
コクサッキー A24									5				5
コクサッキー B2							1						1
コクサッキー B3							1			6			7
コクサッキー B4										2			2
コクサッキー B5							2			14		1	17
エコー 6							1			1			2
エコー 9		1											1
エコー 11												1	1
エコー 18												1	1
エコー 25												1	1
エコー 30										2			2
エンテロ 71						23							23
パレコー 1												1	1
パレコー 3												1	1
ライノ						1						2	3
麻しん											35		35
麻しん A												3	3
D5											1	2	3
アデノ 1								1				3	4
アデノ 2				2		2		1				10	15
アデノ 3				1								1	2
アデノ 4				1				1	1				3
アデノ 5												1	1
アデノ 8									3				3
アデノ 19									3				3
アデノ 37									11				11
アデノ 40/41					6								6
アデノ (型未決定)					1			1	4				6
単純ヘルペス 1				1			4					3	8
サイトメガロ												1	1
ヒトヘルペス 6												1	1
ロ タ					23					2			25
ノ ロ					258							363	621
サ ボ					17							3	20
アストロ					2								2
未 同 定							2					8	10
オリエンチア ツツガムシ	22												22
平成19年計	22	1	2	6	308	62	45	505	27	28	36	544	1586

※麻しん：「麻しん（成人麻しんを除く）」及び「麻しん」を含む

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

月 検出ウイルス	平成 17年	平成 18年	月												平成 19年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1	6	44				1					1	14	17	23	56	
インフルエンザ AH3	77	172	10	28	7	1				1			1		48	
インフルエンザ B	105	3	25	10	8	2									45	
パラインフルエンザ 1		2														
パラインフルエンザ 2		1														
R S	1	2														
ポリオ 1									1						1	
ポリオ 3	1											1			1	
コクサッキー A2	1										1				1	
コクサッキー A4	1	25														
コクサッキー A5	1	5							2	2					4	
コクサッキー A6	23									1	1				2	
コクサッキー A9	1															
コクサッキー A10	3	2						2	14	7	1				24	
コクサッキー A12	1															
コクサッキー A14	2															
コクサッキー A16	17	33			1	1	1		8		2	4	4	1	22	
コクサッキー B2									1						1	
コクサッキー B3	1															
コクサッキー B4									1						1	
コクサッキー B5		2							1	1					2	
エコー 3	3															
エコー 6	2									1	1				2	
エコー 9													1		1	
エコー 18		7														
エコー 30		1														
エンテロ 71	13	4	1					5	4	9		1		2	22	
パレコー 1	1															
ライノ	1															
ムンプス	21	7														
麻しん								1	2						3	
アデノ 1		1														
アデノ 2	4	1		1		1									2	
アデノ 3	8	16	1												1	
アデノ 4	1	1								1					1	
アデノ 5	1								1						1	
アデノ 40/41	2	2								2		1		2	1	6
アデノ (型未決定)		2	1													1
単純ヘルペス 1	4	8	3	1					1			1		1		7
ロ タ	30	32	1	2	6	4	4	4	1							18
ノ ロ	82	186	16	10	16	4	1	3	1			1	6	18		76
サ ボ	50	5	2	4	1			4	2	1			2	1		17
アストロ								1	1							2
未 同 定		2								2						2
リエンチア ツツガムシ	13	4										8	13	1		22
計	477	570	60	56	39	14	17	18	43	13	10	30	48	44		392

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	急性脳炎	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	麻疹（成人麻疹を除く）	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	成人麻疹	その他	合計
インフルエンザ AH1								56				56
インフルエンザ AH3								48				48
インフルエンザ B								45				45
ポリオ 1					1							1
ポリオ 3					1							1
コクサッキー A2						1						1
コクサッキー A5					1	3						4
コクサッキー A6						2						2
コクサッキー A10					4	20						24
コクサッキー A16					21	1						22
コクサッキー B2						1						1
コクサッキー B4									1			1
コクサッキー B5						2						2
エコー 6						1			1			2
エコー 9		1										1
エンテロ 71					22							22
麻疹							2			1		3
アデノ 2			1		1							2
アデノ 3			1									1
アデノ 4			1									1
アデノ 5											1	1
アデノ 40/41				6								6
アデノ（型未決定）				1								1
単純ヘルペス 1			1			4					2	7
ロ タ				18								18
ノ ロ				76								76
サ ポ				17								17
アストロ				2								2
未 同 定						2						2
オエンテツツガムシ	22											22
平成19年計	22	1	4	120	51	37	2	149	2	1	3	392

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

検出ウイルス	平成17年	平成18年	月												平成19年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1	7	50	4	1	2	4	3					3	17	26	60
インフルエンザ AH3	56	74	7	24	16	10	2								59
インフルエンザ B	72	1	5	14	33	7									59
パラインフルエンザ 1	1														
パラインフルエンザ 2	2	5													
パラインフルエンザ 3	6	6						2							2
R S	19	35	19			6	3	4	2	2	2	7	4	10	59
ヒトメタニューモ		14			1	8	7	2							18
ポリオ 1	2	2						1							1
ポリオ 2		1										1			1
ポリオ 1+2	1														
ポリオ 3												1			1
コクサッキー A2		4							2	1	2	1			6
コクサッキー A4	1	26													
コクサッキー A5		4							3	2					5
コクサッキー A6	4														
コクサッキー A9		5													
コクサッキー A10		1							2	3	2	1			8
コクサッキー A16	12	9	1					2	1						4
コクサッキー B2	1														
コクサッキー B3											1				1
コクサッキー B4	11										1				1
コクサッキー B5		1										1	3	1	5
エコー 5	1														
エコー 9	1														
エコー 11													1		1
エコー 18	1	1								1					1
エコー 24	1														
エコー 25	4	1										1			1
エコー 30		1												1	1
エンテロ 71	3	4							1						1
パレコー 1	1								1						1
パレコー 3												1			1
ライノ		3						1					1		2
ムンプス	2														
麻しん A							1	2							3
D5						1				1			1		3
アデノ 1	5	3		1				2		1					4
アデノ 2	3	6					3		6		2		1	1	13
アデノ 3	4	9												1	1
アデノ 4	1														
アデノ 5	1	1													
アデノ 8		1													
アデノ 37	1	2													
アデノ (型未決定)	2	1					2	1			2				5
単純ヘルペス 1	2	3										1			1
サイトメガロ	2					1									1
ヒトヘルペス 6	2	5				1									1
ロ タ		12													
ノ ロ	647	329	65	64	38	11	12	8				3	23	86	310
サ ボ		50						3							3
未 同 定	29	32		1				1	2	1		1	1	1	8
計	908	702	101	105	90	49	33	29	20	12	12	22	52	127	652

3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	麻しん（成人麻しんを除く）	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1		1					38			21	60
インフルエンザ AH3							41			18	59
インフルエンザ B							39			20	59
パラインフルエンザ 3										2	2
R S	2		1				10			46	59
ヒトメタニューモ							3			15	18
ポリオ 1										1	1
ポリオ 2										1	1
ポリオ 3										1	1
コクサッキー A2										6	6
コクサッキー A5					4					1	5
コクサッキー A10					3					5	8
コクサッキー A16				4							4
コクサッキー B3					1						1
コクサッキー B4								1			1
コクサッキー B5								4	1		5
エコー 11										1	1
エコー 18										1	1
エコー 25										1	1
エコー 30								1			1
エンテロ 71				1							1
パレコー 1										1	1
パレコー 3										1	1
ライノ										2	2
麻しん A										3	3
D5						1				2	3
アデノ 1							1			3	4
アデノ 2		1		1			1			10	13
アデノ 3										1	1
アデノ（型未決定）							1	4			5
単純ヘルペス 1										1	1
サイトメガロ										1	1
ヒトヘルペス 6										1	1
ノロ										310	310
サポ										3	3
未同定										8	8
平成19年計	2	2	1	6	8	1	134	4	6	488	652

3-4 川崎市衛生研究所（月別）

月 検出ウイルス	平成 17年	平成 18年	月												平成 19年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1	2	29	1	6	3								15	34	59
インフルエンザ AH3	45	94	5	40	11	4									60
インフルエンザ B	52	5		16	9	1									26
ポリオ 2	2														
コクサッキー A4		1													
コクサッキー A9		1													
コクサッキー A10									1						1
コクサッキー A16	7	2							2			1		1	4
コクサッキー A24											5				5
コクサッキー B2	2														
コクサッキー B3	1								2	4					6
コクサッキー B4	3														
コクサッキー B5	3								3						3
エコー 18		1													
エンテロ 71	4	6													
ライノ		1							1						1
麻しん				2	4	12	8	4	2						32
アデノ 2		2													
アデノ 3	8	20													
アデノ 8	26		1		1	1									3
アデノ 11	1														
アデノ 19	5			2	1										3
アデノ 37	2	1	3		1	1				2			2	9	
アデノ 40/41	2	2													
単純ヘルペス 1		2													
ロ タ	10	10		5											5
ノ ロ	177	104	39	8								11	16	74	
計	352	281	49	62	41	12	13	8	13	6	7	1	26	53	291

3-4 川崎市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	手足口病	インフル エンザ様	流行性 角結膜炎	無菌性 髄膜炎	麻しん	合計
インフルエンザ AH1			59				59
インフルエンザ AH3			60				60
インフルエンザ B			26				26
コクサッキー A10		1					1
コクサッキー A16		3			1		4
コクサッキー A24				5			5
コクサッキー B3					6		6
コクサッキー B5					3		3
ライノ		1					1
麻しん						32	32
アデノ 8				3			3
アデノ 19				3			3
アデノ 37				9			9
ロ タ	5						5
ノ ロ	74						74
平成19年計	79	5	145	20	10	32	291

3-5 横須賀市健康安全科学センター（月別）

検出ウイルス	平成17年	平成18年	月												平成19年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1		4			1						1		1	18	21
インフルエンザ AH3	15	5			13										13
インフルエンザ B	25				6										6
コクサッキー B5									1		2		1		4
ノロ	10	149	28	23	2	1			12				6	31	103
計	50	158	28	23	22	1			13		3		8	49	147

3-5 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

検出ウイルス	疾患名	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1			21		21
インフルエンザ AH3			13		13
インフルエンザ B			6		6
コクサッキー B5				4	4
ノロ		103			103
平成19年計		103	40	4	147

3-6 相模原市衛生試験所（月別）

検出ウイルス	平成17年	平成18年	月												平成19年
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1		1										3	1	4	
インフルエンザ AH3	2	1			1									1	
インフルエンザ B	4														
エコー 18		1													
エコー 30											1			1	
アデノ 3	1	2													
アデノ 4	1	1				1								1	
アデノ 8	2														
アデノ 37	3	1		1					1					2	
ノロ	7	32		3	1	21	3	13	2		5	3	2	53	
計	20	39		3	3	21	4	13	3		6	6	3	62	

3-6 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	インフル エンザ様	流行性 角結膜炎	無菌性 髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1		4				4
エコー 30				1		1
アデノ 4			1			1
アデノ 37			2			2
ノロ					53	53
平成19年計		5	3	1	53	62

3-7 藤沢市保健所（月別）

月 検出ウイルス	平成 17年	平成 18年	月												平成 19年	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1															6	6
インフルエンザ AH3				5	14										1	20
インフルエンザ B				1	4											5
コクサッキー B3		1														
コクサッキー B5		3									3					3
エコー 18		1														
アデノ 4				1												1
ロタ		1		1		1										2
ノロ		11												5		5
計	—	17		6	20		1				3		5	7		42

3-7 藤沢市保健所

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	インフル エンザ様	無菌性 髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1		6		6
インフルエンザ AH3		20		20
インフルエンザ B		5		5
コクサッキー B5			3	3
アデノ 4		1		1
ロタ			2	2
ノロ	5			5
平成19年計	5	32	5	42

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）

4-1 神奈川県

年・月 菌種・菌型	平成17年		平成18年		平成19年採取月												計		構成割合（%）							
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者								
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者				総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			
腸管出血性大腸菌(EHEC)	103		135		3		1		3	8	27	31	24	6	7	3	113	15.8								
毒素原性大腸菌(ETEC)	59	6	30	2		5	1	2	2	1	1		39	1	1	1		50	4	7.0						
組織侵入性大腸菌	1		3									1	1					2		0.3						
病原血清型大腸菌(EPEC)	60		43		2	3	4	5	2	2	4	1	7	1	2	3	2	37	1	5.2						
その他・不明	3	2	1																							
チフス菌	1		7	5													1	1	1	1	0.1					
パラチフス A菌	6	4	2	1				1	1				1	1				2	2	0.3						
サルモネラ 04群	4		4			1				1		3	15	2				22		3.1						
サルモネラ 07群	17	1	14					2	2	2		1	2	1				8		1.1						
サルモネラ 08群	2	1	6		1							1						2		0.3						
サルモネラ 09群	11		8		1				1		3	5		12	2	1	13	12	1.8							
サルモネラ 013群												1						1		0.1						
サルモネラ 018群	1																									
サルモネラ 035群	1																									
サルモネラ 群不明			1										1					1		0.1						
エルシニア	1		1																							
コレラ菌	3	3	4	2																						
コレラ菌 non-01 & 0139	1																									
腸炎ビブリオ	58		46								2	3	50					55		7.7						
エロモナス ハイドロフィラ								1										1		0.1						
エロモナス ソブリア			1																							
エロモナス キャピエ	1																									
ブレジオモナス	1			1														1		0.1						
カンピロバクター ジェジュニ	182		106		5	7	4	22	29	27	19	19	6	22	2	1	163		22.8							
カンピロバクター コリ	3						2											2		0.3						
カンピロバクター・ジェジュニ/3													1					1		0.1						
黄色ブドウ球菌	20		18		5	2		13	2		2		6	3	3			36		5.0						
A型ウエルシュ菌	87		24		1	7	14		23	2			3	77	1	2	130		18.2							
セレウス菌	5		15							1		1	1					3		0.4						
赤痢菌フレキシネル	1	1	3	1	1	1			2									4		0.6						
赤痢菌ソンネ	9	5	12	5	1				3				2	1	1	1	1	10	2	1.4						
レンサ球菌A群	27		48		5	2	9	1	8	2	4	1		3	2	5	42		5.9							
レンサ球菌G群	1																									
肺炎球菌			2																							
エンテロコッカス											1							1		0.1						
ウルセランス			1																							
レジオネラ	2		4				1	1			1		2	2				7		1.0						
結核菌			2																							
インフルエンザ菌																2	1	3		0.4						
淋菌	8		6																							
マイコプラズマ	12		27		1											1		2		0.3						
計	691	23	575	16	27	28	33	47	3	77	1	46	61	1	114	2	119	2	120	12	24	17	1	713	22	100.0

4-2 神奈川県衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成17年		平成18年		平成19年採取月												計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	20		23							1	3	1	2					7
毒素原性大腸菌(ETEC)	3																	
病原血清型大腸菌(EPEC)	21		27		1	1	2	1				3						8
サルモネラ 04群			1									3						3
サルモネラ 07群	1		6					1	1				1	1				4
サルモネラ 08群			1															
サルモネラ 09群	4		1						1									1
サルモネラ 013群												1						1
サルモネラ													1					1
腸炎ビブリオ	31											2	3					5
エロモナス キャビエ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	38		20		3	1	11	6	7	4	6	4	4	11	2			55
カンピロバクター コリ							1											1
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ													1					1
黄色ブドウ球菌										1								1
A型ウエルシュ菌	60		1					14										14
セレウス菌	1																	
赤痢菌ソルネ			3	2									1	1				1
レンサ球菌A群	9		36		1	3								1			2	7
ウルセランス			1															
レジオネラ			1															
インフルエンザ菌															1	1		2
淋菌	8		6															
マイコプラズマ	12		27	1											1			2
計	209		154	2	1	5	5	14	22	10	8	16	13	1	13	4	3	114

4-3 横浜市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成17年		平成18年		平成19年採取月												計					
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者				
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	68		64		3				3	4	20	26	19	4	7	1	88					
毒素原性大腸菌(ETEC)	7	3	22	1		5	1	1	1	1		38		1			47	2				
組織侵入性大腸菌	1		3																			
病原血清型大腸菌(EPEC)	17			1			1	1		1		1		1	2		8					
その他・不明	3	2	1																			
チフス菌	1		7	5												1	1	1				
パラチフス A菌	6	4	2	1			1	1				1	1				2	2				
サルモネラ 04群	2		1							1			14	2			17					
サルモネラ 07群	10		5							1			1				2					
サルモネラ 08群	2	1	3	1								1					2					
サルモネラ 09群	2		2												1	1	2					
サルモネラ			1																			
サルモネラ			1																			
コレラ菌	3	3	3	2																		
コレラ菌 non-01 & 0139	1																					
腸炎ビブリオ	14		41							2		15					17					
カンピロバクター ジェジュニ	54		17				2	4	10		2	4			1		23					
カンピロバクター コリ	2																					
黄色ブドウ球菌	16		4	1								5					6					
A型ウエルシュ菌	24					14		9	1				76		2		102					
セラウス菌			1																			
赤痢菌	1	1	3	1	1				2								3					
赤痢菌ソンネ	7	4	7	2	1				3			1		1	1	1	8					
レンサ球菌A群	3		2	1	1	1	1		1		1			1	2		9					
レンサ球菌	1																					
肺炎球菌			2																			
エンテロコッカス										1							1					
レジオネラ	2		3				1	1		1		2	2				7					
インフルエンザ菌															1		1					
計	247	18	195	12	9	6	18	7	2	23	1	19	24	70	1	57	91	13	9	1	346	5

4-4 川崎市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成17年		平成18年		平成19年採取月												計						
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者					
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者			
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		2									2										2	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1		1									1										1	
組織侵入性大腸菌												1	1									2	
病原血清型大腸菌(EPEC)	10		9			1	1	1		1	1	1										6	
サルモネラ 04群	2		1																				
サルモネラ 07群	3		3	1																			
サルモネラ 08群			2																				
サルモネラ 09群	5		1									1										2	
エルシニア	1		1													1							
腸炎ビブリオ	13		5									1										1	
エロモナス			1																				
ブレジオモナス	1																						
カンピロバクター ジェジュニ	84		62		4	4	3	5	16	10	10	8										60	
赤痢菌ソンネ	1			1																			
レンサ球菌A群	15		10		4						1	4									1		10
計	137		98	2	8	5	4	6	16	12	16	15				1	1					84	

4-5 横須賀市健康安全科学センター

年・月 菌種・菌型	平成17年	平成18年	平成19年採取月												計					
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者										
腸管出血性大腸菌(EHEC)	14	5							3	1	1	1					6			
毒素原性大腸菌(ETEC)	48	3	4	1				1	1				1	1			2	2		
組織侵入性大腸菌																				
病原血清型大腸菌(EPEC)	12	7		1	1	1	1	1			3	1	2	1	1	1	2	15	1	
サルモネラ 04群			1			1								1				2		
サルモネラ 07群	3													1				1		
サルモネラ 09群				1								2	5					8		
サルモネラ 018群	1																			
サルモネラ 035群	1																			
腸炎ビブリオ													30					30		
エロモナス・ハイドロフィラ								1										1		
プレジオモナス・シグロイデス				1														1		
カンピロバクター ジェジュニ			1					1				5						6		
黄色ブドウ球菌			10	4	2					1			1			3		11		
A型ウエルシュ菌			23	1	7								3			1		12		
セレウス菌			13						1			1	1					3		
赤痢菌フレキシネル					1													1		
赤痢菌ソッネ	1		2	1								1	1					1	1	
結核菌			2																	
計	80	3	68	2	8	12	1	2	1	3	4	5	1	12	1	45	1	1	100	4

4-6 相模原市衛生試験所

年・月 菌種・菌型	平成17年	平成18年	平成19年採取月												計				
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者			総数										
腸管出血性大腸菌(EHEC)			9								3	1	2	2			2	10	
毒素原性大腸菌(ETEC)			3																
サルモネラ 07群								1										1	
サルモネラ 09群			4																
コレラ菌			1											12					12
腸炎ビブリオ													2						2
カンピロバクター ジェジュニ	6		6	1			4	2			5			7				19	
カンピロバクター コリ	1						1												1
黄色ブドウ球菌	4		4				13	2						3					18
A型ウエルシュ菌	3								1					1					2
セレウス菌	4		1																
レンサ球菌A群						5		8						2		1			16
計	18		28	1		5	18	13	1	8	1	4	4	15	12	1	2	69	12

4-7 藤沢市保健所

年・月 菌種・菌型	平成17年	平成18年	平成19年採取月												計					
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者										
腸管出血性大腸菌(EHEC)			32																	
計			32																	

資料3 予防接種実施状況

予防接種法に基づく予防接種は、感染症予防対策、住民の保健衛生措置として行われているが、実施主体である市町村に対して、担当者会議を開催する他、適宜情報提供を行った。

* 「地域保健・老人保健事業報告」（厚生労働省大臣官房統計情報部）のデータを修正・加工して作成

		平成17年度			平成18年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B)/(A)
ジフテリア 百日せき 破傷風 (*1) (*2)	1期初回 1回	80,085	79,626	99.4%	79,532	79,578	100.1%
	1期初回 2回	80,036	78,799	98.5%	79,408	79,062	99.6%
	1期初回 3回	80,050	77,838	97.2%	79,091	77,247	97.7%
	1期追加	80,296	72,214	89.9%	78,138	72,374	92.6%
	2期	79,918	39,322	49.2%	83,205	48,504	58.3%
ポリオ	1回	80,016	76,737	95.9%	79,241	76,581	96.6%
	2回	79,642	75,338	94.6%	79,123	72,495	91.6%
麻しん 風しん (*2)	第1期	81,545	75,972	93.2%	82,138	87,508	106.5%
	第2期	84,245	105,863	125.7%	82,349	65,751	79.8%
日本脳炎 (*1) (*3)	1期初回 1回	81,942	17,077	20.8%	83,852	2,742	3.3%
	1期初回 2回	81,374	14,526	17.9%	83,899	2,445	2.9%
	1期追加	80,984	13,446	16.6%	75,242	2,977	4.0%
	2期	76,403	11,057	14.5%	84,000	992	1.2%
	3期(*2)	71,307	5,790	8.1%	—	—	—
インフルエンザ		1,490,142	671,712	45.1%	1,539,969	670,580	43.5%
内訳	65歳以上	1,483,611	670,382	45.2%	1,528,598	669,374	43.8%
	予防接種法施行令で定める 60歳以上65歳未満の者	6,531	1,330	20.4%	11,371	1,206	10.6%

(*1): 「平成16年度 地域保健・老人保健事業報告」の統計表に、横浜市分データの掲載がない対象疾病。

(*2): 平成17年度と平成18年度では、集計方法が違うため、接種率を単純に比較することはできない。

(*3): 平成17年7月より日本脳炎の定期予防接種3期は廃止になっている。 (健康増進課提供)

4 感染症関係機関

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市衛生局保健部感染症・難病対策課	横浜市中区港町1-1	045(671)2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1	045(510)1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町3-8	045(411)7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央1-5-10	045(320)8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り35	045(224)8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町3-48-1	045(743)8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通10-1	045(847)8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9	045(334)6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12	045(954)6146
横浜市磯子福祉保健センター	横浜市磯子区磯子3-5-1	045(750)2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀2-9-1	045(788)7840
横浜市港北福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町26-1	045(540)2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町118	045(930)2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町31-4	045(978)2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1	045(948)2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町157-3	045(866)8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町303-19	045(894)6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市泉区和泉町4636-2	045(800)2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町190	045(367)5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭1-2-17	045(754)9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町1	044(200)2441
川崎市役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町8	044(201)3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町1-11-1	044(556)6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町3-245	044(744)3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延2-8-1	044(861)3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平2-20-5	044(856)3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸1775-1	044(935)3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺1-5-1	044(965)5163
川崎市衛生研究所	川崎市川崎区大島5-13-10	044(244)4985
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町1-38-11	046(822)4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町2-14	046(822)4057
相模原市保健所	相模原市富士見6-1-1	042(754)1111
相模原市衛生試験所	相模原市富士見1-3-41	042(769)8348
藤沢市保健所	藤沢市鵜沼2131番地の1	0466(50)3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉部健康増進課	横浜市中区日本大通り 1	045(210)4793
平塚市保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463(32)0130
鎌倉市保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467(24)3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467(85)1171
大和保健福祉事務所	大和市中央 1-5-26	046(261)2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465(32)8000
三崎保健福祉事務所	三浦市三崎町六合 32	046(882)6811
秦野保健福祉事務所	秦野市曾屋 2-9-9	0463(82)1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046(224)1111
足柄上保健福祉事務所	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465(83)5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467(83)4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045(201)4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044(277)1856
横浜検疫所横須賀・三崎出張所	横須賀市田浦港無番地	045(201)4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045(701)9502
横浜国立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045(331)1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎区新川通 12-1	044(233)5521
横須賀市立市民病院	神奈川県横須賀市長坂 1-3-2	046(856)3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466(25)3111
平塚市民病院	神奈川県平塚市南原 1-19-1	0463(32)0015
相模原協同病院	相模原市橋本 2-8-18	042(772)4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046(221)1570
神奈川県足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465(83)0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)